

中央婦人指導者講習会

講議録の一

# 国際連合の諸問題

—日本国際連合委員会山形部会講習会—

労働省婦人少年局

本稿は一九五〇年一月三十日より二日間にわたり日本医師会館  
の雨程これに中止せし占場皆様における講演録也す。  
講習会主持人に内原ある法律と問題について研究し、受講者にす  
つて所感述べの方々に山本へ伝えていたゞくもろに計画されにその  
での内容は次の如きの如くに記述せしに。  
これを講義題題別に分冊して出版ししよした。此の複合で開  
業の内容を明確にしよじた事益子の剪裁にします。

此圖是聖經中所載的尼希米記第十一章第十一節。這節經文說：「耶路撒冷的城門在日落的時候就關上了，人一過了城門，就必在城外夜宿。」

卷之三

中華書局影印  
明倫彙編

卷之三

ナガシマ

卷之三

卷之三

上國の春風の文庫

卷之三

中華書局影印  
卷之三

卷之三

支那の古事記

卷之三

卷之三

卷之三

四の皆様には、お前に申し上げる、財産と申し古可か、ソシタツを申せんとして、兩さまで十人、又は十四人、國税  
五合以上申しま下の事、五年間に出来てゐる同族有利の税額であります、五年前と申しまでても、五年前の十一  
月二十四日の日は正八斗課金に申します。本町の寺業でござります。左古寺、寺業で税川入リます。同所の税額  
酒と申しまでの酒、酒税額と申しますことは、本税額の上物にある事の事、税度の事も相もなく用行さ奉り、其の  
の事とを税額と申つて心ります。その下に深山の税額があるといふより、めれわ川の仲間で、同古寺での事  
目ナレ、大体アラシケン、即ち税額を廻しまりて、酒税額合向、國税有利税額である。この税額が此地の  
事、由来前の十四年十二回目であります、それ以来五年、甲余経りております、又和田、既にこの時から、吾々  
之行の川崎市税額を申します。その事と、安原の政治家河井伊勢を表つたのであります。甲子税也、大口の事  
安和田は、カコ、第一子が死んでしまひ、之和田の祀はつ取みのま、唐く所されにかの心じがれが川崎しに、少づして  
そのつゆみ度、東洋人とする度の萬に、次第耗はれてはくはつてしまひ、仍ち残るのでではないかと、此後相  
へも異して、一の久我大内より、ナリ。

「かしきが國際連合は、この法西斯の名のいふあつてや」「え？」の五年の間、國に國に國際連合の持つる大せば一つの御用事の事であつた。そのことと併存もして聞れるかと云ひます。けれども、これはもう、國際連合がいづれの國をめしで廢止しまして、今後はいつよに國をめしで廢止してから、いづれの國も廢止しまして、八年可、

## 国際連合は平和のホーリー

こう、この問題が起つてから、つづいて朝鮮動乱という問題が現れてから、あるいは、火の力で自分らしく、ちゃんとするための態勢にせりまして、國民一般の国際意識に対する関心が深まつて來りました。實はこの際では運びのあります。その前から、われくは世界卒和に本当に深い關心を持たねばならなかつたのであります。われくの住み立つたこの國でも、さればやはり東洋の波の中に、ある一つの大きな潮でありました。その潮の中に長い間の孤立狀態を脱けて参りました。日本は國が少し大きくなつて、くると世界のその他の國の悪いところを見直つて、戦争しないことになつた

三 古代の平和思想

西漢皇帝は活して一日にして死つたものではありません、長い歴史的、思想的には背景を持つております。ギリシャ、ローマの始めからもちろんこういふ思想はありました。漢洋におきましても、それより古く、いわゆる釋教の傳播した少しに至るの宗教も、佛教による影響を受けておいて、西紀元前三百年頃におけるスマラ・マギアや王朝につながるアソカ王は、當時インドに深山の國がありましてその国々を一つの國際連合で結めて行こうといふ事をもととして、平和の思想を普及し、その翻訳本などとうといふことを企画して王様がございました。時代が非常に早かつたのであります。社会の影響がそこまで行きかつたので遅いですね。カ王の理想は行われ本に詔読みました。別に行ギリシャにおきましては、やはり西紀元前二世四百年前であります。行ギリシャの都市国家同士の間にひいてある兵の戦争を止めようとする考へら、國際連合の體をつくらせる爲めもねは「あ互に武器をなくせん」をもつて、平和を持ち来るぞうとする一つの組

四、本和の理想を求めた人々

ます。アジアの考え方があるがアーテン語の由にわかつてゐるのもあります。その意味におさましてはアーティアの思想といふものは、やはりヨーロッパにおいても影響をうけてゐるといふことを言わなければならぬのです。ヨーロッパにおいて特にヨーロッパにおいて特にヨーロッパにおいて完成されたところのキリストの思想であります。このキリスト教の思想は、今日に至るまで和平思想の根元をなしてゐるよう向うが長いのです。想におきまして、大本平和思想及び平和組織といふものは完成されずあるのであります。それはヨーロッパの国々に影響が及かつて、という一面上性おござります。競争が非常によがつてから、それに対して、平和を求めるといふ希望は叫びがたかのたといふこととも言えるのであります。

で御座算算します。

その次にあげてありますアントアニ・マツ」一これはオーバーミー出陣の方で、總理大臣であつましたから、町大口軍隊に一つの平和案を立てた。それからフランスのトレスティノ公が一大口五年にナリバト教中の平和案を出しました。それは、各國が講合つて、詔令の上での平和を求めて行なうとするのであります。その次にフランスのキリスト教の修道僧でありますが、エメリック・クリュニというのがあります。このケリュニは一大口三年に平和案を書いてあります。十と十二年の初めであります。丁度秋が田で言つて櫻川の三日目であります。曙光の初期でございましょう。この時代に非常に世界的な世界平和案を立てておなります。こうした時に日本は軍国擴張を發揮して蠶國令を除し、外國とはつゞあわぬといつ後退する場合を出します。その次にアテネではクリュニが、世界平和案といふ、今の萬能連合と同じ平和案を立てておなります。この時にアテネではクリュニが、世界平和案といふ、今の萬能連合と同じ平和案を立てておなります。それから、その次にあげてございますアルソ・神、これが「世界平和について」というて、西久平和にのいてとしら本を書いてあります。これは一七五六年であります。その次に「これは非常に有能であります。今日アカ私事は、所以上の平和案を考えることは餘算ないぐらいいもので、それはガントの平和案であります。十一二月は一七九五年であります「永久平和のために」という本を書きました。

以上七つの平和案を、人の名前だけ挙げましたが、大体キリスト教を中心としたいじます。大体キリスト教を中核とする國際の平和案の序文に、どうしては、世界平和のものは、平りスル教國家だけでやつて行けるものでなく、世界の全體の國を禮め得るにはならない。そのにはおこに當時非常に嫌がつておられましたのは、ロシアであります。ロシアの國も入ればいけない。モスクワ大公リサ・ロシヤの权力者も世界平和の説法に入つてました。よく「おう一つ禮つていたのが回教であります。そこでトルコをへれる。おう一つ礼は、ヨーロッパ人には忍れず敵とする。いわゆるモンゴールおへれる。いわゆる蒙古人の王様も入れる。それから印度の王様も入る。もちろん支那の王様、日本の王様おへれるといふに書かれてあります。日本の王様をへれるといふには、マルコ・ポーロなどは帰つて場

## 五 フリーゼは先覚者

どうかこの「エメリック・クリエ」といふ人の案は、當然宗教的見地がはい、この方は、修道僧でありますけれども非常に慧眼でありまして、當時こういふ案を立てておられるは、やはりスル教國家だけでやつて行けるものでなく、世界の全體の國を禮め得るにはならない。そのにはおこに当时非常に嫌がつておられましたのは、ロシアであります。ロシアの國も入ればいけない。モスクワ大公リサ・ロシヤの权力者も世界平和の説法に入つてました。よく「おう一つ禮つていたのが回教であります。そこでトルコをへれる。おう一つ礼は、ヨーロッパ人には忍れず敵とする。いわゆるモンゴールおへれる。いわゆる蒙古人の王様も入れる。それから印度の王様も入る。もちろん支那の王様、日本の王様おへれるといふに書かれてあります。日本の王様をへれるといふには、マルコ・ポーロなどは帰つて場

まです。この人は、時にはアフリカの方にも禮はれると、いふに神聖力みによつて力を持つておりますが、まさに、そここのアフリカ、アフリカの大陸を渡して、そこから印度の王様も入る。もちろん支那の王様おへれるといふに書かれてあります。この王様も呼がれ、どうしてよつては、おへるといふことを書いておりますが、まさに、面白いものであります。

そういうふうに、フレンチ・ショーンのおこまでクリミヤといつだ烈も國家として加えてやるといふ

非常に重んじて考をアリエは持つたのであります。

余談を申上げまして世に際遇をあらわせます。大口三年にこんな案が出たあと申しますと、エメリック・クリミヤの案には、一つのナタリオルがついておりえます。それは「平和は世界平和の眞実によつて持ち運べるのだと」という點を玄旨してあるのであります。その世界平和の発展といふことを特に修道僧の人がどうつかことを考えたかといふと、首にクリミヤの肩に手を廻しにあります。

昔々、クリミヤにある王様があつた。その王様の總理大臣に非常に慧い人があつた。それがシニアスヘンス工しといふ人で、王族である日本余は日本を統治するのである。三月はのいで總理大臣の總理を處く

六 カントの本和論

たが、その原初に非常に憤慨を露したのであります。そのカントが考えましたことは、根本的に喜んでしまいます。ある日のことオランダの寒村の屠屋に泊ったところが、宿屋にはよくござりますが、いろいろと被る物を並べてある。それで、○こういく場の表面に豊饒の絵が描いてある。その豊饒の耕作は、「永久平和のために」と書いてあります。これに着目してしまって、はるほど人間といふものはたゞかねむかしを読むのはありであります。こういうよみに感動せずしてあらう。そいつものほど平和は然るはないと、そういう意味にカントは感じたのであります。たゞ、「永久平和の篇」に「一つの死は死者の靈を、安か眠りといふのであります。カントの含みは、人間が理性を失つて戦い、いかゆる頭腦にだけ終始するは、らは死闘といふものはこのまゝに死は世上から靈を消しまつしまう。お互に血で頭を洗つてなくせつてしまつるのである。しかも靈界を深く感じて、さういうことからカントの平和といふのは思ひついでのであります。大体カントの平和の骨子は、平穡系統と基本系統と二つあります。民主主義的國家を完廐するといふのが一つの大さは靈であります。カントの主義をかりますと共和制の國家とはつてします。軍備を縮小するといふのが二つの靈であります。國際連合のようはものをやることが大きな靈であります。そういうふうに自己存続に努力を以て平和を進めて行こうといふこととの靈です。根本の思想は、平和を平和自体として追求する。平和を目的として追求するといつてあります。平和がいへから平和を諦む。一例えば、歴史より平和がいへて平和はいふ。然ものがあつて人に幸福をあたえるといふよりは、何かの爲にたるといふ、いわゆる功利的は考え方の平和を進めるのではなくして、精神が常にむき出しで平和をめざす。精神が常にむき出しで平和を進めて行くといふとする。精神な在り方がカントの根本的思想として求めで行くといふことによつて、いかにもなる平和を進めて行こうとする精神な在り方がカントの根本的思惟でありました。しかし、二つは、はづかしく別離し得する彼岸の平和ではなかつて、いふことをしては平和は持ち来されないのでないが、開拓といふことを一つの本能にといふことにして、開拓に力をもつて、本末のカントの靈をもつておられるのでないのじやねんといふ考え方を今日でも持つてゐる

アリミシテ、カントの平和策といふものはそぞいの意味にねらひしは非常にわれへにいひひを今田  
一 わぬかせでいるのであります。

## 七 国際連盟といふ考え方

セ一大審界大戦等の起るべット前に欧洲協約といふことがありました。それは、イン会議を出たといつてしま  
して非常に意の中が表つたのであります。それまで日本国家と國家が商合をするといつよぎには、古の中  
は壁んでおらなかつたのでありまして、やいに会議の後にわざまではお互に国家がいろく考えて行つて  
といづめをあります。それ以氣日ーロッペで次山の会議が持つてました。その一番前に開けましたのは  
一八五年の神聖同盟でありました。主唱者はロシアのアレキサンダーであります。これがことによつて火を  
つけまし文から非常に多くの会議が持たれました。この会議によりてその機大、と十年といふものは会  
議が非常に行われましたので、この時代を経しまして欧洲協約といふのであります。そこで始めて国際連合  
といつた基盤が出来たのであります。

その機が一九〇八年から講和条約が出来ると同時に国際連盟といふものが出来ましたのがウイルソン大統領の十四箇国といふ  
のがございました。これは大体・公国会合をする、ものと合議を決める、その間に国際連盟を作つてう  
する事をウイルソンが出しました。これが今日国際連合の基にはつてゐるのであります。そしてその緊が  
要領いたしましてか一九〇八年大戦後、ウエルサム戦約といふものが出来ました。これが、戦争をして  
いたものがあります。これが非常に今日と情勢が違うのであります。ソクいう条約を締めました。  
あゆるウエルサム戦約といふものが出来ました。その年以前の一筋トツノのところに国際連盟規約とい  
ふものがあります。これが非常に今日と情勢が違うのであります。ソクいう条約を締めました。  
しまして國々と契けた國々の間に、主は戦約がへつばかり出来ておられます。ソクいう条約を締めました。  
原約が次山であります。ナウイに対する原約ハニガリヤに本する原約、スルガリヤに対する  
原約が次山であります。ナウイに対する原約ハニガリヤに本する原約、スルガリヤに對  
する原約が次山であります。その年を一括して首領のトツノに国際連盟規約といふものがござります。そろし  
てその原約の効力が出ていくこと、この国際連盟規約効力が出ていくことが、この原約の中で決め  
てその原約の効力が出ていくことになります。

られるのであります。一九〇八年から講和条約が出来ると同時に国際連盟といふものが出来ました。  
和様周到なものが同時に生れる事になつたのであります。それで一九二〇年の一月十四から国際連合とい  
ふものは効力を発生したのであります。

新月三十度り出たが、今日の国際連合の開会は戰争中に出来たのであります。そのため講和条約と平和  
機緒とは別個に切り離されに。ここにわたくしの端末がある。国際連合が出来てから五年になるのにまだ講  
和条約もできぬといひの意味はこの二つのことを切り離してどこかにあります。三十年前の大戦は二つ  
のことを一緒にしてありますから、あまりお題に止めなくてよいくらいの意味をさせます。皆様方、講和条約とくして出来ないのどう  
といづよくに感召すさじようけれども、今日の国際連合が出来た時は戰争中であります。ソクこの二つの  
は問題にねれます。これが大本國際連合の前史であります。国際連合の成立までといふことは、九三の年  
度で申上げることになります。

## 八 國際連合の成立まで

これからにはがくに、ル・ヌエヴェルの四つの自由といふことを御記憶願いたい。一九〇八年の大戦連合  
の始まります年の二月でありますから、ハーフ月早いのであります。この時「四つの自由」といふの  
が出ております。このことは非常に重要性を有するのです。これには、御記憶願いたいのです。あります  
との話は、お手本でありますから、あまりお題に止めなくてよいくらいの意味を持つております。二月六  
日、アメリカの七十ヶ国の議会に対し四つの自由を中心とする數多をル・ヌエヴェル大統領が送りました  
太西洋戦争の始まる前であります。その時アメリカはギリスやその他の國々にござります。二月六  
日がされたのであります。そして、西ヨーロッパといづちのが出来た。さてどうしうかとしの間には、  
に兵を進めた方面に下り、ベルガルダ等に平定したのであります。これら二ヶ国の間「日本では御記憶願へし

の軍事費を出すとして「高代と米宋にとましても日本である」とかして、大統領は四つの自由といふことを擧げまして、世界の人々に「これが自由だ」。この日本の自由を日本人にして國際連合が出来てゐるのであります。ヤーの自由は純粋の自由で、純粋な個人としておこなう。アーノルドは「個人の自由」と書いておこなう。さういう意味でやまくは信仰の自由といふことは確実に解釈しておこないます。例えは本に新しい自由の観念による表現であります。「私は、戦争を中心として新しく發展した自由の考え方」これは既述であるが、山川定義を拝みまことに、二つは宗教じやなし、脚の根柢は宗教じやないといふことになる。誠ひから自由になると、各國の國をよりの自由であります。誠ひから自由になると、一つより和平道筋が出来ることがになります。しかし、各國の自由はかも知れませんが、客人が各様に神を祭るするという自由とは云へてはなります。その次の自由は人々はより自由に、より高い経済生活を享受得るという自由であります。あるところの国は、余分に彩りがありそれを黄つてくれるならば、自動車を持つて来て下さい」という国があります。ある国は、一階のパンに不足している國もある。そういう中がなくなるような社会を作るのが最もよいの自由であります。これは帝國よりの自由であります。これはお互に戦争の歴史及び戦争から免かれる自由であります。これは、元の形にしてやるとか、持たせるとか、武器を擴大するものではないとか、力でどうれた政府は元の形にしてやるとか、あるいは侵略を排除するということにももちろんなります。しかしながら、戦争から免かれる自由を持ち得るといつことでござります。

この四つの自由が中心となりまして段々と進められて行きました。この四つの自由を基盤としたしまして、大英洋陸軍といふものが一九四一年の八月に出来ております。これは、ナサニエル・ヒル・ズ・エルトが率いるしてしまして、宣傳であります。これが四つの自由を基盤としております。

丁度この時はドントンがロシアに戦争をしがけに後であります。すでに古界戦争の段階に立ちろん以下のあります。この時には今の四つの自由を中心として各民族は獨立する、とか、各民族は自分勝手の政府を持つて居ると、米英、ソ連が宣戦して和平の規律を今後立てようといふ申合せをいたしました。

その次に、一九四一年にダンバートン・オークスベリヨークの例外、いふ處で会議をしました。ここで、國際連合の開幕が出来たのであります。つまり骨董が出来たのであります。ルード・アーノルドは「この場で空襲が興味」はつたと述べました。この会議では、國際連合のことや、ヨーロッパのことや日本が持つておられに行きました。いはあと三時間交渉しても敵としてはあらはいいのであります。あはに方としては矢印の連合とは云ふような話にはなりましたようけれども、とにかく歴史的には別個の会議です。太平洋戦争の終りになると、これを打消してしまった。アーノルドは「日本との戦争に入れる」という約束ができます。アメリカ、イギリスはロンドンに向つて洲はお前勝手に使つてよろしいといつたよりは意味のことと言つた。中国のほうもわざしたちがよく蒋介石に話しておるが、日本と戦争するならそのほうも俺は許してやろう。

それからもう一つ、極大的の半分は椅子が悪いからお前にやる。序でに手寫ぐらいは上げてもよいといつたことを約定してあります。当時ルース・マーテルトは椅子その腰に立して、の方は手写で書から身体が、あらうと同時に坐して就座したのであります。

これが三月初めから始つて十一日に終りました。アヘンが國際連合の本部版が出来たと同時に、日本に対する反対反戻も出来たと言わざるを得ないので、二ヶ月経過して、それから三ヶ月後、四月二十日に「聯合國に於けるアヘン問題」に於ける会議であります。その「いなほのうさぎ」といふわけでアヘン問題は、何處かから来た

香林さんは何を聞いてない。ロシアがノルマニ等の金額会議が開けるといつて東洋会の二〇七〇不成立した以上はなかく今度では費用をどうする二〇七〇出来ばれつたといふのが国際連合でありました。これが今度はどうはやらぬ。そしてそこには日本香林が自らに思われば「どうな状態を持ち重す所」に議会といふ議事場にかけて手を算んでいるというのがヤルタ会議の修正といつておきえるのであります。それとアメリカの方の西原が答えてまで承たといつては見るのです。

卷之三

オルタでどういわ骨髄が出来たので、終戦の年にアーバンカはカリブオルニア州のサンフランシスコにおいて国際連合憲章といふものの第十一回目が出来て、国際連合が出来てく調印式を替りました。このリバーブラジル大統領は同年三十五日から六月二十六日まで日本に来て、ドーナツが無理作降伏しに隨後、日本が無条件降伏せんとする趣旨、サンフランシスコ会議における国際連合が出来たのですあります。でありますから、開会式はわたくしがらいと當時中の所産でありまして、「の意味においては、まだしく改正すべき、茨城の本地を改しておきます。以上のようにして、一九四六年の大月三十六日に国際連合が、正式に開会式がおこなって、一九四五年の十二月二十九日に批准されたのであります。

## 十一 國連の機構の説明

そこで國際連合機構というものが出来たのであります。機構という字は、以前からございましたが、これ  
は大きな組織といふ意味で、その下に機関がついています。この区別などあるから結構でござるにござり  
國連合の機構であります。機会、安全保謢委員会、經濟社会理事会、それに専門委員會がありま  
す。専門委員會には、人間は専門であります。が、然るに經濟的、政治的、教育的な立場をもつておられるといふことに  
頭取する候目を國際連合が取つておるという意味であります。例えはアフリカの諸地點にて常に困  
あれは、それを經濟的に、文化的、思想的に高め行くといふ観見の候目を國際連合が行うといふわけであり  
ます。専門といふをかねば専門であります。が、實業をうけるという意味であります。その次には、法規問題  
を扱うものに國際司法裁判所といふのがございます。その次にいろいろ専門をもる事務局にいうものがあ  
りますがこれが一つの機構に屬つております。事務局には三千三百人はかり人が勤めております。この中に  
専門の方が約五分の一強であります。男子と全く平等の立場においてやつております。男子に負けなければ  
男子と同じ賃金をもらつて働いています。ことに専門の方でも外交官と同じようの特權をもつて幼いといま  
す。皆様も効率これで國際連合に行つて事務局風になられてはいかがですか。こゝでは、國語を専れで、専  
門と互換にやつてあります。國際連合にありまると全くの平等であります。専門に負けなければ  
るようあります。どうぞ一つかれど専門看護婦を抜けまして、もう三ヶ月やらい働きますと國際連合  
に行けると思います。から、今から専門看護をかいで準備しておるよう願います。

そういうこととありますて、六体その機構によりまして運営を行つてあります。この中で一番重い仕事  
をしておるの専門事務局は外交官と同じようの特權をもつて幼いといま  
す。専門事務局には、専門多くの仕事名しなけれはならぬと云々あります。専門がといふと、今の政治情勢は専門  
に切迫しております。そつとして國際連合は、平和を保つよりむちつして方止するかといふことを  
頭が一杯であります。最初と申めるよりは、専門事務局と専門の専門をどうし  
止めさせるかといふ

これが主力がたしかれております。そこで安全保育委員会といつもの担当者が非常に多くて忙ります。  
児童申請しまじに拒否权によりまして安全保育委員会は元請に適用本請に附つておりますので、今度は専会と  
いう世間の議会のようには規則にかけまして、ここで多款条により仕事を持てております。  
安全保育委員会の構成は、十一ヶ国の中、五大國が常任理事国で、それ以外は選舉されたい種申國で、みとの  
六ヶ國は毎年選舉される種申であります。これが監督権を有します。ひありますから、これは何等ござりま  
すか。あとの五大國は監督権を有するが爲ります。監督権向類は上院の变成投票があれ  
ばいいのですが、七院の中五つの國が委員会に入つては成らぬ。五つの國の全会一致という事であ  
ります。その中の一つでも反対すれば決議が成らぬといふことがあります。直隸計の二の問題は大半の  
七院うちある五つは監督権向類になりますと七院の中、五大國が常任権つて入つては成られぬから、一回で  
も々すれば決議は成らしないというのが拒否权であります。

十二 経済社会理學の重要性

十三 國連の五年の歩み

に登場して行く姿をあらわすことでありまして、早く機関の壁が壊れて民間社会連絡会が眞面目な発揮するようになります」とを述べてあります。

國際連合本部事務局の事務官たる立場で、たゞこの件を了結して終ました。その中で一番大きな問題は政治問題であります。あるいは、ペルリン問題を解決するとか、あるいはギリシャ問題、ギリシャで共産党が勝ちましたか、それもある程度解決をえております——を成程に了しました。だから印度ハキスタンの問題でありますとか、あるいは、インドネシアを独立させたとか、あるいは朝鮮を独立させたために努力して——これは馬鹿の話であります。政治的にはまだ決着がきませんが、大体大きいのはこういう問題で

経済的には世界の通商至済金融の幾方様に亘つて進歩を避めておりました。歴史的でられないほどに人さんの時期がござります。それがら人間、社会問題におこまして山本山の問題があります。その中の一番大きい問題が一九四八年に出発ました春秋人権宣言といふことをあります。これからいだしましていろいろな人権を尊重する法的網が出来たつております。それから教育面におきまして、あるいは文化文化交流の面におきまして、ユネスコーこれが經濟社會連合の問題に入つております。國際連合の事務といひたしましては、一時本にお運び貰えていたかも知れませんが、一國際連合の組織といふパシフレットが出ておりますのでぞういうことや諒了解を願いたいにと想うのでありますか。次に日本に関連してどういうことがあるかというと、武山問題がある中で朝鮮初のユニセフというのがござります。それは國際連合の事務でござります。大体において經濟社會連合が行つてゐる一つの世界的事業であります。これには、朝鮮は日本が一ドル寄与いたしますと、アメリカはそれに即ちして三ドル七十五セント寄附して、日本の一ドルは各附は結構、三ドル七十五セントになります。右よりノルマ化などの物質は今年いろいろとまつて来るようであります。これらは次の通りに政治的力です。それから國際連合は結構大問題をもつてあります。

内元は日本に於する米や小麦の割当との支拂の算定をめぐらして、いわゆる双方の貿易額の改定とか、貿易の規制とかを実現させるにはどうしたらいいかといふ研究を行っております。あるいは原産の国際化は世界保護機関といふのがやつております。又世界貿易回旋基金、国際復興開発銀行とか、世界銀行などがあります。そういう甜かい希望のことは已れゆき止りであります。何よりも、国際連合に属しまして極く難しくて自らでもござました。限りないところは單行本なども頗る出版つて、大体において國際連合の使者といふことを中止にしきお詫申上げたのであります。

質疑應答

古　たゞ、お詫び申すが、一ヶ月の平和祭の大間についてお答え下さい。  
答　平和の医薬となるために、精神医薬と基本医薬がございます。その精神医薬の中に「精神の

の感心がくじけているような平和禁制は廣の尊命として認めない」ということが第一、第二は「大小復興を問ひず既存の國境は相続や交換、奪取などに成つたりやつぱりしてはいけん。」第三は「精耕厚植第六全盛する。」第四は「國家が对外紛争についてはせらばい。」第五は「柯の國も他の國の迷惑や敗者に武力干涉してはいけない。」第六が「一國が他の國との戰争の時に將來の平和について相互諮詢をなくするよう敵対行為、例えば説教というたり方をしてはいけない。」第七が「廢帝の尊命を變改したりしてはいけない。」こういう二点が基本原則であります、基本原則が三つあります。その一是「各國の憲法は共和的なる」とを要する。」これは、カントが言う共和的といふのは唯今の民主的といふ事であります。第八は「國際法は自由な國家の眞向の上に基礎を置かなければならぬ。」といふ三つの基本條件、これだけは「世界の公民へ世界市民」は普遍的に実現されなければならぬ。」といふ三つの基本條件、これだけです。カントは大体こういふことをいつておられます。

向 ララビ全然氣の無い事でありますか？

向 暮近の新聞をみてみますと、國庫債券の見直しについて

最近の新聞をみとみますと、國際情勢の發展に伴つて来たようだ。私共不安を感じるのでですが、現行の國際情勢の變遷について——。

向、朝鮮尚處で、國務連合懇親会が三十八度目、今突破していますが、頃齊藤台の大だとはどうしてですか  
れをしたのでしょうか。

答　三十八度線といふのはもちろん人工的構造で、必ずしも法的根柢は付いておりません。それは終戦の時  
の屋台車が敵艦の日本軍の物理上の最前線として三十八度線といふのが定着した。それには何等根柢が付  
いて、事實上北に日露シナ軍が入り、南に日本メリカ軍が入りたるに於て政治上ニ付いたしまして、  
本國政府が出来た。即ち政府の占領していく地盤といふものが朝鮮に出来た。これを突破するとか、もし日本  
いとかいう問題はもちろらんありますか、これは一九五〇年六月二十七日の國務院会の決議によるものですと  
うじてその二箇か三箇で、北韓軍の攻撃を阻止し、これを鎮壓する為に國際連合の諸国は大いに協力しなければ  
ならぬからんといふのが出ています。その中で「北韓の軍隊を駆逐する為」ということの中に「朝鮮半島  
の」という字があるのです。その字は多めの多い字として挿けいつされておりますが、その  
言葉はどうぞ適用するか門から林じ、朝鮮にだけ適用される言葉であるが、北韓が食めるかということは  
實はわからぬのであります。

一九五〇年の八月になりますと、ヒューマンリーガンにソ連の大統領が出て参りました。更に蘇聯軍上陸しました。否極がソ連代表によりまして使用され、安全保育理事会は社畜が出来なくなります。そこで把否極のない支那改修を行われる場合に持つて行かなければならぬ。ところが国際連合の決めにありますと、同じ問題を理事会と理事会の二つの機関で同時に審議することはできぬから、理事会は理事会と問題をうらはらにいたしまして、新問題を取り上げましても、いろいろな建議をいださして、その機会の後議によりまして、いそいちは問題はあるけれども大本廟の民主・独立・統一を討る爲の以外のことについてね、國際連合は轉換のりかかる地域に停止まつてはならぬ。どうう覺を出した。これは宣誓の上では本質に立ち去る事であります。唯今申上げによつて安全保育理事会が蘇聯代表におつて終つたから、母界半島を保つという緊急事態を前にしまづく、つまり一つの侵攻的は柱り方として國際連合理事会が蘇聯の民衆を之の目的外には映さないといつ決議をした。その目的ならば映さないといふことであります。それによりますと國際連合理事会は蘇聯の企図に止まつて頓挫あるいはこれを反撲するヒューマンリーガンも戦略的にはできるわけであります。

問　初め三十八度線から開港を要求したので、三十九度線まで延長するものもあつたとお聞きをいたが、それ以上は、民主主義という「ヒトに自決は三十八度線以上出でぬる」ことにならぬことを何と申しますか？

答　事實上日本がやりました。文字の上ではそう書いてありませんが、その目的はうどどまつても同じで、日本以外がどう思つたらいいかんといふわけです。

問　そうすると、南鮮が北鮮を侵蝕するといふことはならぬいでもようか。

答　これは、國陣連合では一ヶ月八年の実績によりまして南鮮を唯一の合法政權と認めた、北鮮を非法政權として、南鮮に対する援助はあろしいが、北鮮に対するは援助してはいかんという總會議議決しております。そこで北鮮政府は十万の兵隊を以て朝鮮を攻めて参りました。この戦闘につきましては、別元は假軍があつた場合、退散しても又その状態があつて来る、……ということは、やはり相当違わなければなりません。そこでいうことになります。即へは北鮮が来て敵の荷物を持つて逃げた。それをどこまでも許可する。二十八度線までどあとは捕えないといふことと同じで、結果朝鮮の軍隊を持ち寄す時に日本側に何かかけられ、ならないといふかうに國聯連合は考へたのであります。その是非の論は政治的に看れば多くの誤論があるところでありましゆうけれども。

問　國聯連盟規約と國聯連合憲章の場合での諸和平約に關係あることからについて相異の点についてその

いさこつをお聞きします。

答　それは、講和が終る前に國聯連合の憲章が出来てしまつた。日本はドイツに對抗する國やがまとめてつく戦争をするという意味を含み、むち且つ戰後の軍械減備として又これが同じくされるというのが國聯連合の發表です。そこで講和してくるのですから、半相同様のものは別個の問題として取扱われるわけです。日本との戦争が終る前で國聯連合の組織は出来たわけですが、そこで講和は別に考へることになつた。國

聯連合の擧句で講和の時はからないと云ふことに北鮮が説明しているわけです。

問

朝鮮に國連の兵隊が次々入つてゐるのを、ソ連が、國連の旗と一緒に立てる事に違ひますか？

答　そういう点に対しても國連の本職が正しいとかいうことに付してどうする見解をお持ちにされてですか？

規範階における國際政治のありかたとにしまして、國際的に物を纏める場合は民主的機關によつて歸主的に決める以外に方法がない。つまり多數の意見に従つて、決議は一つの力であるといふふうにしなければならない。反対したとか反対しがたとかいふのは某議とは關係ないもので、そういう意味におきましては今後常に交渉がなされに繰り、國聯連合事と云ふものが各國の自発的行動……少くとも大半の國の中の五十三ヶ国によつて國聯連合事が創設された。而も自発的意願によつて創設されたことに對して、多数の意見に従つて決つたにも拘わらず自分自身のきうことだけ正しいといふ論理に付しまして、世界はこれに組しない。大体私としてはせういう解決を尊重するといふところに世界平和を進めて行く大きな行き方がある。そういう民主的な決議の在り方に反対するという在り方は、國聯連合憲章に判を絞したといふことではなしと想います。御尋ねのことば、「ヨウヨウに向つて、ソ連は宣傳する」という向きが多い。實はほあまり冠姓の高くなつた國々には相當考えるでしょが地圖の影響してやうにころでは受け付けてから、反対の意の反対と考えでいいと想います。

終り

『早稲田大学教授末高信講述』

## 社会保障制度の方向

中央婦人指導者講習会  
講議録の二

社会保障制度の方々

四

社會學研究會  
第七屆年會

二  
社會保障制度之投票率

## 三、現行の社会保障制度（公的機関と私的機関）

四 社会保険制度の成立と發展

五  
アメリカ綱目

卷之三

七 杜詩保慶年譜の翻訳とその批評

卷之三

卷之三

卷之三

生  
命  
深  
諭  
傳  
而  
度  
之  
方  
向

鐵而早稻田大學教授

卷之三

「私は興味られた題目は『社会保障制度の方針』という問題でございます。私共の毎日の生活は如何に筋力的  
的、精神的に立派な生活を送つて居るといふ事で、病気にはかかる場合もござりますし、又医療を受けてとま  
うといふ事もござります。要にまた、生活にあくまでも何らかの問題が生じて何らかの対応が出来  
ない、またはの際には死んでしまわなければならぬといふのが人間の宿命だござります。個人としていくら計  
画的に立派な生活を送つて居るとしても、やむなく死はざらういふのは災厄からの免かれることほ  
ど小さな付帯的な反対のことを意味し、人生最大の懸念であります。病気にはなること、生死取つてしまふこと上  
何れも極めて苦しい事であります。かたくも死はざらうが生死を二とせり、又死ぬことはこの世の中から去つて  
は革む、余後もはかなが出来ないかたうか。いくら医学が進歩しても、生死老病とは必ずあります。根  
本的な苦痛から死を免かれることが不可能であります。死にではなくてどういうふる在場合は、氣樂に生きて  
出来らるうにしたいものであります。病気はかかる所時に、食走の癒養まで至らば止む事でなく、安心  
して治療ができる、日常の暮らしだけは確保しておるものであります。病気になると、何ることは人生  
の定めで止歩を得ないのがありますから、それが日常の暮らしを確保せられれば、麻病院は満足できるのであ  
ります。しかしそれすら命を保つかうべくして難しかることで割合すれば私は本当に窮乏の中に陥つて止む事  
が、それで磨きを確保するにはどうした方がいいのかなどといふことから眞剣な問題にならなければならぬのである  
が、その點とを確保する方法として最も合理的なもののが社会保障制度があると私は思うのであります。この社会  
保障制度を講じて周辺根本的な考え方には生保機といふ思想があると言ひます。しかばねの生保

卷之三

本議事録は一九五〇年十一月三十日、日本医師会館で開催された日本医師会総会における本議題の討論を記録するものです。

議會は婦人に關係ある法律や制度について研究し、  
商習会は婦人に關係ある法律や制度について研究し、

議院に於て角田昌之が方々に上説國や敗北との如きの内容は次の五つの法律並に制度で

二枚を複数題別に分冊して出版いたしました。紙面の  
場合、複数の内頁を削減いたしました事を予めお詫び申し

題  
議  
而  
名

日本國際通商協會總會  
山形縣  
本會會長  
佐々木義重

# 田代大輔著『社会派政制度の方向』

三 勞の背の権利下りて  
明治大學放課　吾翠七

四、民法へ結婚・相続を中心として  
五、前二項の解説  
六、法政大学教科書  
七、國新編

卷之三

卷之三

卷之三

講師 早稻田大學教授 末高信

權といふのと何がちがひかといふと、猶し、基本的人權は、以降、いかにも廣く個人權として、其の範囲を擴張するにあつて參入したが、主に基本的人權の一つの項目として、その他のものと並んで、本邦人權といふと、最も多くこの基本的人權といふのは、法律が二歩を走る前に、制度が五歩と認めて前に、人間が人間に上り立てるには、必ずしも、持つておらる權利がありきす。これが基本的人權の意味だうをよ思ひます。ところで、この點本邦人權といふ観念は、頗るから卷出しておとがとへ、本邦人權には如何なる種類が歴えられたるかと、何より思ひます。ところが、基本的人權には如何なる種類が歴えられたるかと、何より思ひます。これは通常は長い範囲に亘ります。これは極めて簡単に説いて置きたいと思ひます。この生存權という觀念は昔よりあつたものであります。人間生れと未だりせめて、常に生活を送ることができる固有の權利がありきるものではないか、是も之をもあリに付といふが、是は人間固有の權利として、始から持つていいたのでござりますが、これを一つの權利として考えるようになりますと、左の後のは、私の理解するところでは、オーストリアの法律学者でありますアントン・メンガレリによう人が始めであります。即ち彼によると、基本的人權として第一に生存權、第二に勞働權といふものを教えております。第三は勞働全般權、あるいは全勞働收益權といふあります。第一の生存權といふのは、人間が生存を営む以上生きて行く権利であるのだといふ考え方、第二の勞働權といふのは、人間生活の根本は人間の勤労であります。とくに私たる生活は、食糧があること、衣料があるとか、その體いろいのな物資が調達され生産され、それらを媒介してければ生きてい行くことがあります。それら人間が生活に必要な物であるから勤労生産するところが、勞働全般權は勞働にあるのだ、したがつて人間は勤労の権利があら筈だ、といふのが勞働權といふことです。第三の勞働全般權といふのは、かくの如くして勞働の結果公で東だいろいろなものは、すべど皆の勤労による

とは、これは専か右の如きの問題であるが、とにかくはう性格のものであります。即ち著しく左翼的又は社会主義的、共産主義的な色彩を帯びてゐる批判といひます。ところが最初の二つは私穴のような西田主義の口家、諒林主義の口家即ち日本が現にとつてゐる口家の形がござりますが、どういふ社会におよぼし之も又これを認めることが出来るものであります。現在の憲法——旧憲法に対する新憲法と本同に並んであります——が制定せられる時にはまだ生存権といふものは草案の中にはなかつたのであります。が今では、は、広島大學の学長をしておられる藤戸辰男教授が主張いたしまして、一々生存権の觀念を取り入れようとはほいかといふので取入れたのが憲法二十五条の規定でござります。されば「すべて国民は健康にして文化的な最高の生活を若く权利を有する」というのがあります。生活苦愁を取引を有するというのがありますからしてその通り言えば生存権であります。しかし生存権といふのは憲法がとくに構え方を方針を定めて、

部面についと、社会福祉・社会保障及び公教衛生が向上及び増進に努めなければならぬ」といふ点に  
上に蓄かれ、社会福祉・社会保障・公教衛生といふ三つのものが並べられておりますが、その中心には社会  
安全保障といふ制度を向上推進しなければならない。向上といつてもまだ日本では――これは後ほど申すやうす  
べ・社会保障はないといふ考え方も成立します。――運営すると、現在あるところの社会保障を向上推進する二点に努めなければならぬと喜んでありますのがあります。されば  
は、この勞働権はどうはつたかといふと、勞働権は憲法二十七条に、「すべて国民は、勤労の権利を有し、義  
務を負う」という表現で書いてございます。これが亦勞働といふ普通の言葉をあざわらに避けまして、勤労と  
いう言葉に變えたりさすが、舊するに勞働の意味があります。即ち勞働の権利を有するとは規定して居ります  
す。しかし私利だけではなく義務も持つていいものだと云うことを時に規定して居ります。これは松井が日常生  
活を營んで行く爲にはどうしても先程から申しますように物が海出れば底をない。食糧、衣料等の被めり物  
文化財を含めての物がなければほほりないもの御立派進む爲には国民全般が、勤ける事の人のほうは勤らく  
といふことが運営の柱になります。したがつて勞働をも規定しようといふので、義務がどこに規定せら

れども、お門の前で、かくの如くに、アーヴィングの歴史書は、三人至人派の中、羅勃の二  
の「此等が、沙翁也」といふものは、英國の歴史の中に規定せられてゐる。さう分明確に、司公の著述は、  
されど、これは世界の歴史中でも特色のある進歩的憲法とて、公然日本の憲法を自慢するに比べ出来るので  
ばはかろうかと感ひます。

ところがここで「生得权を規定しておられる」とおのの某子がお尋ねなさるが、これは「文化的な最高の生活を営む権利を有する」という教科に対する、権利といふ時は私共の法律概念では、單に「文化的な最高の生活を営む権利を有する」のである。教科は誰が所有かといふと、私は当然「」といふこととするわけである。ところが、それでは「」が義務者であるから、どうのうか、今現在生活に堪へんとする人には何の力があるのか、あります。といふのは憲法といふものがあるかないかの意味において、いわゆる普通の法律ではないのではありません。これは憲法論にはなりますからして憲法の特別の本おおみにならか話をきいて頂いたのですが、憲法が普通の意味の法律かどうかといふことは問題であります。憲法の各章条は何れも国民の権利である法律として、目標を掲げた憲法の規定によつては直ちに国民に付し義務を負担するものではなく、どうことになります。それゆえ憲法二十五条の規定は單なる空文か又はほんとうのお飾りにあつていうものであつたのであります。國はその理想を実現するためには奮斗努力するのだといふ目標が掲げられたに行きあつて、目標を掲げた憲法の規定によつては直ちに国民に付し義務を負担するものではなく、どうことになります。

## 二、社会保障制度と折算資金

次に社会保障制度といふものが、私共の暮しを健康にして文化的な水準で保障するためには、お金が必要になります。ただ國が精神的にお住の方の生活を保障する所と云つては腰掛く可以ない所と、寒き体を温めしと露に追つて来る所がありまし、保障する所には現物の食糧、衣料を貰う所がありまし、これが調查出来る所と云ふ所のお金を使なければならぬのがあります。そのお金は天からも降つて来ない所と、又地からも湧いて来るわけではないのがあります。私共八千万人の人が元日から大晦日まで稼ぎぬいた所の総のうち、日常生活の苦しい中から一部余取り去つておきまして準備としておこなはれれば、いざという時の生活の保障をすることばかりではないのかあります。個人の場合も同じであります。私共がいさといふ時に、生活を切り抜けを行く場合には、あだやかにかぎりであります。開拓者と从軍計算を切りつめて貯蓄しておかなければならぬことと同じであります。一千円の国民から成つてゐる國においても、その八千万の國民が日給稼いだ物を全部食べてしまつたのは、いさといふ時に在るのは当り前のことである事です。従つてどうじとも國としと社會として、その禁綱を自力で守らなければならぬといふことを皆のわかりであります。であるからして相当の覺悟が、私共が税金の務め、あるいは保険料の務めをどういうお金に充てますと稍々皆時々苦しきから脱却いたしまして、何となしに生氣を回復したまゝ欣びを持つていられる所とあります。即ちアメリカから来るといふの日本本分見れば大かり降つて来たようあるのであります。さればもちろん八千万の國民が人びと一時の混脱状態から脱却して、どうやらみんなへ生息命に續ひながら暮す所がありますが、同時にアヨリカが豆がりオアの資金等によつて莫大な援助を受けている所と、それと並んで日本に運搬料金として一千五百萬ドル上りうるものがあると申します。

二月廿五日川上一矢著人體年五日復出仕のものか然アノアメリカから歸る事未だ止の前件ハ  
ありますトハリ本件社会保険をやうといふ時に、それがため坐若在金すゝて承入アメリカの銀團主附  
付で至るかと、うと、それは止めです。アメリカ側の態度アリとニヨリ立派オルが如、不平七月開港アリ  
日本は自立經濟の体制を整えなければならぬのであります。即ち日本人が食うこと、生計を行ふことは必ず  
日本人自身の責任においてやり直り相はまらね、といふことになります。完全な社會保険をやうといふが  
は何れもある期開港の二上でありますから、日本が自立精神をもつてからあります。迄方するどこの金は私共  
が積金なり保険料なり貯蓄しようという覺悟などには出来ないのだと、いうわけではござります。

### 三、現存の社會保障制度（公的扶助と、社會保險）

さて、どういう社會保障が、日本でも一應すゞあるのだ、という考え方よ、まだ少々過度のものと云ふ  
唐突なとかあるといふと、いふと互に程申しましたが、おしなわが國においでもある程度は行はれてゐる、その所  
れど、何らある程度とは、英國、アメリカ等を除くは世界的に見てもかなり遅んだ社會保障が、この行は  
ていらのと見ら」とか甚矣のびござります。何故かと申しますと、私共は昭和二十一年から生活保護法  
ト、被災の被難者等のいろはを救済放送規定を綜合いたしまして、一國民に対する恩賜開拓平等の原則が、不  
よど生活が一定の水準から頗るした人に対しましては國家が生活の保障をいたしております。今では一ヶ月  
百六十億円以上の金を支出が為に國家として使つてゐるといふわけになります。されば都道府県と市町が  
一刻も相手入れをして、実際自力では生活出来ない人に対しましては國家としであります。今は一ヶ月の  
額の現在で、いかにもさから、到底受けている人から見れば御満足は得られないと想ひます。しかし、これに都道府県と市町が  
かく日本としろは、一日本人して人間らしい嚴格の生活が送り得ると、今の被難者をして見る、如何の心は  
一朝も相手入れをして、実際自力では生活出来ない人に対しましては國家としであります。寒波二十五条の社會保險といふ  
生活保護法でござります。したがつて生活保護法がある今日におきましても、寒波二十五条の社會保險といふ  
までの手すきに行われてゐるのを、即ち國家の責任において国民の嚴格生活は保障せられてゐるのに、どうこ  
とが言えどのがあります。この生活保護法は司令部よりひがかり、貴譲否いをしてありますし、日本とし  
あります。それと社會保障と言つてあります。

では、この當時の有り難處を以て作られた制度がありまつた。これがこの生活保護法が社會保障と改められて  
少の歴史があるのであります。即ち、つは福祉委員会の他の手と経て現実の生活状態を調査せられ、被へか  
ない、お困りで困らうといふ二とがわかるまいと、國家のお金が、かりして出せないといふことになるわ  
けであります。その二は、何となくやつぱり個人の自尊心を傷けるところにありまして、受け立場が  
弓申しますれば、何となく引合區威するわけでござります。そこで、国民が健康にして文化的生活を確  
保だからして何と水放利らしい制度がほしいといふことになります。即ち福祉委員の調查など止めて、皆本  
の放利として一定の額を支給した場合は資金を貰つて生活の保障を變へたものがあるといふ勞が、あらわせ  
あります。このように条件を満足させていると、二の制度が日本でも約二十億円と前から行われてゐるの  
あります。

社会保障といふのは内容的に申しますと二十一年前から行われてゐる健康保険、それから約十二年ほ  
ど前から行われております厚生年金保険、それから船員といふ特別の人達に對して与えられる福利厚生  
の方の船員保険、更に國家公務員に対するものと之は共済組合があるとか恩給があるとかいうよう荷物度と  
して約三十億円と前から行われてゐるといふわけでござります。次に社會保險の本領について漸進に本腰し  
致しましよう。例えは病気になつて医療費がかかる、あるいは收入がなくなつて生活が困るといふ事態はわ  
たくし共として保証することが出来る。この病気にならぬ危険は、個人としてはかづか半額以上出る  
のがございますが、一百人の人間に中で一休どの位の割合が病気といふものが出て来るだろかといふよ  
う后二とは大体これを予想することが出来る。この病気にならぬ危険は、個人としてはかづか半額以上出る  
対しまして、普通の積金の外に保険料といふ形でお金を掛けおく。そのお金が準備貯蔵としてどこかで保  
存せらるゝである。そこが病気になつた場合にはお医者にかかる費用はその準備された基金からお医者に  
んに払つて頂かず、個人としては医者に対して医療費を払う必要がない、その生活に対する保険の層が高  
標準保険の大割と、うちもの生活費と云ふ風呂支給されるといふのが健康保険といふいます。この三年間  
と前から火災保険といふものが出て参りました。私共勤務によつて生活をしていゝ人達は、職場と大いに  
子二と火災保険に付つたりあるいは毛髪保険付つたりして場合と同様、否それ以上非常に大きくなる事無

から、自分がいつの間にかといふことは予想出来ません。一方人の中、十分年が過るの不景氣があるなどいふことは、集団的に見ると常習的であると予想出来るのであります。その不景氣は、多くの大業者の生産停止に對してどれだけのお金が必要であるか、どの小企業、会社に断然に撤退していき、取扱に付いてくる人、取扱に付いてくる人から保険料という形で取つておくといふのが必然であります。また萬能の保険制度を想起いたしまして私安は社会保険と言つていいるのであります。社会保険とは、内閣総理に總務省より之令火災保険であるとか、生命保険であるとかと並んで、しかし保険といふ点においては別にあります。即ち保険組合の形でお金を集めておいて、いろいろな方災厄に危難に遭った時に集めておいたお金を發済するという事は、一般的の生命保険や火災保険と同じであります。社会保険は、生命保険が儲利を貯納によって商業的に行われてゐるに對して、社会保険といふのは、一般の勤務階級を対象として、政府より公金を發済するという事は、一般的の生命保険や火災保険といふのは、公金をもつて、政府が個人を全く非常利的の方法でもつて経営せらるゝといふ意味におよましく社会保険といふのが作られてゐるのです。

そこで、社会保障といふのは二つの部門から成つてゐるということが言えます。第一は生活保護であります。もう少し一般的な言葉を申しますと公的扶助、ハーリック・アッシュスタンス上院にてあります。つまり日本の「公」という場合は日本では國家でありますから國家扶助。十三日ナル、アソ三人ターナーと全く別途に、特別の資金を保険料又は保険税といふ形で徴収しておいて、病気とか、灾害とか一定の相成の言つてもいいのかあります。一方凄に多く社会保障といふます。これは、生活保護法に定められ、国民の福利が強いのである。何故かといふと法律的にいえば保険料という形で給付を行つてゐるから、病気や灾害等がない場合に、私の家は、文はしあず、賃金もございませんといふことを何人に對しても訴える必要はない。病氣又は灾害に合つた上で、当然の扶助として恩料で還付にかかる資金の支給を生活費とする。これが社会保険といふもので、意味と大体の話してお

あります

四、社会保障制度の成立と發展

次に社会保障というのにはいつ頃、どこで行われるようにならなかったかといふ問題を採上げた上で想ひます。日本が既に由しましてさうに二十数七三十年も前から、ある意味では社会保障制度が行われて居たと断じて、その歴史を辿ればいいのだといふことがハツキリわかりましたと思ひります。しかし社会保障といふものを、もう少し明確に、新しい観念から見直して見ようといふ機運が最近幾々盛り上つて来たのがご存じなさると思いますと、社会保障といふのは八千万の国民に対する生ま死から死ぬまで、多少の差の利いた言葉を便いしますと、健康から老病まで、といふ言葉が使われることを全面的に國家が引受けたのがありますから、個人としては不得不と遊んで居なければいけないものがあるから。先程から申し上げたところがよくおわかり下さったと想ひますが、個人は個人なりに何らかの力で食うのが建設がありまます。つまり我国のよろる国家体制——自由主義又は資本主義の国家体制——におきましては憲法二十九条によると國は國民の生活を保障する上になりませうとも、國民は無事恩典を受けていた間、又树へといふ場合は、貰つたとこりの賃金は税金を引かれたり保険料を引かれたりいたしましたが、原則として自分の腰袋に入れてしまうことが出来ます。どう使はおとも自由でござります。自分の收入を以て自分の生活を送り行くことには当然のことだござります。その二つが憲法には賦課税といつづらが書かれており、これがめりめり自分で食はよくわかるあります。つまり私共の現在の社会では、貧富恩災の生活で困るのではなく、自分自身で食ひ立てる事です。餘る多くなる場合には國家が食を上けるという制度がござり

さす。わたくしにはこの矢を特に強調しておいたいと思ふ。

あります。日本の社会保障として重要な地位を占めるに違えられぬる健康保険につきましては、アメリカの社会保障制度中には何等規定するところがなく、私、約半導ほと前にアメリカに行つて、その制度を見て参りましたが、アメリカの制度と日本では、そのきよ異似をしてお效果は上らず、無意味と思ひます。補充的公的扶助といふ向國にはなしまして、予算としで二十一億ドル便つております。これは日本の金額は七千五百億円であります。これをアメリカの人口一億四千万人の人が割つて見ますと一人当たり約五千五百円位に相当すると思ひます。救済を受ける人と受けない人と別つくるめましても五千五百円位に相当すると思ひます。それで一千五百億円の金を使つておりますが、これを八千万人が割りますと一人当たり約二百五十四円位に相当しますが、アーリカの公的扶助の財源といふものは日本のそれと比べても約二十倍という水準です。そういうような豊かな社会保障基盤のまゝ、日本に持参して参りましたが、参考にはなりません。アメリカのような国におきましては、国民は第一に生活水準が高いし、第二に自己の生活に対する責任を負ふり力のような國であります。日本は第一に生活水準が高く、第二に自己の生活に対する責任を負ふり力のようないく住民の意識が違うのです。ですから、一寸弱の日本人に対してある程度の救済を與えますと、何れ起きた結果かよるだ氣が差し込むからである。日本のように鬱々が慢性であるのと全く違つたのです。したがつてアーリカにおける社会保障制度は極めて簡單な形で行はばそれが、その役目を果して行けるのであります。

こういう制度に社会保障という名前を争えたのはアメリカが開拓する以前の事です。社会保障といふ言葉はソミアリーゼキスリティー上にあります。セキスリティー上には安全にすりとへう意味で、語源的標準しますヒンテスアランス、保険という字と同じです。ところがアメリカにおいては社会保険といふ言葉をほとんど人びて使わぬ。なぜなら社会保険といふ言葉はトノツで出来た言葉であります。社会保険といふ言葉はトノツで出来た言葉であります。一方で、アメリカもかなり長い間使われてあります。ところが、アメリカとして見れば新たに作る二つの制度はフレッシュ工な感じのすらものではなく、即ちドイツが五十年も七十軍も実施していきを社会保険などとはかよそとの観念が違うので、いう延持を現力して、この社会保険といふ言葉を採用したのであります。そこで職場にあります私共日本において、社会保険といふ言葉が使われる所が右の二つあります。第一に、社会保険といふ言葉は、社会保険とか扶助とか古めからいいやむ重複を持つ言葉と通つて非常に多く使われてます。第二に、社会保険といふ言葉は、アーリカにおける二つの制度が創始された當時としては、この言葉は

被拂に付へられは、かく、古今保険の事務所にて、也相当です。也の外に、他のものも、少く、あるが、アーリカの政治家の死の時、公認書といふものがあるから、かかるに考へておられます。

エリザベス女王時代から、イギリスの公爵領の内閣が設立され、その名前から、エリザベスの時代に始まり、それが以降、度々改正せられて今日に至り、完全な公的扶助と私的ものがあり得る。同時に、社会保険というのも、健康保険があるとか失業保険といふ形にありて、一九一二年、当時のロード・ラムゼーによつて、社会保険の内容を定められ、それが部分的に、極めて正確な制度として今日まで発展して来たのである。しかし、この社会保険が新たに問題として登場するようになつたのは如何にも類似によるかと申しますと、それは今次世界大戦の一九四二年という時を回憶する必要があるあります。今次世界大戦は一九三九年から始つたのですが、その四十二年という時は、ナチスの軍隊が破竹の勢いでフランスを席捲したまゝにして、ドーベアード海傍から北洋へ入り、人々をにらみつけ、それで直撃、大爆撃をしてしまつて、そのような戦争中でござります。そのような戦時に、いかにも商不景気人の国民は勝利の信念を堅持して居たのであります。それが、その時に、不戦戦後復興に関する問題を著書する大臣といふものが任命せり處であります。戦後復興に關する問題に責任を持つところの大臣として、一九四二年から、クリンカッドは、その職務に対する戦争半島の當時から第三講じなければならぬという動作で、いかにも命止めました。クリンカッドは、今回の戦争は一大帝國戦である。従つて勝ち抜くとしてもドイツやイタリアーから赔償を取ることとは到底出来ない。どうすると英國としては直面するところのものは国民党の政策で、それを実現するためには、いかにも研究委員会を設けたのであります。しかし、アーヴィングといふ学者は、研究委員長として研究を進めた結果を総括したのであります。そこで、一九四三年七月八日から報告書が内閣に提出されました。

のあります。それでおしまして國民的感激が鼎り、國家的感謝の感情が見えたのがあります。イギリスは武  
しきしこは、われわれの現在の戦は侵略者に対するものと二つの防衛の戦いがなるが、又同時に人類解放の戦い  
があり、更に又國民生活確保の爲の戦いがあるというのであります。則ち戦いの一つの目標は、戰勝の  
イギリス国民の生活保障にあるのだ、というのがアリツチ並びにクリンウッドの思想であります。誤会は  
その報告書を取上げましてそれに基りと法律を制定し、四十五年から逐次実施をして居るのであります。先  
程私が申しました「生れてから死ぬままで」とか「搖籃から墓場まで」という言葉はこの時使われた言葉がで  
ざいます。アーヴィングは從軍から公的扶助の制度によつて國民生活の最底の線の扶助は國家の責任として行  
かれ此の間、社会保険も並次実施せられた今日の發展までとて、最早世界に留むる發展までとて其のとおり  
です。しかしながらそれらの諸制度は時代々々の進歩に応じて出て来たものがあります、それらの間に隙間が  
あり、保護を受け得られない期間保護が与えられる國民の層がある。今これを地ならとして統合的に全の  
の範囲に応じ、全國民に於し社会保険制度を実施しようじやないか」というのがビッグアリツチの考え方であります。  
そのビッグアリツチの考を採用して、從軍からある諸制度を整備統合して完全な制度といいたしましたのが、こ

イギリスの社会保障制度の内容をなすものの一は児童手当であります。これは二十八才未満の児童に付けて、毎月五シリンゲの児童手当を支給するという規定であります。子供出生も、ということは國親の扶養があるか否かを算定する責任は國家が負担しようではないかといふのが児童手当の意味でございます。それが何國家医療事業という制度が社会保障の制度の中の一部門として持われてあります。この國家医療事業は四年三百萬の全国民に対して完全に医療を無償でやる。医療は國家のもつと別受けてしまつたというのであります。

それから社会保障制度の第三の部門は公的扶助であります。これは昔からあつた救貧法を全くモダンナイ化して制度化あります。それから国民保険制度が社会保障制度の第四の部門を占めて居ります。これは終老国民が收入を失つた場合に、その弱酸に対する社会保険の方策を以て老の人に最初の生活の保障を各々の最後の保障の保障の線は全國民に対して均一である。これは、國民の生活に対する國家が責任を負ふべき部分は日本の憲法にも書かれてあります。その國の最低生活が満足すべきあります。それと應える部分はタレタの

國民が自分の財産を守らぬのは民間の保護法しかなく、隕石で大きなものがある。國民が財産を守らぬのは民間の保護法しかなく、隕石で大きなものがある。國民が財産を守らぬのは民間の保護法しかなく、隕石で大きなものがある。國民が財産を守らぬのは民間の保護法しかなく、隕石で大きなものがある。

たが、ここでもう一つ、ロシアはどうしているかといふ点に觸れたいと想ります。ロシアは一九二一年から下度三十年計画から、社会保障といふ言葉は使つてあります。社会保険といふ昔の言葉を嫌つておあります。非常に完全に、非常に完全に、少くとも計画としては又公表されてゐるところのレポートから見れば、非常に完全な社会保険制度が確立されるのがあります。しかしロシアの社会保険は、これこそ完全に社会主義に完全な社会保険制度が確立されるのがあります。よつて一元的に計画、管理、推進されるのがあります。したがつてあらゆる企販は國家があり、労働者、被雇用者、被雇用者といふ國民といつて、ものは國家に対し労働を行つてゐるわけがあります。どういう事業部門にどれだけの人間を使ひ、どういう種類の生産を推進して行くかといふことは、國家の肝風にありてのみ決定する。その結果出来上つたとこらのものは全部國家が管理するわけがあります。それで日常生活にどれだけの食糧、衣料、あるいは金銭を与えらかといふことは、國家が一方的に決定するのであります。この國家の決定に付して形の上では民衆が参加することにはなつております。といふのは誤会。ソヴエト會議は民衆の監督に基くところの議員によつて構成されたもののもろぢれども、そのうちの多くは、民間の意志は反映していふわけがござります。とにかく國民に対する、どれだけの生活水準を許容かといふことは國家の一方的意志において決定する。したがつて社会において生産されたもののうちどれだけのものを販り除へどもか、病気あるいは老齢に障つた時の生活にふり向けるかといふことも國家任せであります。國民にどれだけの水準で生活をさうか、どれだけのことを準備のために使うかといふことはすべて國家の意志によつて決定するのかござりますから、したがつて日々營繕苦惱が忙いといふ人の生活に比較して病氣又は老齢になつた人——それら、病人や老人は車に勤務といふ處から申しますれば、病弱になつた人、人間のスタッフである——どういふ人達に対する、どういふ生活を許容するかといふことは、國家が決定するわけがあります。りくそ資金を社会保険の名にありて別に積み立てることとは、國家の全体的計画の一翼として行われてゐるのです。これららの施策を申しソ連にも本社会保険があるのだとしても言えるのがござりますが、これらの施策は、既に既に本と云ふ資本主義の國家、自由主義の国家の社会保険と全く姿が違つてゐます。

而上して私が就職は昭和四年から終戦までが主で、今のは社会保険法の新規化で、また社会保険の法につきの部門を主とする社会保険のあるものは昭和二年からあるものは昭和十三年からと、いうふうにそれが施行されても居ります。かくの如く社会保障の流れそれが部門は主の度の戦争の前から順序に行われてあります。それで、かほりの発達を遂げて居り、世界的に見て最も多く見劣りのするものでは有るのですが、これは私共としては、終戦前の時代、明治、大正とうして昭和の年代……、昭和法時代の日本を積み重ねてから徐々評議する、過小評議をする事がござりますが、恐ろしく下する連邦政府は、これが社会保険が行なわれたいたわけがござります。ところがこの社会保険といふ問題は終戦の後にはりまして時代の潮流を沿ひ大きくな問題としてクローズ・アップでこれで来たのであります。しかるはされば、これが頭からおろすかと申しますと、私の記憶では昭和二十年の秋であります。即ち終戦後の秋であるが、ヤシカーサー元帥から日本の政府に対する、軍人恩給停止といふ指令が与えられたのであります。軍人に対する特別の恩給の大特典を与えることは終戦にいられないという事であります。即ち終戦後の秋であるが、ヤシカーサー元帥から一つの目的は、侵略戦争の材としても推進力であった軍人にに対する懲戒であつたと思ひます。更に第三の目的と考えられることは、およそ生活の保障といふものは依然差別平等の国民の権利として行われなければならないといふことです。こういう意味で、軍人恩給はこれを終戦に停止せよという指令が与えられたのであります。そこで困ったのは日本の政府であります。もちろんソーダム宣言の受諾によりまして日本は新たな不本意の国家になつたとは言ひながら、當時いにしきしては西軍が五年もの間戦場で苦労せりまつた軍人の歸路に恩給を停止することは今さ御苦勞のかけつけばなしでは有りがとう感情が残るのであります。指令だから仕様がなり。そこで厚生省があつたと想ひますが、私共五、六人のうちいうことの専門家の収集互会が何と云ひうないものだろか、いい智慧を出しでくれ、軍人の諸君は非常に氣の毒になつたけれども、どういふうのだと云ひました。ところが軍人恩給停止の指令に対するそれを裏切らよう対策を講ずるといふ上に柳々同僚つて居ます。その上、無差別平等の原則として国民生活を保障する事には司令部は云々しろこれと援助するといふのに、軍人だけを憚ふかしようといふのは不可能であります。そこで、国民全體立場を考慮はうじやほれか、ということとなつたわけであります。ところがその当時農山

信に日本上じては生産力は低下し、実力は后退といふわざで、財界実業家の方策の樹立も日本人参りであります。

その当時私共二、三人の学生の間ではビュアリッジの報告書を入手し、読みて居たのであります。ナトリウムでは、一九四五年の終戦の直前に社会保障制度が制定されたのであります。この社会保障はイギリスとレーティンガムの死ぬまでの生活保障といふことがイギリスでは行なわれるようになつたといふことについて日本本の識者は認識を持つて居たと同時に内閣でもあかつておりました。そのように本の報告書ども、二のイギリスの社会保障といふものについて認識をもつたわけであります。全国民に対する日本としても、この構想の確大があり、新たなる立場から国民生活の保障を行なうものだといふことを理解して居ました。そこが軍人恩給停止は、止むを得ないとして、われわれの行人へき道は社会保障以外にはかかることに居つたのであります。併ししながら光程から申しましたように、戰後混亂した社会と、当時の内閣の実力を以てしましては全国民の生活の保障の如き到底夢にも実現できないといふのがおこりましたのであります。その翌年一、昭和二十一年に居りますと、インフレの昇進の他のいろいろな制約から、健康保険とかあるいは厚生年金保険といふもののタガがかかる人で、それはどうぞとしないといふ懸念が生じて來ました。その責任をもつ大臣になられましたが、一を中心として、委員会が結成せられたのであります。顧とおして、これが引きしめ難く突破する為了に社会保険制度調査会といふものが出来たのであります。私はその委員会もありましたが、会長には今の國会圖書館の金永徳次郎氏一一直線に選出されました。その責任をもつ大臣になられましたが、一を中心として、委員会が結成せられたのであります。第一の仕事は國も古く終りましたが、第二の火災保険の問題につきましたは、

この年間もほんと昭和三十二年でござりますが、一月から防衛省が原生省から分離して、福島の省立の方にあります。そこで傍聴者の平始めの大仕事として調査会の結果として大震災後とつて直立こうといふのがあります。昭和二十二年十一月より実施せることになつたと想うのであります。そういう意味を私自身今がも傍聴にありまする大震災後調査会、阪神震災調査会等に開催してあります。それから第三の仕事は、社会保険制度がござりますが、この仕事の中心になられたのは先程私が挙げました鹿児島県公文部大臣になられたり、今では広島大学の学長をしておられます。私もその社説に参加して、社会保険制度を立憲したのであります。昭和二十二年の十月に發表された案がそれがあります。ところがこの案は、今日になつて考えて見ても非常に直派な案があります。その当時の国民所得は「約一千億円」と考えられておりました。今では二兆七千億というのか日本の国民所得であると推定されております。この国民所得の一兆一千億円のうち、私共の構想いたしました社会保険制度を完全に実施するには一千九百四十五億円あります。その結果の国民所得は「約一千億円」と考えられておりました。ところがこの案は、ギリス的でありますと、全国民に対する生活を保障しようというのであります。三千二百億円ばかりの金を使つることは出来ませんから、実施の段階を六つに分けで順次やつて行うとあります。十二百億ばかりの金が課るのかあります。即ち国民所得の約三割の金を使つことにあります。ところが私共は莫大の金を使つことは出来ませんから、実施の段階を六つに分けで順次やつて行うとあります。三百億円の金を使つることは出来ませんから、実施の段階を六つに分けで順次やつて行うとあります。第一の段階は極めて簡素な形で始め解説が漸次再建せられるにしたがつて次第に複雑化され、大段階で完全実施をやるようになって考案されて居たのがござりますが、厚生省でありますか役所の厚生省が甚だ不十分でありますと、つまり世間の注目を惹く爲に「二人を立派な家が出来ました。但しお金は五千二百億円の金を使つことは出来ませんから、実施の段階を六つに分けで順次やつて行うとあります。」と云ふ発表をしました。この発表を見た世間ではこれを学者の机上の空論として非议づけしまつたのがあります。ところがこの案は学者の空論どころか実施に当たりましては六つの段階に分けたといふことからちゃんと書かれであつたのであります。そのことは世間にあまり知られなかつたというが、當時の経緯がござります。

その時から社会保険制度が既々世間の問題となつて来て、今日のようす勧告案が出来てきただけであります。

### 五、アメリカ使節團の勧告

先程末、日本では社会保険が社会の問題になつて来た契機となるのは何かといふことについてでお話をしありましたが、また申したように、社会保険制度調査会の第三の部門におきまして社会保険制度というものが構想せられたのが昭和二十二年の十月頃であります。丁度その当時同僚ではこういふ勧告があつたのがあります。

それは日本を平和的、文化的国家として再建する為には、国民生活の保障というものが前提條件にはならない。そこまで謂ひて公教衛生福利局といふのが司令部の中に設置されて居ります。略称いたしましてP.A.H.W.と書いてあります。この公教衛生福利局では、日本における医療問題、又は生活保護制度の運営、或いは社会保険の改善等につきまして指導しておつたのであります。それが始めは社会保険局長のオルトマイヤー氏が自ら同僚として来て、来るといふことになつてゐたのであります。オルトマイヤー氏は都會がつつかないといふのが、ワシントンの博士を中心とする五名の調査團が昭和二十二年の夏から現にかけて日本に参つたのであります。その推進いたしまして社会保険制度にまつて高めることにしまして非常に大きな関心を持ち、アメリカの本國から特別の使節團を迎えることになつたのであります。それが始めは社会保険局長のオルトマイヤー氏が自ら同僚として来て、来るといふことになつてゐたのであります。オルトマイヤー氏は都會がつつかないといふのが、ワシントンの博士を中心とする五名の調査團が昭和二十二年の夏から現にかけて日本に参つたのであります。この勧告案は昭和二十二年の十二月に終えたのであるが、非常に重要な問題であるといふのがアメリカの本國と日本における司令部の間に懸念が折衝、連絡が行われまして、その結果として日本政府に不渡されたのが昭和二十三年の七月であります。その結果の最後の終止は私自身が責任を負つたのであります。この内容は多方面にわたり、理解する前提は譲りであるといふのが、譲りはとりかつりました。昭和二十三年の十二月頃にそれが出来たのであります。それが日本政府としてまずその報告書を充分理解しなければならないわけであり、理解非常に拡大するため、四大密版約四百頁の大変な報告書になりましたのであります。それを上台とし

この方の研究してあります。先ず日本の社会保障制度を構成する所には、内閣と同様の地位上場の審議会を設置し、次にたゞましてはいろいろ研究審議の結果、案が出来ると、内閣はこれを国会に提出する。この審議会の設置を政令等で行うことは、弊する。一つ法律で行なうのはないかとの如きが、昭和二十三年の審議会を認定するべきでありますか、お役所仕事は万事非常に又口々モニヨリスベリキシ。委員が認定いたしまして認定したのは昭和二十四年一月年の五月があつたと思ひます。

## 六、社会保障制度審議会

この審議会は起業以来約一ヶ月前は、研究調査等の堅硬的の仕事に没頭して、社会保障制度の全体的構成には着手して居なかつたのであります。内保方面の要望もあり、かたかた意見を聽めることになり、結果、本年の五月から急速に問題が進展いたしました。六月には議案といふものが出来たので、これが、此の議案を一應国民にお示して、その反響を打診したい。英語が申しますとサンドする。反響をさることりあります。國民立場からすれば、何らかのものがあつたので、これが、字を使います。その結果いろいろな意見が出て参りました。即ちその公聴会には、労働組合を代表する二つの總同盟又は種別であるとか、その他の關係團体として、運輸会、歯科医師会、薬剤師会、經營者連盟等々、ほとんど日本の重要各團体が全部その公聴会に出席いたしまして、意見を述べてゐるのですが、す。その意見は、概ね要望の意見もありますが、あるいは單なる私益、自分の利益を主張するという文が多めであります。先程私が申し立したように、社会保障は、全國民に対する生れながら死ぬまでの生活が保障せられる結構の上なかなか制度であります。これが天から降つて来るものでもなく地から湧り出るものでもなく、自分達の力でこれを創設し、推進して行かなければならぬ。それが爲に費用資金と物と日本国民が自分で調達して行かなければならぬのがあります。ところが公聴会では、保險料が高額であつたと考えられます。

そこでこの議案の概要を述べなければならぬと思います。この議案はかなり野心的などころがござります。端を立つて二つあります。第一は基本原則、第二は社会保險、第三は公的扶助、第四は公衆衛生、第五は社会福祉、第六は戦政、第七が放課の保護、第八が運営機構等とばかりあります。これが第一編では基本原則として十個の原則を示しておりますが、この基本原則はかなりお説教的であるといふ意味にあります。國民の間にすいがん本評判がございました。二、三の例を挙げてみたいと思ひます。

目的といいたしまして、一、社会保障制度は疾病、負傷、分娩、癡疾、死亡、老齢、失業、多子多女の方の扶助における精神的援助とするので、國民はその責任を自覚し、本制度の維持に必要な個人の社会的義務と果たなければならない」というのであります。これは完全に國民に対するお説教であります。このお説教が一番本評判がありまして、ことに關係方面からは、本制度は社会連帯の精神を保護とするという主義が、英語では、社会主義的な感覺が非常に出て来る。即ち社会の力とが全体のうちに組合によつてしめられ、これで居らといふ意味にとられるのであります。力の如くしてこの制度そのものが非常に社会主義的であるといふ批判が一面に立てられて來たのがあります。又ことに後段の部分は非常にお説教があります。本制度の維持に必要な社会的義務を果たすければならない。これは完全に國民に対するお説教であります。このお説教が一番本評判がありまして、ことに關係方面からは、本制度は社会連帯の精神を保護するという主義が、

はこの文部省立文部相談会に見ますと公的の個人の自由が保障せられて、社会主義的のもののみならぬかの扱子風を有えたのがあります。

第四に保障の原則として、本制度による保障の下で、その国民が持象として、公平で、機会均等原則を守らざるを得なければならぬ、と、いうことが掲げられて居たのでございます。とくに自衛がこれによつて著しく実現せられることには、第七の原則——社会保障の向上——いう項目がござります。本制度の整備拡充と、これによつて保障せられる生活水準の向上は、國民経済力に依存するので、國民は常に生産の増進に努め以て經濟の發展を圖らなければならぬというのであります。これが軍事的修養道徳のいましめとして書かれるとすれば、社会保障の実現とは少しは意見異なる。たゞ社会保障制度といふものが國民に対して修養道徳を講義する権利があるかという意味にありますと、二点がやはり議論の出でたところがあります。とくに問題になるのは「生産増進に努め國民文化の發展監視をせねばならない」であります。國家が國民に強制して、強制的または譲り受けた生産の増強をやるのだと解釈されるのがあります。

## 七、社会保障制度の勧告とその批判

右に述べたように二の第一編の基本原則については、議論も多いし、お説教に満ちてゐるといふのが、一層のこと、これは必ずしも止めてしまはうといふことにならなければ、即ち三の後会第の十月十六日に総会を開いて試案を大幅に修正して、政府に対する勧告といふものを決定したのであります。そして三の勧告の中には、二の十ヶ條の基本原則といふものは削除してしまつたのか、といひます。

さて、二の全体の構成から申しまと、「一体社会保障といふものが社会保障と公的扶助から成るもの」といふことは私が先程から申上申した通りであります。ところが公衆衛生と、社会福祉といふものが「一体社会保障の中に入る」かどうか、問題であります。憲法二十互條の第三項では「國は、すばとのは活動面について、社会福祉、社会保険及び公衆衛生の向上及ぶ増進に努めなければならぬ」ということが書かれてまして、公衆衛生と社会福祉とは、独立して別個のものであつて居ります。社会保険は公衆衛生、社会福祉は公衆衛生である一つの制度の一つ、社会保険といふやうに公衆衛生の社会福祉は入る之外のものであります。以上は憲法の解釈から来る社会保障の意味があるが更に實際問題として、これを見ると、社会保険といふものは、一体厚生省がやつているのですべての行政を引つくるめたものではあります。社会保険といふのは國民が貢入を決う、「先程申しましたように、生死老病といふいろいろ人間の苦痛がありましたが」ところが云ふとはこれから脱脚するることはできぬかあります。今後如何に科學が進歩しても人間が死なないようになることはできないと思ひますし、病氣には絶対難らぬいといふことも亦難しいのがあります。それから、年寄には絶対立ち行けないが、いつあわれわれが二十五才か三十才で居られるということは不可能であり、いつかは老人になると云ふことは生物としての定めであり、運命である。そこで、それらのものは、何れも無論苦痛であるが、一番の苦痛は「貢入を決うと生活が出来なくなる」ということがあります。そして、この貢入を決うことの苦痛は私共人間として、社会として解決し得る苦痛であります。その解決を試みると、ころの制度が社会保険であります。即ち、「貢入の不足からの自由」という言葉が使われて居りますが、専がないとは言ひませんが、国として、医療の充実といふ仕事は必要であるが、それは各自別個の問題があつて、われわれの問題即ち社会保険とは自ら別個であります。貢入がなくなつた場合には、その貢入を國家として補助を見るのが社会保険アドバイスの仕事であります。ところが例えば厚生省のやつているすべての行政を何でもかんでもこの中にさういふことをいふと、商口のみを抜けるといふことにになります。いたがちに商口を抜けることは制度をすつさり抜えて行くという立場からはどうかと思われます。こういう批判が成立するから、公衆衛生は自ら別個の立場で構想せらるべきであるという考え方があるわけがあり立ります。しかししながら、公衆衛生においても、社会保険においても、公衆衛生と社会福祉といふものが、どううに入つていいかあります。即ち社会保険開設審議会といったまことは公衆衛生と社会福祉といふものが、の立場上に見えて立場立派つたのがあります。

この健康保険に関する一連問題でありますのは、医療費をどうして払うか、という問題であります。被保険の健康保険並に國家公務員その他の共済組合におけるあ医者さんに対する支払の方式とて、一案更に方針というのを採用しておる。私も健康保険の被保険者であります。早稲田大学といふ眼鏡の被保険者であります。が、病院には名とお医者さんに雇る。初診料が一。今は自分で拂拭ことになりまして、四度。東京では、支度十一円といふことに付けていますから、四度か初診料が四十円は自分で払いますが、一。あとは算代も、診察料も全部健康保険が拂つてくれるのですがあります。それは直接私の手とこちらは出ませんが、保険料として支拂つておいた金がお医者さんのほうに、診療報酬支払金庫というところから拂われるのであります。お医者さんに雇れば、来個いくら、診察料いくらといふ勘定書を拂つて、それに対して支払をするというのが普通の扱り方ですが、それと同じように、健康保険に手とても算代として診察料いくつというふうな分明

に吉田君のほつめの医療費の請求書が来た。それに対する私の返事は、吉田君の医療費の請求額が支払われているといふ方式が、医療費の算定額へ現在でなく「一回」五万円で、計算された額が支払われるといふ方式が、その実際には算定額でありましても、別な言葉で言えば出来高払い方式であります。つまり必要料だけ、かかってただけお金をねらう。だから皆様が健康になつてお医者に往来すれば健保保険のほうからもお医者に支払がなゝのがあります。患者があれは、それにかゝつただけ支払をするという二点に付るわけがあります。二点は一般的の喫茶としてはまことに普通の取扱いになりますが、その結果として真心的にやつておられるお医者以外に中には医療診療といふもうよう居ることが行われる。つまり、その二例は、打ち出さないでいい医療費支払うといふような二点があります。どうせ患者の多くは病院でかかる費用は、どうぞ、注釈を一つ打つて置きましょう。一といふのに付し患者は、「一では頑います」という二点に付ります。私共があと二つから払うのではなく、からお医者の言われるまゝにやる、もつと云ひのになりります。診察をしてしまつたものを、差上げたようにして請求永なさるお医者の方も極く稀にあります。よいよお医者さんに付しましては、不正診療、不正医といふいうものが毎月のように摘発せられて居ります。そこで、この見といたしまして、その原因は、一、算定額と超出率高いの方針が問題つてゐる。云ひう事にあります。およそお医者さんは生活費収入に保障する即ち月給制度に付ることが何より重要であります。そして良心的で賄て頂ける方式がないのが、吉田君のところ。この月給制を採らなければ、かくとも医療人頭式で行くべきであります。医療人頭式といふのは今イギリスで行かれないのでこの制度がありませんと五十万円といつもののが、私が病気に罹りうと罹りまいとお医者さんの所詮となるのであります。月にいまして、預防につとめます。それでも病気になつて参りますけれども、懇切丁寧に診療致しますが、医療診療そのものは、お医者さんは、私共が医療は也存いと、いうことになるのがあります。その他の制度がイギリスでは行われてゐる。月給制

度と違う夫は、どうかうこにはありますと、どうか別の方法で人間が手をとれ、不器用だと、  
ては寧ろ月給ではない。被保険者の人の数によりまして收入が増減するのでありますから、懇切丁寧に患者に  
は対応されねばいけない、う制限が与えられるというののがイギリスの取扱いのやり方であります。日給  
制度が登録制度にすることが今日の社会保険診療の不明朗を拂拭する唯一の方法があると私は主張するのだが、  
ござります。併しこそら、この私の正しい主張は採擇されず社会保障制度審議会は依然として一投票権方  
式を堅持しております。第二に、先般並に貴族に対する保険制度でござりますがこれがやはり被保険者と一般  
国民の二つに分れております。被保険者に対する保険料は現行の制度においては賃金に比例して取られてゐる  
のがあります。この議案なり勧告案にござりますと、保険料の中の半額は固定額でありあと半額が賃金に  
比例するということになつております。それが年金の開始は六十歳ですが、女子には五十五歳ということに  
はつてあります。男女を区別することに対して御婦人の皆様はどういうふうな感想を持たれか、あとで考  
ききしたのであります。アメリカの制度でありますと六十歳が年金が貰える。――平均年金がアメリカの  
ほうで、年金を低下していけるのがござります。これに対してアメリカは何故同じく六十歳を規定してい  
るかといふと、その第一の理は男女施設平均の建前であります。國民の平均年金といふことから申しますと  
男女共に六十歳あります。ところが日本では、男子は六十歳から年金が貰える。婦人は、五十五歳とい  
うふうで、年金を低下していけるのがござります。これに対してアメリカは何故同じく六十歳を規定してい  
るかといふと、根柢の一つはここにあるわけがあります。不公平の立場を甘受して、女子の年金が早くへ五十五歳  
びし開始することは皆様おせんに思ひますけれども要するに實に年金主は男子は六十歳  
私失男性は平均年金が女子よりも低いのがござります。男女共に年金の開始をするべきである  
べきでおかせるが、女子は五年早く前にすることによってなり、及つて女子は著しく不利なる立場に立つと思  
います。私のこの見解にも拘りずこの議案におきましても、男子六十歳が女子五  
十五歳が年金が貰えることになつて居ります。そして年の年金額は純利平等であるとして一千円、次に子  
供、但し男子が年金者であれど、年の額は五千五百以上あるのは年金者が男の夫が六十歳以下

上と云ふ問題をもつては、年金一千円、不供一人、二千円、五石田七十五石の所から、本かの方法が二人の方と云ふこと大なると月額四千円という年金が誰よりも得するのであります。然つて今ヨリ月給一万円に比附するのも、八年間不あつた人も年金を貰う場合には、同一であると云ふことになるわけあります。二  
障制度は最も生活を保障するのだから、といふのであります。ところがイギリスの方式は、一方發ける年金が均一であるのに對し、支ねる保険料も總体均一とあります。即ち年俸の権利は年俸の義務によつて、というのがイギリスの觀念になります。ところがわが国の社会保障制度、即ちにありますと、出す保険料は月給比例の面面があるので、受けれる年金の額は總対年俸にと云ふのであります。これは国民として納得できぬ、はどうか、といふ点を一つ皆様方各自の立場で吟味していただきたいと思ひます。申しますのは、この勧告の内容はいい部分もあるが悪い部分も跋扈あるのであります。もし国民の財務方が納得できなければ、まだ改正の機會は二回あると思ひます。第一は年俸の議論でこれを決定する場合の修正であります。二つのは、國務の最高責任者——大元帥の國務の調節を關する最高責任者は内閣であります。それと内閣は社会保障に関する關係審議會を設けて、今機会中であります。審議會が出した勧告案を検討中であります。第二は、國民の要請で、これを修正する修正であります。これが第一の修正であります。第二は内閣における時に、議院が一票を投せられ、參議院なり審議院なりの議員に附さかけ、大いに興論を喚起して国民の望ましい社会保障制度を作らせてあります。それが第一の修正であります。御承知の通り新憲法に書ききしては國家の主權は国民にあるのであります。國政の審議機關である國会は、國民の意志を反映せずしては出来ない筈であります。されば、國民の望めども國民がお下賜していなければ、そののはなくて、國民の要望によりまして、國民自身の欲求と、國民の要請と、結集して終りければならないものであります。それだけに國民はきびしこれに當りなければならぬ、つまり安易に堅持で、誰かが持つて来るのぢろ。自分でこそ保険料の保険料を出るのぢろ。自分でこそ保険料を出るのぢろ。

すことは眞本二め人だといふ所を云ふ日の二の制度は出来ない。国民自身が作るには本らねといふのであります。

つぎに國民一報に対する建議並びに療養の保険につきましては、議案では、將來保険制度に施行するが、専分の間は無理出年金で、即ち老病のための保険料を出さないで一報の税金にてつて貰われる年金——制度をやろうといふわけがあつたのがあります。ところがこれに対しまして、私は議案の時から總括反対いたのであります。それは無理出年金はよいが議案のような内容では困るのです。即ち議案では七十才から年金を開始し、しかも月額千円です。若の上生活保護法と同じように資力調査をする事いのれ、資力調査とは、救急至賑費とする程度に資力がないかどうかといふことは民生委員会の他の手を経て検査するといふのがあります。それは年金の額が決まります。それで七十才以上の方にほつてあります。七十才以上の老人に対しましては月千円の年金を差し上げます。但し收入があるかどうか前途検査いたしますというのは依然として條件についていきます。

この勧告案は、社会保障制度議会の声明によりますれば、總体実行案が直ぐ実行することを政府に要望して居ります。ところがこの勧告によると、この國民年金については、國政の余裕があるならばこういう年金制度が望ましいといふことがあります。されば、この年金制度は畢竟甘い希望に過ぎないのがあります。されば、この年金制度は畢竟甘い希望に過ぎないといふことは、日本の中にも、漸次の無理出年金の規定が決まります。七十才以上の方にほつてあります。ありませんから、國政上余裕があれば望ましいといふのは、やはりにならぬ空騒がしいといふことです。次に國家扶助という項目であります。これは今日の生活保護法が殆ど空のまゝ入つておりますというのは依然として條件についていきます。

また省略いたしました。次の次の公衆衛生といふ項目にかぎらずは、医療施設の充実に重大位置づけたことは大結構あります。このため保健所病院の整備が図られる所とあります。人口二十万リーフの保健所が、三百九十九個の整備する所とあります。三十万人口の所とあるところは整備する所とあります。

人の衣服不足で多少の困窮がある。少いが少くあります。物語はあるから、それは結構な事

であると思ひます。今日の財政から申しますとそれが大体家として直ちに実施出来るかどうかといふ

につきましては多大の疑問がないとは言えないのであります。

それからその次に公衆衛生の一節金として結核対策特に更上げております。御承認が通り結核は日本の国民病とも言わざるところの大問題でございます。そこで、結核に對しましては療養費医療費の原則は國家が直接負担するとかの構想がこの中に入ります。

次に社会保険のところで房りまして勧告の内容を検討したいと思ひます。勧告の中には失業保険とが本筋に於て保険に立場から改善をいたしております。たゞ本業保険によるところの医療の給付を次第も継続するというのであります。これによりまして従来医療すると同時に健康保険から附れていたうといふ不便を被ることができるのであります。その他の点において大体現行通りがあります。則ち失業保険は次第に対し六ヶ月間給付を受けることになりますが、これを現在の厳しい世相に對応する爲め、その期間を例を以九ヶ月又は一年半に定めとかいうよう原要望も出たのであります。かくいう場合では取入れられ、現行の失業保険制度と兼營災害保険制度が大体そのまゝ補完の一部に採り入れられたのであります。と之が社会保険のうち最も健康保険の部分は非常に纖に入り細をうがつた東と立てられる居ります。そこで政府がやつて居る健康保険を県県がやらせることが決定して居ります。私としては失業保険は依然として全国統一的に政府がやることを許し、健康保険だけを解体して、存続をやらせるのが、その眞意を理解し得ないものがあります。

さて最後の結論としてこの二点を順序立てて思ひます。社会保障といふのは、流程が下申しますように、生れと死を除ぬまじめの生活と全国民に對して保障するのを、大変結構なことがあり、又それは堅苦する必要性は今日の日本はまだあることはないのがあります。しかしながら、これは金が要り、物が要る程度であります。その金や物をアメリカから援助を受けるといふことは今後はあり得ないのかあります。今までは、流程申しますように年額一千五百億円くらいの援助を受けていたのですが、カリオウの資金

金もイロアノの資金も返却しておらず、なかなかは調和條約の框架にまた戻ければなりません。ところ貰つたままの金があるといふことが有ると思ひます。そういう大金は今後は賄給できはしないのだと、いうことになると、社会保障のための資金も、これを自力で積み出しえばければならないのあります。そういうお金が必要のありますから、一方私共の最優先生活を国家が保障してくれることは右難いけれども痛し痒しがあります。どの程度まで保険料や税金として負担を受けるといふことは今後はあります。今までは、この点が問題であります。余り大規模な、即ち國力が弱くて、貢供不相應な社会保障のための保険料、税金の負担により今日の生活が栄養不良になつてしまつ日本では意味がないのがあります。即ち今日栄養不良にならぬ、程度の負担を以てして保険料として割り当額によつて社会保障の弊は定まるのがあります。これが實際必ずかかること題であります。国会なり何なりが国民の総意を反映して作る以外に手はないと考えるのになります。

さて最後に都市を実施するための金がどのくらい要るかといふ点を吟味したいたいと思います。試算の時には、児童手当を出すことになつていいのかあります。しかしながら日本の今日の国策の中では、絶対必要なことは何かと云ふと、これはアメリカにおいて常に問題にせらる論議されて居る度でござりますが、人口問題の解決があります。日本人が一ヶ月増えるのがどうにもならない。一年に四百六十万を三百萬も増えるといふのは、如何なる計算を以てしても、国の資源内に国民生活の保障するとは極めて不可能であります。次に資源と人口との割合をカリオルニアと比較して見ようカリオルニアは日本の種民の一億多かつた所であります。人口に対してもカリオルニアは日本より多くあります。日本の一千萬の住民が一千二十三万、カリオルニアは一千五十九万、合計七百万都合にあります。ところカリオルニアの面積は大体耕地に適するようになります。人口は日本の八千五百万人に対してカリオルニアは一千五あります。その一千萬の住民が一千二十三万、カリオルニアは三千九万平方キロ、一千五十九万、合計七百万都合にあります。ところカリオルニアは日本よりも耕地面積の広いところを農民として耕してあります。したがつて彼等は二毛派とか三毛派などと云ふことは夢にも考えません。三、四ヶ月か、五年の間の平均劣勢はつまりまして取り上げた成績によります。年中収穫と喜びと、回収率

自動車でアメリカ合衆国銀行と通つて、ある種の形でアメリカの農民の苦があります。日本の國土の方においで約四千石あります。しかし日本人は半耕稼から、どう高い生活をともないといつても六千万ということがあります。こういう旅りと、ころへ八千石以上も生息するといふ現状では、今日私共の生活の水準以上にほかで何上させることができないのであります。これを毎年、今日のよう二百五十万も二百万も増える。六、七年あるは七、八年の間に一億になつてしまふ。生糸保障の如き、商人の夢に過ぎません。何とかしてこれを減少させる。少しも増加を止めなければならぬと思ふが日本人としてどういう覚悟があるか、どういう方法を講じていらかと、いうことが私共日本人に対するアメリカ人の異常音の廣間でございます。これに対しまして財源中總額の地産兌割限の方法が必ずしも異法でない。國家が之を獎励してゐるわけではないが、違法でないといふところまで至つて申しましてもなかなかアーリカ人は納得してくれないという程度のものがあります。現在日本においては依然多くに上か、現実には生活窮乏の一つの原因があることは論はあります。これがイギリスのように四千二百万の国民が少しも殆ど増加がない、だから何とかして人口増加の方策を必要とするという時に、児童手当は全國的にあります。いよいよ人を増加に拘束をかけるといふのがわたくしの見方でござります。そこで現実の勧告案の中には児童手当というものは姿を消したのです。

さて、その勧告案の線でどれだけのお金が必要かと申しますと、今日の国民所得は二兆七千億円五八千億円見ます。これが實際節度五千億ばかり過大評価である、實際は三兆三千億くらいの国民所得が妥当であるといふことを申しますが、ともかく安本におきましては今日では二兆七千億円と見て居ります。この國民所得のうち、勧告の銀における社会保障にどれだけのお金が必要かというと、二千三百九十九億円であります。約二千四百億円がありき。即ち國民所得の9%。割額のための社会保障を使ふばけれども、國民所得の9%。即ち農民四千万と労人四千万の收入が約九百四十億円あるが社会保障のため、保険料や税金として別勘定を残してしまふと、そこにはもう九百四十億円あります。

さて、それから國家財政といいたしましては八百八十六億円というのをあります。八百八十六億円といふことの程度のお金であるかといふと、今年昭和二十五年度の國家財政は八千六百億円となつてあります。これに対しまして八百八十六億円といふお金は一割三分くらいに當ります。即ち國家財政の中の一割三分といふ金を使ふ、その極に地方財政として百九十二億円というものの負担が別個にあるのがあります。だからいひではないかといふお考もあるかも知れませんが、しかしイギリスにおきましては医療は全部無料にして国家と地方といふものは併せますと約一千百億円といふ財政的負担をこの社会保障制度によつてやるるなつでいたり、全国民十八才未満の児童に対しまして一週五シリングの児童手当が與えられたりしてあります。といふのでござります。この國民所得並びに國家財政に對する比率はイギリスと同じくらいであります。だから、なお亘つ國民所得の一割、國家財政の割一、二分にあたつているのがあります。日本では國民全体が窮乏でありますから、イギリスと同じ比率の負担をしながら、イギリスよりもはるかに簡單な社会保障しか二五・九億円であります。だから社会保障制度をこの勧告の線で実施すると、その際に國家の財政負担は五百三十億円といふ額額を覺悟しなければならない。

ではアメリカはどういうふにほつといふかといふと、社会保障のための國家財政の負担といふのが四千の程度であります。日本が現在の制度の下で司令部のセセッションによりまして社会保障を実施するに当りそれがための國家財政の負担は總額四分半位だつたと思ひます。即ち三百五十五億円といふのが社会保障の費用であり、國家財政が六千六百億円といふことになります。ところで現行制度の下において國家財政といふことに対する比率と、日本が國家財政における社会保障の金の比率は大体同じようになつてゐたのであります。今まで四分の、あるいは四分五の国家財政の負担に對し報告の機では、これが一割三分くらいの国家財政の負担となるといふのはあまりにも大き過半のものがなから、これが一番重要な点であると私は考へてゐるがござります。

（松） 厚生問題として残りますのは、私共の国民的希望と申しますが、希望代替ソシテイとの上院議の現状の  
立場からいわゆる国民生活の問題といつておなじことと読み合せて、この勧告といふものかいの程度実現せらるるべきであろうかということと共に、もう一つ問題にあるのは、ヨーロピングルから、日本政府におしるえられた勧告と、審議会で行いました勧告とは大体において似てはおりませんけれども又いろいろの点において相違もあるのであります。この相違が日本現におかれていたと二つの國際的環境におきましてはどう取扱われるべきであるかということはかなり大き后面題があるのであると考へられます。皆様方さういう處につれて充分御検討の上御希望なり御意見といふもののが國民的に結集せられる場合にどういうことをお願いお祈りいたしまして、私の謹慎を終りたいと想ひます。

# 労働者の権利について

——福井大学教授 吉澤光復講述——

中央婦人指導者講習会

講義録の三

# はしがき

目次

序

本稿は一九三〇年十一月三十日より三日間にわたり日本医師会館で開催された中央婦人指導者講習会における諸講師の講義記録です。

講習会は婦人に關係する法律や制度について研究し、受講者によつて所属団体の方々にも広く傳えて頂くよう討議されため、その内容は次の五つの法律並に制度で、これを講義題目別に分冊して出版いたしました。試験の都合で講義の内容を削減しましだことと予め御了り、四、労働法のあり方、いだします。

## 講義題

日本國際連合協会理事

講師名

質疑応答

## 国際連合の諸問題

早稲田大学教授

講師名

質疑応答

## 社会保障制度の方向

明治大厚生教授

講師名

質疑応答

## 労働者の権利について

一ツ橋田大厚生教授

講師名

質疑応答

## 民法へ結婚相続を中心として

明治大厚生教授

講師名

質疑応答

## 新教育制度について

お茶水大厚生教授

講師名

質疑応答

## 二、労働者の権利のなりたち

# 労働者の権利について

一、講大厚生教授

質疑応答

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百九十

一百九十一

一百九十二

一百九十三

一百九十四

一百九十五

一百九十六

一百九十七

一百九十八

一百九十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

明倫彙編

に物語られていて、たとえば、女五さんを探しにセイ立と引取付といふうなことになります。それで、おもむろかんでさう長い時間、しかも云わゆる虚偽の評価を頼むのが當時の状況です。

たとえゆ・美辞麗句を並べて工場の生活がいかに楽しいものであるか、工場の食事はこういふよつて良いとか、休日は心事一隻商に一團あつてそのときには支度をみるとことができる、といふようなどと云ひて工場生息を美化して、農村の子女を誘惑して引渡つて来る。しかし、工場に入つてみると前にいつ夜のような苦しい生活が待つてゐる。しかるその当時、農村の子女はいわゆる人窮鬼貧のようでゐる工場へ売り渡さざれたります。子女を工場に送す代價として遊蕩者の右から木スの手を離れて農家に前借金が渡される。しかし、この前借金は索取つたが最後、資金ひそり借金がなく手こするまではその女工さんは工場から親元へ帰ることはない、織ら昇格が苦しくても、場合によつては病氣になつても、その借金を返さないで金をなくしてしまはずでは、帰れないといふ仕組みは学つてゐる。

しかしもその前借金で云莫は農村の親元に支々入るわけはない。赤スが中に入つていわゆるビニは引きくらひをすから、親元が要求りもしない資金まるが工場での血のにじむよう盗難めによつて得られだ資金でなくしく本まれるといふ仕組みがあつたのです。

さて、私はそういう当時の女工さんたちの生活の仕方、幼き方を育さんにお詫するためか目的ではあり、一休せういう状態の下におかれを当時の勞働者、またそれを代價する女工さんたちに、特別ヒツビテよう年齢の方が、果して易り得ぬであらうかといふことが問題なのです。

あらまち五左衛門、朝九十九郎、佐藤義徳の当時の女工さんたちの立場の中に、農村などといふ立場では全くなかつたといつて差違えなし。当時の女工さんたちに負けたわけではありませんが、既に現れたりをせん。

そこでわれわれとしては、当時の労働者がなぜ反而てう考え方をもつていなかつたのであらかじめ、それを三つめて考えてみる。今日の労働者たちは、労働の権利といふ権利をもつてゐるが、それを十力で理解することはできないと考える。なぜ权利と云ふ考え方がなかつたが、はづいて私は二つ、原因、理由があつたと思う。當時、労働者が農村から工場に入つて本店といふ事情を考へ合せて思ると、農村の生活といふものは皆さへも、ご承知のよう非常に封建的な性質なるのである。封建時代の産業の中心は機械であつて、從つて農業といふものはどうしても封建時代の遺風を伝えてゐるつまり、農家の生産を中止、自分個人の权利を持つという地位にはあるけれども、決して家長に対して、あるいは農家の家族全員を統率しながら農業生産を廃止、從つて家族の一家員は、今日である意味ではどうですか。全く家長の命令に従つて働く。彼等は自分の労働を提供する権利、被等は守らぬ運営的な思想を持つて清算することができない。今まで家長の命令に従つて労働しているが、今度は経営者の命令に従つて働くことを切りかえられるだけのことです。

尊するに農村に封建時代から傳來していき封連的を堅持が、当時の労働者に权利といふ意識を起させながら、根本の原因の一つであるとは考えるわけです。

第二の問題は、今日のあつゆる労働問題の云わば日本にふれる点ですが、いわゆる經濟的の問題です。當時、農村からの都会へと労働者を送りこむ農家の立場を立つて考えますと、もちろん工場に自分の娘を送りこむなればならぬ。農家の立場、經濟といふのが苦しいものであつたことは言うまでもない。

従つて農家工場に出でていふその資金で、なんとか農業經營を維持して行こう。せめて農家の食料持を断約

じよ子、といふ点から、自分の子女を工場に出でてやるだけでも、今まで育てて来た農家看、つま

り農業資本家の立場をくぐつてみると、もうろん資本家においては、なんといちがりがある。經濟力の大さい裕富層、金も庄屋、地主も帶び、いわゆる資本家であるところの裕富者と、非常に昔じい家計の中におかれているところの農家、或はその一員として今や工場に送りこむよつとしているところの農村の子女との經濟力を比較してみますと、ヒツていた刀打ちも奉たむならない。そこで、いざ工場に入つて働くといふ場合にも、最後まで經濟力の準りがあるのを言つてくるわけです。ヒツカは、農家ほど少ししても自分の子女を工場に送らなければ家計が保てないといふ非常につらい立場であるので、工場は自分のところの子女が働くことであることで、どうやら経営を保つてゐるわけですから、おしせこの工場に出でた子女が、たとえほくびを切られて農家に歸るというようなことがありますると、經濟的な打撃を受けることは言うまでもない。そこで何とかして農家、特に農家の一員として親や一族を助けるヒツカ立場にある女工さんたちは、たゞえ最初は若しく、賃金は安くとも、できるだけ長く工場において農家の家計の助けをしようといふ立場にあります。

## 2. 労働法のあり方

ところで私は、明治時代を中心にして話を並めてはまづけれども、経営者と労働者との間のこうした力の差といひうものは、英して今日でもなくならぬばかりか、ある意味ではますます拡大して來ている。

明治時代の経営者と今日の大資本家をくらべますと、さういふ經濟力は非常に違う。もちろん、當時の労働者の生産と今日の労働者の家庭の生産との比較して外れず、今日の女工さんたちの立場が、なんとかして工場にしがみつてしまつて、女工の賃金が高づつてゐる。工場の賃金と女工の賃金の比率は、確かに労働時間もさへ、じつう場合に、明治時代には非常に長い時間が長い。賃金の比率と、この二点が

金で、それをもつてはましに、要するに安堵したりはましまして、うえ特が労働者の貢献を支拂  
していきのうです。せうりうかの邊りがあまびけうとこうに労働者の方は言い方にことも言えなくなり、古事  
ろく労働者としては、賃金は畜け裏の商ひに越してはなし、労働時間はできるだけ短くことが望まし  
い。ところが、その労働時間も遅くしてくれ、ということを嘗々と要求できまじいのが  
勞作者の弊味です。そういうことをもし要求したにし業すと、経営者は、お前はせうりやからしいことだ  
と言うをらんびが、ほかにもつと守り賃金でもつと長い時間働く労働者を雇付けてくるから、お前は明日から  
人手に困はぬ、と言ふが、労働者はこれに対しても、くづ切りは要するに、経営者としては自らにで  
きるわざですか——解雇を恐れて、自分の度りをりごともあざむくなつてしまふといふ力場にあらん  
といふのです。

さて、いま述べた二つの原因、つまり、経営者の吉子ことではなんでも違うといふ結果的実験結果から見て、  
廢つてはいることと、失業するよりは寧ろ労働條件の劣化にておつ是方が得をとる關係から、自分の要求を  
十分に主張することができないといふ二つの原因から、労働條件、つまり賃金とか労働時間といふものにはだ  
んだんと下に下つて行くという傾向を示せりわけです。  
つまり経営者としては、なるべく安く使い、長く効かし方を得るがから、労働者がいかにも山積入りして  
いるが故り、経営者のこうした要求を行ふ事態とに至る。もちろん今日、わざわざの日から長い時間、  
守り賃金で何かせると、労働者が病院になつたり、怪我をしたりする率が多くなり、また雇用も低下して  
長い間で見な場合は、経営者全体、或は資本家全體の立場から損をする、ということ左判つてしる。  
まことに今日は、経営者自身も安く使い、長く効かせめ一東張りではなくて走り出るが、それにしても經  
営者としてはより多く儲けたいといふ努力が、個人としては並無的で経営者であつて、労働時間と賃金  
し、賃金を低下させると、この点に少しある。

セラリラ映鶴の力とて昇進の権利などといふ気持が出てくる余地がなし。以上を要約しますと、一つには、封建時代以来、裏から身分で認められた人間の社会性である地位が保たれてゐる。

その身分に応じて各人同が社会生活を營む。個人の衣類などといふ點で見る時は別だ、男の君は弱い貧弱的で規範あがれているためだ、自分の衣服等を表す上にも豈張りではない。衣服という意味を持つことすら内から非常に困難だという二点が言えます。

「うなぎを食つてす」が、非常に重複など一二二三の言葉で、今日のあらゆる努力回復の木  
「うなぎ悲鳴を勞れ者の生を守つて、うなぎ事ができるか」ということだ。ここで、今日のあらゆる努力回復の木  
イントですしません。ここに労働法上いう法律のねらい、どころもあるわけですが、  
ここで先ず考えられるのは、國家の立場です。個人の生活を保障する立場である国家としては、なんとかし  
て努力者の立場を守つてやかなければならぬ。現在はわが国でも、明治時代からうなぎ法律を保  
つて、そういう労働の労働者の立場を守ろうと努力してきをわけです。たとえば明治の末期には、工場大ヒ  
いう法律が云々で、これは女工と年少者の保護を中心として、労働時間制限し、危険工作業からの解雇等  
うとしていまさし、その後毎日の労働基準法に至るまで、数多くの法律がこの線にそろて收められて来てい  
のです。

さてしかし、うりは吉さんにもえて良  
とがでぬかどつか、といふ問題です。

とができるかどうか、と云ふ問題で、  
というのを、たゞ庄子場法で、や否に對しては十二時刻以上のかしてはならぬときめをいたします。庄場法  
では經営者に尚つて女手は十五時刻以上のかしてはりかぬと命令し、それを違反したら处罚することになつ  
ていますから、左の如く努力者の立場がそれだけよくなる。保護されることはリラクでもなり。  
今日の男労基準法では、更に進んであらゆる労働者に對して八時刻男労働制を守らることにし、國家の設け  
た民間の監督の下にそれが施行する。もしこれを守らなければ相当處罰を加えよう。リラクので、運輸公  
男労働の生産はそれだけ遙く保護されることになつた。  
しかし、私はこれだけでは決して根本的な解決にはならないと考えてゐる。それは、いわば心配の増  
量であり、既に商業を走る車両の数が多過ぎることで、決して問題を根本から解決することは出来ないと思いま  
す。しかばね、どうしてこの問題を解決するかヒーラー、問題を解決するのはやはり当の根本車である男労  
働自身の力で解決してほかないのをす。

つまり房物春が自主的な算額で手を離さず、常に外の組合員を離さないし、房物春の手元には、常に会員登録簿が置かれていて、それこそ十人十色というわけですが、しかし、組合運動について云ふと、房春がいう人を定義をしていて、それこそ十人十色といふわけですが、凡て房の組合を定義づけておまけに、こう言えるのではありかと思う。

自分の身の振り方を自分の力でつける運動をヒカルとしているのです。こういうふうに言いましても、これはこれは秀才組合の走りとしては少しあかしらしくないか、秀才組合ヒリウチの資本家が相手の斗争にて、資金の値上がり、秀才時間の短縮なりを要求し實現するための組織で、つまり秀才條件を高めて行く上での運動公昇組合運動か。秀才者が自分が自分の振り方をつけあうとするまやさしいことではあり、また左翼の理論家にさわせれば、秀才組合運動は階級斗争の一への手段だというに違ひなし。よろしく、ハサウエー

しかし私は、明治時代の男爵家の立場、當時の立場は非常に複雑でござるものであつてには違ひありませんけれども、しかしそれは絶対づづめて言ふに足る立場かがぜの生活であつたということをいかが言えどもではないか。つまり男爵時間が長いとか、賃金が幾のビリヤードに達するなどは自分の要求は勿も云わなくて、たゞ經營者の云うなりに従ひていだといふのが明治時代の男爵者の中では存りか。そういうふうに男爵としての場合は、人間として甚だ不堪なり状態である。つまり自分自身の上の娘を自分の手で連れないといふような生活、また、自分の生活を自分の力で守るという精神が男爵者にないことが、その当時の男爵者の生活が世人間に想ひをもつて根本の原因ではないだろうか。人によつては、資本主義、經濟という制度を原因とせめ、資本家と男爵者との階級的对立は必然であるといふことであるが、この問題を説明しようとしていますか、私は男爵者の気持ちの中に自分の問題を自分で片付けるといふ考え方があるが流れでい在りつたことが、あらゆる男爵問題の原因を診断せざるを得ない。

卷之三

もちろん房竹君は一人一人では苦労痛口から、自分の身が振り方をつまらしく云つてお、一人の房竹君が盜賊のところにぬかけて行つて、賞金を高くしてくれ、房竹君は悪くしつても困るようかなります。かり向違えばくびになるのがあちです。

をけ水はならぬ」というのは当然のことです。  
なぜ、男仇姫合連戦と云ふと、弓の君の方に想すかといふことはぐくへん、いふべき事題  
を考へておわからよううに、男仇君が東に寄つて經營者に当れば、經營者も筋筋男仇君の吉川介を尊重せらる  
を得ない。ことだ、山ざという場合には男仇者にはストライキヒラ快家の宝刀公勇りまオカウ、正当な夷

い分をきかなし場合にはストライクの考え方、ストライクの範囲が十分でない場合にアーリーインを打つ場合など、それで、男の組合と切ら男の者の困窮に対するは、経済者あらかじめ其をなすこととするかけられかねし立場にある。

こういうわけで、要するに男的組合運動といふことは、つまり所仇者が自分自身にて手で争い、争つた結果を組合として経営者との間に對等の立場で太刀打ちしようこうとしたことは、實は所仇者の中に女形という女将が生え最初の動きだと改ば思つ。

やわらかさであります。しかし日本敗戦後には施設整備にストライキが行われ、半ばは女工さんたちがストライキをやつて織つ花菱錦も織つてあります。

うものの本体は向かってうし、私はせんぬ道筋を二つではないと思ふ。  
ストライキというのは、つまり今までの運営者の命令に従つて行動するが、その限りでは  
が悪い、局の所固が長過ぎてやりきれない。自分が安くてだまらない」ということ。ストライキが起るには  
遅いあります。この警告のストライキと書いたときに、今日のようく組合という組織がなかつたから、局の

君が苦しむ生活は耐えられないなうて、どうか懇願しておまへま同じ不平をほんの少しあつた  
ライダをもろに打つた。今日の組織的ストライドの原因ではありますか、との流すの裏にまだがめらと書  
いますと、資金が守られてゐるとか、労働時間が長くて年一ヒューリックがストライドの原因ではありますか  
それを念入よく振り下げて考えて行きませんと、労働者は自分たちも労働条件、資金、労働時間の方に但馬労  
者の生活に直接關係のある事場のことについても書く在荷ちだい。今迄のようだ、労働者くるりになりたばき  
らなりといふ氣持、労働者たる職場生活の中で取扱が與えられなければならぬ、労働者一人前の労働者と  
して振つてもうれしくは困るという氣持が、秦の古事記時代のストライドといふどもその胸にはひせめられ  
ておつたと思う。

そういうふうなわけでありますから、組合運動にしろ、或は団体力の發揮して経営者との直面交渉するど  
う場合にしろ、まことにいざという場合には体家の能力を引摺いてストライドをするにしろ、どの程度はげど  
にあるかといふと、労働者も一個の人間で、人間として何故に自分の懸念が封せられてしまふか、これが自  
身が抱つてくることなのです。

労働者の中に、自分の生活を自分で切り替へとくう意識が目覺め立った、初めて 스스로走り、組合運動が起つてくるヒューリックに想える。

尋ねるにわたくしが今日労働者の取扱いという言葉を使つた場合に、皆さんは一体労働者の取扱いとはどんなもの  
があるだろうか、その中身はどんなものであるか考ふるにしよが、その場合に新規開拓なるに至つて  
そこは並べてある取扱の種類や内容を理解し易くなる。労働者の取扱がほんとうに個々に近づかうと思ふと、  
決してどうでもない。もちろん皆さんが、現在労働者がいかなる取扱を與えられたと云ふ事は公認  
され、また私も後で、どんな取扱が労働者に與えてられるかを、よく簡単に説明しておきたいと思ふます  
けれども、問題の中にはそういう知識を首さんか得られるといふところにあるのではないか。然しそうい  
う取扱がどこから生えてくるかといふ根本を理解すること、またその取扱を正しく使つためにはどうしな  
くいけばかという問題が、首さんなどつてはもつとも重大で、大切で問題ではないかと思うのであります。

### 三、労働者はいかなる権利を持つか

ひるがえつて現在の法律、制度の立場に立つてわたくしは、労働者がいかなる権利をもつてゐるかをしらべ  
てみましよう。

労働者の持つてゐる取扱といつても、労働者が労働階級といふ一つの階級を有してゐることは確実ですが、  
しかし國民の一員として労働者も國民の中の他の階級、階層と同じようだ。したくな取扱を持つてゐるわ  
けですから、ここで問題にするのは、とくに労働者であるヒューリック立場において、彼に與えられたある取扱  
の内容をみて行くことにします。

こうした場合に皆さんが憲法を聞くなれば、労働者にはいかなる取扱が與えられでいるかといふことは一目瞭  
然、ことに憲法の二十七條、二十八條の規定をご覧になりますと、そこに労働者的基本的取扱が列挙して  
あります。

二十八條を要ますと、そこにはゆる三つの取扱が労働者のために與えられてあります。いや、與えられ  
あるばかりでなく、労働者がめに奪うべからざる取扱として宣言されでいるわけです。

これは私が説明するまでもなく、労働者の团结する取扱、团结を強して経営者との間に交渉を行う取扱

体行動する取扱、つまりストライドその他労働行為を行う取扱であります。

そこで憲法二十八條は基本的取扱、労働者が労働組合を依るといふ取扱つまり自分たちの仲間に交渉を行ふ取  
扱の団体をやるとこら権利、その団体を通して労働者との間に交渉を行ふといふ取扱、その交渉を自己の力  
に有効に展開させるためにストライドなどを行ふ取扱、これらのが利は労働者に保障するといふのが憲法三  
十一条です。

これらのが利をわざくは労働基本権と呼んでいます。私も一般國民のための思想の自由であるとか、思  
想移転の自由とか、集会講社の自由とか基本的取扱が認められていましたが、二十八條は労働者といふ清  
別な立場に立つ國民の階層とのみ限られた特殊な基本的取扱を認めていたので、労働基本権とわざくは  
名付けておられます。

(3) 何故に國家がこれらの権利を守るか、守るために何をするのかといふと、それは

報酬的、これあるからね、これが報酬するまである。

先日、言いましたよろしく、原作者は労働組合の手を通じて、また団体交渉権を中心としたもの、自分の立場を労働者に向つて主張せざる。一人前の人に同じして自分の身の振りを自分でつける立場に進んでゆくためには、労働組合運動を通してほかには方法がない、二つを併せてみると、憲法がこの四つの

権利を労働者に保障したこととは、原作者に一つの立場として自分の身の振りを自分でつける立場に進んでゆくためには、労働組合運動をしてほかには方法がない、二つを併せてみると、憲法がこの四つの

行動によつて自分の運命を切離れてゆくしゆう立場を労働者に保障することには、それが最も効果的であります。

もう一つは、憲法二十七條、ここには、すべて国民は労働の権利を有す、義務を負うと定められております。

要するに労働ことは國民の権利である、ということを意味があります。

おちろん、ここでは労働者のことをとくに言つておらず、むしろ労働者たるものは

要するに、労働しなければ生活できまい労働権限にうその外向性を示す力です。

そこで、一体労働権限を持つといふのはなぜか、というと、平つて、この文章を読みますと、労働者は労働する

意味があり、また労働能力のある限り、必ず職場が與えられなければならない、という意味になります。

おほくも宜いましたように、労働者の最大の権限は、被が生産するは食べられない、生活ができない、といふこと

とです。そして、この弱い立場に置かれているところとが、職場における労働者の権限は、被の一握の立場とし、この終章に對する最大の原因であるといふことをあわせた場合に、労働者が職場を取らなければ、被が職場と

自由に獲得することができないけれども、これは当然自明のこととおもつて差支えない。それが

にこそ憲法二十七條は、労働者は労働権があるのだ、おちろん急け者や職場の選擇を考慮するうる不履行

は、職場から解放されても仕方ないでしょ、ナリとも、いふしくも自分が労働しないといふ意味を持ち、し

かもそれだけの十分の能力を備えているような労働者であるが、その労働者は職場が與えられないと、うなづきがりで、あわてて労働者に職場を確保するといふ基本的な方針を採用するに、労働階級といふ

ものは、使うことひで、うなづきといふ鬼方があ、憲法二十七條は、労働中の労働者の権利を有する。労働

者をは労働組合運動の元にし、あることは、職場の運営に中止権を有する、この点をいたしまして、他の立場への見せしめ

たい人向にはどうしても職場を求める権利があるのだ、という思想を表現しているのです。

さて今日われく、水、労働者の権利という言葉を使ふ場合に、この四つ――固若权、団体交渉权、専武权、及び労働权、この四つの権利が労働者に與えられる。

しかし、この労働者は、被等は財産のない無産階級ですか、財産によって生活を保護されない、左を被等の効率が居られるという點に四つの基本的権利はあります。これが根柢に、わたくしは所有權――わたくしの洋服とか力パンとか家とかいふものはないが、所有していよいよおどりで生活をある程度保障されてゐる。一人がわたくしの着物を持つて持つて行つたり力パンを盗みたりする、わたくしはそれを送してくれといふことを当然請求できます。

要するにわたくしはわたくしの所持物に対して前有權を與えられてゐる、それを職場で守らねばならないことを安心している。わたくしの生活はその限りにおいて保障されている。

ところが労働者は、被等は財産のない無産階級ですか、財産によって生活を保護されない、左を被等の生活をかちとする點に四つの基本的権利が與えられがてゐる。しかもこの権利は與えられるというだけで、被して被等の生活を保障するものではないのです。ということは、一つにはこの與えられた権利といふものに入

みにいるようないふの行動が外側から行われる場合があります。

例えば資本家の立場に立つて考えましよう、労働組合といふものが生れで、自分達と被等の立場で労働者公

物を言うといふよろ空ことは、怪しからんヒ考える経営者は今日既して日本の社会の中に居なりわけではな

い。否もしこう相当數二うりう経営者は日本の社会の中には、そのままで守つてけりで、しかもそのがてくる、労働者が一人前の立場として發言するといふことは被等にとって大きな問題です。明治時代のようだ、経営者のさうことをそのまま守つてけりで、そういう経営者は労働組合運動が、それを労働組合といふうるさいのが出来て、ことに労働組合の幹部といふうるさいが大つて来て、資金也上ふる、等と一人前のことを書うのは甚を怪しからんといふ気持ちの経営者は、いきなり労働組合運動にいふ

いふな罪悪感するに覺じな」

例文は労働組合運動の元にし、あることは、職場の運営に中止権を有する、この点をいたしまして、他の立場への見せしめ

たい人向にはどうしても職場を求める権利があるのだ、という思想を表現しているのです。

にする。いろいろ労働法を保つて経営者としてはこの勞働者たる本質の外を本質的外とすら見なしてかかっている。生うりうことはあるべきでありとわれわれは考へるわけですが、世の中のことは、必ずしも行ききでない。そこで労働者に対する基本権を保護する上國家がさつて想定どこして、労働者から加えられる労働者を前にして労働者は北に斗わなければならぬなり。

もちろん細かいお話をありますので今日はせよまでられませんけれども、国家としては、こうううた労働者がじ々まき入れること、つまり労働組合という自生的な運動に対してじ々まき入れることをなむべく想えようがかつております。

皆さんの中には御承知の方もあるかもしませんが、労働組合法の中にには國家公何とかせういう経営者の妨害工作を抑えようという歴史的制度を認めている。これは大体アメリカから輸入した制度ですが、そつう制度は認められてゐる。しかしそれにしても皆さんは最近取扱から共産党、共産主義者、その国民党を放逐するヒラレッド・ページ問題にからんで、経営者達の中には、名をレッド・ページにかりて、実は組合運動を頭脳化する、この際頭めてやう、あまり活潑な運動をすると赤いと聞まれて誠き切られ百八十把火感があさといふことで、組合運動をいきおい止めようとなつて、この経営者も決して少くない。

先づがそういう見張り立するというだけで問題が解決するものではない。

労働委員会とか裁判所はお目障役になつて資本家の妨害工作をできるだけ取り除くといふことがありますけれども、しかし國家の先端は西の限まで眼が届くといふわけに行かない、そこらの私も無川たりのですが、西の最初基本権といふものが労働者に與えられたといふこと、これは決して労働者としとれども、安心で生きるるるるはなし。本しう労働基本権といふものを車に國家から與えられをがん自分はそれを主張するといふよろことひなし。自分達の力でいかに強力に立てるか、本当に中味のあるものとしてこれで走り上げて行くことが私ほの問題の中心点ではなしのと考へておる。

#### 四、労働者の権利はどうして育成されるか

私は、とくに十九世纪以後に起つて進歩した世界各國の労働問題、いや、非常な問題化して来た労働問題というものの根源を次のよう考へています。

近代社会の中に、昔の封建時代と違つやいわゆる市民階級——つまり多目的の資本家によつて代表され、そのところの市民階級の解放、これは封建大名々その他のいろいろな封建的勢力によつてやかましく剥削を受け、自由を經濟取引さえ出来なかつた、いわゆるナニ階級といふのが自分達の自由を獲得しなどいうの日本で言いますといわゆる明治維新以来のこと、ヨーロッパにつれて言え本、フランス革命とかその他のいわゆる市民階級の革命であり、これは、いわゆる資本家にヒツジの解放戦であり、その解放戦の勝利を意味したものであります。

ところで日本では、経営者、資本家と最も従業者は軍部ファシヨ的な勢力ヒツジのによつていろいろな剥削を受け、或はと結婚して夫婦に、必ずしものびのびと自由に繁重したとは言えなりでしょうけれども、しかし労働階級にはますと、明治維新以来日本の、こじに産業資本家との他の資本家階級は、自分達の自由な活動を保護されてきをかけます。

ところが向處は、こじに新に労働階級が生れ、結果資本家が自分の自由を發揮すればする程労働階級の自由は放められて行くといふところに今日の労働問題の根本的原因があると私は考へる、今日すでに、国民の大半を占めている労働階級の解放というものがなくしてこの問題は解決されない。この解放ということは、資本家をさすに認められを自由在労働階級今まで拡大されることで、若し労働階級の解放が行われなければ、現在の資本主義的な生産といふのは、自由を自甕して労働者の手で合理的な生産が遂行されることによつての生産手段のものであつて、日々生産を後半する労働者がりわける意味の労働階級とし

で保護し、労働の危険が完全に免除され、機等はすべて人任せの状態をとる。ヒューラ族族の日本本部主張、主張は「主張」というものであり、必ずやそこに行き當り直すものだといふのである。

つまりわれわれは生活を、苦悶わかれが金庫として貯められた時代は、自由被縛に反対されてゆくので、海賊國民生活の中の一ひと人の生活が、又才へての國民の生活が同時に解放され、同時に自由になることをおして國民生活の解放はあり得ない。

大參謀の國民がある社会の下で、その自由を束縛されているという狀態は、いかなる社会、いかなる時代においても、慘し苦悶の状態であるに違ひない。それで問題は、單に悲惨な労働者の生活を救うとか助けるヒューラ

ことには盡きるものではない。いかにして労働階級の中に充分な個人意識、個々の言葉で云えば、自分の生活を自分で切り開いてゆくのかといふ堅持を育てることができるかというところに、労働問題の解決がかけられてくると言つても差支えない。

その意味で私は、せまい、麻痺を階級的な対立觀に滿足するこひができない。

もちろん歴史の社会・世界においては資本家階級の利益と労働階級の利益とは、決してそのままほつねらかしておいて調和するという性質のものではない。現実としてはそこに異乎どうの斗争が行はざるといふことは充分あり得る。

しかし、たゞ、労働者自身が、何とかごまかそうといふ堅持で労働問題が解決できなければ、それは当然のことです。しかし問題はただ簡単に申していふよろた、今まで資本家階級によつて既に獲得せられた自由が、累して労働階級にまで拡大できるか、ムアリ、しかるも自由は諸君各個人の自然的意志によつてのみ獲得される。

权利」というと非常に皆さん耳舌いに氣持ひなさるに違ひないが、一体权利といふものは、いわば各人の自由意志から取締りになつてゐる。权利の根本、少くとも現代社会における权利の根本は、各人の自然的の意志の上にのみ基礎おけられてゐる。この自然的意志を全く权利といふものは全く矛盾するに他ならぬ。

労働权利といふものは、各個人によつて獲得せられてゆくべきだ。

（自序） 謹せればヒューラの权利を持つ、義務を負うということは、法律の條文に當りて見るが、それは即

ち人間に與えられたり权利ではなく、志しう人間が自分の权利を發揮する上によつての不適文の上に权利が規定せられるといふのが、权利といふものの非常にならかを發展の所である。

しかし日本では、遠慮ながら組合運動その他の面で、外國の法網からとり入れられてゐるといふ關係から、実は國民の中には労働者を處罰せん意圖に基いて與えられるであろうところの权利が、そつゝう意識を備えない人間に技術與えられていふといふ現実です。

つまり、最後労働組合運動も解放され、労働者はさまたげます恩典に浴する。労働者本位によつての相手、労働保護を受けることになつたが、これらは労働者の权利は、決して労働者が自分の手で力ちじつたるのではなく、いわゆる労働者の前に技术を授えられたものに極まらないといふ現象です。

こういう事態は一見非常に有難い。労働者ひとつて、自分の力で獲得しなかつたものに相手はないといふ現象で、労働組合運動はかくあるべしといふことを法律の條文に盛りこませて、日本労働組合を教育し、日本労働組合はみれば、日本労働組合運動は非常に未熟達の状態にある。又労働者の生活は確かに悲惨な状態である。アメリカ人から見て正しく標準に引上げるために法規を制定させ、労働組合運動はかくあるべしといふことを法律の條文に盛りこませて、日本労働組合を教育し、日本労働組合はね返しして今日の強大な社会的勢力にまで成長してゆっている。又せ引受けにイギリスの労働組合運動は足の地についたいわゆる自分の権利をかち取るヒューラの坚持を阻止する危険もあるのです。

一口に労働組合運動ヒューラをすれば、その道は決して坦々たるものではない。労働階級の過去に於いた歴史、ことに組合運動の歩いた歴史のあとを省みますと、文字通り死の道と言つて差支えなし。ことにイギリスの労働組合運動の歴史等を眺めますと、數百年を亘つて彼等は法律によつて壓迫を受けながら、それとはね返ししてね返しして今日の強大な社会的勢力にまで成長してゆっている。又せ引受けにイギリスの労働組合運動は足の地についたいわゆる自分の権利をかち取るヒューラの坚持を阻止しているわけです。

(18) 日本の労働階級は、果して現在の法律制度全般、これに應じて三十條の規定によつて

保障された労働権平等を自分の手によつて獲得してゐるが、いや私は確信ながらも石川島の話で  
きない。まことにわがかみ國スレガを公用であつたりうことが信頼されねばならぬ」と思ふ。  
ところがこゝ、おから與えられた権利といふ概念は権利の概念は元氣する考え方はない。力では効  
率も言ひましむようだ。あらゆる個人の権利といふものは決して國家がそれを與え、守つてくれぬかの根  
柢があるといふものではない。

だから、新しい民法によつて女性の地位は向上したが、それが果して女性の精神的等力、社会的等力によつ  
て獲得されたがどうにかころに新しい民法改正の中心問題があるに因る意味において、この新しい憲法の  
他労働組合法等の法律によつて労働者に與えられた権利が果して労働階級によつて、眞正の力によつて獲  
得されたであろうかといふところに同じ問題があるわけです。

そこで、私は常に労働組合に対してこう、いう逆支を出すのですが、労働組合は何かといふと、憲法はどうし  
か、ねえかと宣言ははどうといふこときまつて、そつとう法理説を心得て思ひといふことはない。いや  
心得てゐるに越したことはないでしよう。しかし、私が労働階級に専門しないことは、憲法の法文上の知識  
とか、あるいはそれを據つて裁判所で訴訟を有利に導くということではない、まことに労働者に対すること  
に労働組合の幹部に対して常に要求することは、要するに組合員個人々々に、何と考  
いますか、先づの言葉を使ひますと、自分の生活を自分で切り替へてゆくという意識を養成せることであ  
り、今までの労働組合の幹部は結局組合大衆の意識を構わずに、自分達の手で組合大衆を引き立てるべく運動を  
やり、是の斗争によつて労働階級を救ひ得るに自信していいだと思ふ。

しかし、これは全くの誤りで、衛易日本の労働組合運動の将来が希望せ難いをものであるが、それともせこ  
には非常に大きな危険、障壁が待ち構えているか、じいよ問題に答えるためには、結局は、労働階級の大衆の意  
識の中に、與して充分な権利の意識、つまり、自己意志こそはわれわれの生活を切り替へゆく根本原則で  
あるという思想を持つてゐるか、この意味が並労働組合員にまで徹底していきかうとする事が、まず始め  
れなければならぬと思ふのです。

さうかと云つて私は、現在の日本の労働組合運動にすべてを期待しているわけではありません。そこには、被導

の権利は技術もあれども権利であると口う悪條件が存在してゐるといふことは認めざるを得なりが、さうい  
う感情を労働大衆の中に養つてゆくといふことが現在非常に辯論的である労働組合運動を必ずしも最大の仕  
事ではないかと思ひます。

もちろんこの問題は、單に金科玉律とか、厳切り反対斗争といつて労働組合運動に即かり見るのではなくて、まし  
う労働者の日常生活、經濟生活のみならず文化生活その他各方面の生活において、労働者が自分の力でそな  
いつを社会的権利の意識を向こさせてゆくことができたまうか、といふところに日本の労働組合運動の將  
来がかけられてはいると私は考へるわけであります。

今日のお話の題目が「労働者の権利」というので、皆さん或はわたくしがら、労働者の権利にはどんなもの  
があるか、その内容はどうであらかじめ詳細な話をかかるつもりであつたから知れませんけれども、再  
するに労働者の権利といふ意識、これを養成することこそは労働問題解決の鍵である、といふことが皆さん  
に納得していかなければ私の講演の目的は達せられると考へます。

われわれ国民全体として、又國家としても、労働者の意識をいかにして持てて効いて行くか、といふことは問題  
の中心点である。最近の情勢の下で労働組合に対してもうひと指揮がましいことが行われておりますけれ  
ども、結局彼等の間にどういふた自分の仕事を自分でするか、精神を養成するための手掛りを與ふるとい  
うことが國民全体の義務であり、日本の經濟の将来が果して二つ敗戦後の状態から復舊つて、世界經濟の  
中で自己を主張できるであろうかと云ふ問題の解決にも資するであろうと考えてあります。

これで私のお話を終りたいと思ひます。

問、労働基準法につきまして、小さいおさんが働くということ、よく「未年人や何が、困っている方の赤ちゃんが、小さい商店等に雇われる」といふことは、法律を踏つてはいるが保障がございませんか。

答、これは法律家としてはハッキリしているので、法律ではどうにも在らんということですね。どうも労働基準法の立場から申しますと、どこを大目に見ると、法律を踏つてはいるが保障がございませんが、こういうことは何とお考でございましょうか。

問、今度のレッド・パートが有効で、相当組合が弱くなっています。このレッド・パートも、労働組合をめぐる問題として認められて裁切られた。すると、組合運動が活路に動きをだすで裁切られるという事態になると、組合幹部に在る人が少い。すると、経営者が労働組合の運動の發展を抑えるということがありますと、思つたが、先生、どうお考そにてりますか。

答、今度の問題で、理屈の上では共産党員公対象になつてしまいますが、さすがにそれとも實際には労働者が問題の中心になりますね。そういう意味で、いざという場合には裁判所の問題となつたり、あるいは労働組合に持ち込まれるわけですが、労働委員会の立場としては、経営者がどう言つたからにわざ労働者をもつて、労働組合をどけるわけですが、しかし現在の裁判所のやり方を思ふと、こゝに新聞の場合も然が問題です。しかし、あからさま場合には労働者という名前を以て開会に簡便に片付けられてい、るといふことは考えない。その場合には実質を判断して、若し組合活動の周辺を裁切られをならば後悔されることはあります。わざわざしてはどうりう方針を進んであります。もう一つ、労働者というのはどの程度までどうのがどう、これ又必ずかしこり問題です。たとえば、私は、労働組合も含めてこう書つてある。つまり、組合活動の首いか商業の頭で、非常に市場の秩序を乱したことには、あからさまに限ります。横切りを愈めるといふことは、結局今までの労働組合運動を導かせる結果に至る。ことに日本の労働組合運動というものは昔から左翼的傾向が強いため、意識としての活動といふやうなことを思ふと、どうもおかしいかと考えます。

問、労働基準法によつて年少者の労働時間が定められておりますの、標準が定して日本の中でも規制するので、あらゆる面でそういう点から問題になるわけですね。

組合員として労働者といふのがハッキリと區別できなくなつてゐる。その意味がうつてゐる。共産党員は、同労者などといふをけで競争切さと、う多国籍労働者問題は、労働組合運営に非常に、労働組合運営をどうか正しく労働組合運動を助けて居るか、運営するか、しないかと考えます。

答、そういう問題は、現在の労働基準法の定めでいる標準が定して日本の中でも規制するので、あらゆる面でそういう点から問題になるわけですね。

先程お説もありましたけれども、労働法をしては特に禁じてゐる労働組合運営をめざすと、これがことはできない。たゞ労働組合運営というようならなにこれがどうがどういううなこと、規制をとりますと、非常に厄介な法律かでござるよう思つてますね。

後退させるということはまあ禁制令があるので、これは認めなくてよい。

つまり労働法は罰則がついていますから、罰則の適用をどの実情と照み合してある程度手控える、といふことで問題を解決するより他に方法がないと考えております。

つまり、実際には、根本問題の解決は労働基準法上、どうともすることはできない。たゞ、これが、違反したらどんどん处罚して抑えるという趣前に在つておりますが、その辺の手心をあら程度決めておるといふ點が元られない。

向、内政と労働問題というものが、先生、どうお考えでしようか。アルバイトみたいになりりますけれども家庭でやる内職です。内職は労働として認められないんですか。

答、自分の家の内職をつてゐる場合は労働法上の問題ではない。ただ外國の方では、家庭の収入という

もので、一般的の考慮を必要とするところ、「かねて」雇用の居りの問題であり、日本内閣等は問題を抱つてゐるところである。つまり、労働法の適用されることは、人に使われて効いている場合を「ですから」という意味である。

これは別に迷糊を設けて解決しなければならないが、日本にはない。

内、引領き家庭の内職につけることをございましたが、これは労働法による方法からはどうかと思ひます。実際内職として内職の賃金といふものは非常に不合理のような感じがござります。唯今のところは大抵の家庭が内職によつて生活しておりますが、その賃金は泣き入る賃金ですが、それ以上で出来上つては

呂警は、例えば造花をしても、日本の輸出が上に大きな力を持つていて、外貨獲得の使命を果してゐる、実情として、

答、要するにさつき申したように、家内労働法というものを依つて統制する法規が必要を比利うことは、力水われも常々——例えは労働基準委員会あたりでもせうじうことは問題にしてありますか、また現

までの進びに至らないのが現状です。

答(田中課長)内職の内職が渋山であります。何等の考慮も払はれてない、比利うじうす御詫問いたしからずですが、内職に從事してゐる女の人が多いので、前から婦人少年酒で内職にしておりまして、今も、家内労働の実態調査を全国に何件かとりまして行つてあります。それが、婦人少年局だけでなく、基準局もたゞ、最低賃金則を依つてだけでは内職に切り離さずで行つて、内職者の法規が必要だ。そこで、外國にも家内労働法がござりますから、日本でも必要な労働法による実態調査を行つて、例えば、靴綿、造花、瓦具、織物、しづり等、全国の実態を把握して法律を作る基礎にする準備にとりかかりっております。

全國で、婦人労働をいつらこの問題を出しますので、皆さんがこういふ法規が必要を比利うことを大きく述べることが役所の仕事で前途することになりますから、どういう事立ても良くこれが大変努力になると思ひます。

答、女子でなければできないところの仕事の場合は、内職が少いと思ひますが、例えは生糸や綿を販賣するなど、婦人少年局で行つてその間に面白くないような児童

きるとか、休日に出勤すれば口けない、ということになつて、結局ども居ることが不利になつてくる。

それで詳めれば、あとは男の人が入つてくる。  
考えてみますと、私達は有難なことを作つて頂きましたけれども、却つてその間に面白くないような児童持かいをします。例えは日産のよな内職が出来ますと、女子を相手して児童依つて育つて来いと言われますけれども、

そういうよな実情をお預けの方はどう考えておられるか、それを守らるる度に女子の実情が求められます。

答

(田中課長) 基準法が女子の実情をせばめるということは言われていますが、基準法は労働者の最低賃金を標準にしておるところ、これで最高するといふことは全面的に労働者の権利を縮めなくてはならない。基準法の制定しては、原則的に内職のことをもちとるが、日本のように各國では、法律で高いと考へておきませんと、それより下ゆよう下すようとする傾向がある。

その意味では折角獲得した基準法の権利はどこあるか守つておりません。肆々想えてはいる。

又、外國のうち労働者、労働法が適用するところ、女子の実情を進出してゆく機会を見在すと、自分達が守つて行くべき権利と感ります。

それが女子の実情を縮めするかどうかということですが、よくさういうこと言ひ合つておられる段階には、女子の実情はついていける人々数は減つております。肆々想えてはいる。

まことに、これは基準法の西脇といふことと言ひ方をしましたが、実際の実業化するに至る仕事をはづけの実体から、實業化しないもので、その一時間の収入があつてある、又もまた労働法に適用する範

（了）（おおきなまつり）で、基津太郎の手で作成されたものと見て取れる。一枚は、  
即ち、それを守るために、たとえば、学校開校式や、祭りの席場で仕事をしておられる方へ、一枚は、  
ありますので、こういふ二点が、方々の身体に附つて来るに大きな困難かと思ひます。私は大人を主とし  
し、積極的に男子の方々がどうりうを再び、頭上にござる札は構造つくと思ひます。  
答（吉澤講師）もう一つは、セウリの問題は男子の理解と言ひますけれども、組合組織の中でも、実質的に取り扱  
中で、組合として男女も女子も一緒に（とくに女性の）仲間の力で働くというのでないと、力が弱いと思ひます。

（終り）

二四九  
新編少年人年鑑

## 武法（筋骨相統を中心として）

中堅婦人圖書館講習会  
講義録の四

本題は「乙五の記」一目云中日より三日開けられ  
日本医師会館で開催され、中安堵人有志有識者会に付  
ける堵講師の講義記録です。  
講者会は婦人・園林の名法等を問題について研究し  
てより上計東北地方の内蔵局次の五の法律  
並に制度でした。  
これらを講義題別に分類して出版しました。  
國の都合で篇の内蔵局削除いたしました。重々予めお詫  
びいたします。

## 記

一 國際連合の諸問題	日本国際連合の公理原則
二 社会保障制度の方向	山口信義
三 妇女者の権利について	鶴田大学教授
四 家庭へ就労相談室の中心化として	木村高
五 明治大学教授	高橋信義
六 在職教育制度について	石井芳
七 名古屋大学教授	高橋信義
八 国際連合	高橋信義

一九五一年二月

今曰は、改正民法の制定の中の特に可結婚と相撲山を中心にしてお前中止するよつにとのことで、下段を  
つき途中でこれ（婦人少年局の）改正民法の要旨と示して、左記題名して頂きましたが、いかゞよく  
出来てなりますから、これよりアキストにして、大体この順序で説明する方が、断然の（）  
の工合が便利かと存じます。

アキストには一番初めに、「民法は御改改正されたが」という項目から始つており、次に「新法の制定の解説  
」といふ項目があつてあります。これは何れも大切なことでありまして、併し民法だけの問題に限らず  
ことに家の制度の禁止と書いたと、総括二十九か、今度の改正に附けて取つた新血草約と申しますが、そ  
いつたものに來る算出式の算出式に沿つて来るわけであります。ですが今まで終戦直後一年二年三年間  
までは、民法は御改改正されなかつた。家の制度の禁止といふように非常に重く定められてお詫せ上げる  
にしておりました。しかし、こうして大字目を並べると、う所に「しかも、もとよりの立場の方であ  
りましたならば、このいふことはもろかでござり得ない方な所多に立場をなつたなり。かく  
みればつなりして御存知なさると思ひます。

それで、この件のことは御改体込しても採決し過ぎるといふ乙とのかい大切の問題でありますけれども、今  
日本の限られた時間では、この次のアキストの自由と、大字の平等と、いふ項目に付くはいづれ、それには附  
石細かに法律問題を「」。もちろん大きな恩恵めぐらすので根本的にはあります。もしもこれが何問題を残して  
間で整理がつく範囲で申上げて行こうと思ひます。

## 民法（相撲山を中心として）

講師 鳥居大学教授

立石芳

では先ずアキストの自由と、いふことをお読みいわばさまであるが、勿然未終局は「家」を立つやうに命じます。今  
ことかを取とされて、歩入同様の見合はとがく、の外の小字は付されないので、改正民法がいつアキ  
トで整理がつく範囲で申上げて行こうと思ひます。

外國の法律は、その國の國情に合致するものと、國情に合致しないものとある。國情に合致するものは、國民の心地をよくし、國民の幸福を増すものである。國情に合致しないものは、國民の心地を悪くし、國民の幸福を減らすものである。國情に合致する法律は、國民の心地をよくし、國民の幸福を増すものである。國情に合致しない法律は、國民の心地を悪くし、國民の幸福を減らすものである。

相続の仕事は山本の仕事ではない。  
配偶者の遺嘱、財産伝承、相続、住居の選定、贈与契約などの他の法律は専門ではあるが、山本の専門は民法である。山本の専門は民法である。

結婚は同性の合意によるもので成り立てる」という大司教をして、結婚の自由が宗教上「神正文化のため」もあらう。しかし、結婚の自由といふことは、その通りに保たれて、非常に複雑な意味をもつてゐる。しかしながら非常な誤解されてしまうのは、結婚の自由ということが、結婚の自由としないものと本質上はちがひない。これが何故かといふと、結婚の自由などいう用語が非常に多くて、必ずしも結婚の自由を意味するものではないからである。この点を前述つて、いはゞ才のら、吉田信義的な立場は、力として、標準を設けられたが、それがいかの術度のあんまりには、決しての相手に求められる時代、これが不適な法規として、他の立場へ向かい、反対的立場を示すと、結婚をしておかなければ、相手にする。しかし、吉田は、やむを得ない事実を認め、結婚をするのはどうか、どうかのほうで、可か否かとは、是非とも女の入によく注意してある。同じく、夫婦の立場を、

かめし、いき物の馬鹿がさういふことをやる者あるは誰いふ者、人のうららと立つて、今まで自分の氣付いた、「家」を出て、「相手の家」で「家」に入ること云々と云ふ必然的條件は伴ひました。そして自分で「家」を出るには、その「家」の長の命令によるものたゞ主の同意を得て此にして、もやわねばならず。相手の「家」に入るには、やはりまたその「家」の同意を得て入らせてもらわなければ、さればはうまい。それが出来ぬと、相手の同意も一人前になつて分りずつと我れでも心要じられました。ところがそれから同意が安易に得られた、ヒーラー君まで結構かくち出でられました。アグストンもありましたよ。うれしく名前に対する同意は、おまけに名前には双方の家のアマの同意が必要で、また男は三十才、女は二十才位の年齢では、父母の同意が必要でした。現在は成年若きなガラガラ三十才位達しな直ぐで、相手の同意するのにには、娘の同意もいりません。二十才位の男は男子も女子も一人同じして何處止むを何處止むを焼かれて、されず半死の苦處で自力の命懸念が出來でるようになつた。この焼死は、非常に想不意の想候で、既に無断で話題してあよろしい。しかしらん燒死など、いつて、非常すら向きが宿当身のものでなければ、以ての外の諸事一朝れん火難して、焼死をよろこび、焼死内情で始終せよと言つていなひでは、少いので、ひとまずで、火難の同意を得て、始終するが空氣らしいことであつて、ゼリギリのところでは、何とは自分はめの人と結婚しないければ死ぬ、渠は、あんな事と結婚するはら親子の縁を切る。というゼリギリの上に、今まで起る場合には、どちらの意見をとるかといふと、法律は結婚の当事者である子のほうは、味方をして、渠の結婚はほんと子自身の結婚の意からぬ、しかし、一人所の人間としての判断は、必ずしも叶へぬらしい。法律はそれを認めます。という事で、渠と親子の親愛で、如何でもなります。

長岡の松平氏、このとくじが傳はれてゐる所とは全く別問題で、別に同じく市原松久の子孫  
である大名の人間にして、かどり御本守風（一久）とての白夏が大、（ひゆう）の名で、市原守風と  
しての名づきあつた。市原守風の名の意味は、守護の所を守ることから、守護の意を含むと考へ

とを世間様に傳播するには当然で、それと結婚の自由ということは結があるで直ります。またいわゆる法漫國家すなわち法律で國を治める権利はこれがなければ何物ないのであります。その點は日本國の男女が結婚しているかしないかということを國家に知らせておくことは必要で、これは市民生活を送る上から当り前の事とであります。そういうことと、それから結婚の自由というふうなことをゴツナヤになさぬようには。

### 三、届出の必要性

結婚の届出は今後もますます大切です、といいますのは、結婚の届出がしてありますとはじめて法律上有効な離婚もできます。結婚の届出がしてなければ、いまいよ別れるといふ場合に別れるよりが法律上はないわけです。別れることを法律上ハツキリとす為には結婚していなことがまずハツキリしてなければならない。どうして別れることをハツキリとす必要があるかと言えば、気分の上で夫婦がハツキリ清算されないからいけないというようはロマンチックなことばかりではなく、そういう気持の清算は結婚の瑞に貢献した相手を返すとかいうようなことでハツキリできるかも知れませんが、しかし、結ばれた夫婦は絶情でも、いろいろなことにあつて別れる時は気拙いことにはつて居り、結局財産問題といふことになつて参ります。

今度の民法は女人の人に対する有利な点は大變有利になつた。有利になつたけれども、結婚届がしてないと正式な離婚手続を進めないわけですから新憲法が妻の為に認めてくれたその有効な恩典にも浴しないわけです。もちろん結婚する時にはお互い同志好き合つた上で持求別れるというようなことは考えてもみられないかも知れませんが、しかしどんな場合のことも考えておくことは大切であります。ものにはハツキリけじめをつけ、又社会に対しても、甲という男に対して乙という女が夫婦かどうかということは社会全體が利害關係を持つ乙とですから、乙がでてつき申上げをすれば、結婚の届出をしなければならぬといふことは結婚の自由とはまだ別個の問題として深く注意すべきことなのです。さうな結婚する場合には届出という形式的要件のほかにいろいろな実質的な要件が必要とされます。チキストにもありますように、男子十八才、女子十六才以上でなければ結婚届を出してしまつてもらえないとか、あまり近い親類同志では結婚は許されはない、例えはいと同姓のよいが叔父と母のいうような同姓では結婚できないとかいうふうなことが認められております。

島田義村の「新編」はたしか叔父と母との間の愛情の問題を取扱つた小説だつたと  
思いますが、戸籍事務を取扱う人は、これはあじと想ではない、といふようなことと在結婚届の書面の上で  
眼を通して、これを形式審査とまづが、中味まで立至つて審査する取扱はしないけれど、一応要件が具備  
されているかどうかを審査する取扱はあるのでありますと見て、一應を取扱を備し、書式が揃つてゐる要件がそなわ  
つていいといふことではじめて結婚届を受け取るのです。

ところがいわんや行き違ひで誤つて、そういう要件が揃わないのは結婚届が受理された場合には、例えは結  
婚年金が足りないとか、いと同志よりももつと近い両親の結婚であつたとか、まだ二十九に達してないの  
に親の同意を得ないでして結婚せ、親のハンコがなかつたというような場合にはほぞの取消を本人達自身から  
または親や親族から、または検察官か裁判所に請求することができます。

そのほか結婚の実質的要件とされていてるものに、配偶者がある者は重複で結婚することができないという規  
則もあります。重複がいけないことはもちろんのことと、重複罪として刑法上の罪はござります。  
2、再婚についてでは、前婚の解消又は取消の日から六ヶ月を経過した後でなければ、再婚をすることが  
できぬ」という規定もあります。女人人が再婚する場合は、六ヶ月の間をおかなければ結婚届を提出し  
てくれません。しかし「では」とありますから、何か新憲法の男で平鋪に及ぶるようですが、それは再婚し  
てすや子供が出来た場合は、前の結婚と今度の結婚とがあまり近接してしまふと、うまれた子が前の夫の子で  
あるが後の夫の子であるかハツキリしないことがあり得るからそれで六ヶ月の期間をおくだけの話であります  
して、お産をするのは女のほうでありますから、女だけは前の夫の死んだ後までは前の夫と別れた後六ヶ月  
は再婚を避はざなければならぬといふ次第なのであります。

しかし実際は結婚届の日附を変えればいいだけの話でそれを以前に実際上の結婚をしていれば、さらして子供  
が生まれてしまえば、もはや少くとも法律上はその子の父はハツキリしなくなつたわけで、そなむろと云ふ  
は親子關係のほうの親族の範囲は離しますが、とにかくこういうデリケートなことは御當人遣はきてても八  
ツ九ツしないといふこともありますから、場合にはよつては意地悪く、「自分の子供なしと雖か内せを言つ  
たり、あるいは「自分の子供でない」と遙に嫌がわせを言つたりするところもあるでしょう。

これに續して一寸世界の問題を覗かし向瀬はアメリカの歐洲を横へ、マンハッタナの「闇火」の前  
の右側上に立つて、その左側にはその右側の有名なロッセリーニと、テルミンとの向の窓邊問題でこの二人の間に生  
れた子供が法律上から言うとベーグマンの前の夫の子供となる。何故なら彼は前の夫との離婚手續がすんでい  
なければ法律は前の夫の子供になつてゐる。

そこで、もちろんロッセリーニは自分の子供だということを主張するし、イタリアはベーグマンが死んで行つ  
て葬送しているからにはそのことは問題のないところでありましょうが、しかしそれが同じ家庭に住つてい  
るという場合であるならば、いろいろ証拠を挙げるといふこともそれなりにアートな問題になるし、本當  
に判定がつかないとさり起りかねない。そしてそのため子供の父はAかBかわからぬ、ということは困ります。だから社員がなにかわ、AであるとかBであるとかいうことを決める方法を法律は裁判所は決えてあ  
ります。裁判所の判事さんも神識みたばわかるわけはないけれども、とにかくそういう問題は当事者同  
志よりち、令嬢の管轄を備えた方三番の判定のほうがあしろ正しい場合が多いし、それではじめて当事者同  
志納得がいくといふこともありますから、裁判所に判定してもわうなのは「父を定めることを目的とする訴  
え」というものを提起で立てることになつております。

### 三、夫婦の平等

次に第三をいそいで「夫婦の平等」という項目に進むことにしますと、從来日本の妻は夫のかげにかくれて  
あり法律上一人前のあつかいを受けておりませんでしが、改正民法では新舊法第34條「夫婦の同等の  
権利」を実現して、あらゆる裏で夫と妻は平等になりましょくまでも夫婦は無能力でない  
いわゆる無能力者で経営や子供などはあつかわぬ、夫の許可なしには法律行為（借金したり、ものを貰つた  
り、就職したり）することが出来ません。夫も妻も同様の人物だということがなつ  
ね」とれば当たり前のことです。

次に同財産の管理――從來妻の財産は夫の管理しませんが、現在は自分の管理出来ます。旧法では妻は  
無能力者でしたから財産の管理はあらんじきめであります。夫の許可なしには法律行為（借金したり、ものを貰つた  
たり、就職したことなどが法律上はなつて、妻は自分の管理であります。夫は妻  
は夫の財産を持たしてくれたとかあるはまた夫が沢山妻に指輪を買つてくれたとか、着物を買つてくれたとか  
いう以外には妻が財産を持つことは非常な稀なつた。

それで妻は財産をもてないもの、財産はすべて、夫婦ともかせまでためを貯金の通帳でも、夫の差戻はして  
おくべきものという考がみなぎつてゐると思ひます。しかし旧法當時からも夫婦別産制であつたことは間じ  
がつたのであります。妻が結婚の時は母親からへそくりのお金を貰つて来た、その財金通帳、これは妻の  
名義であるから妻の財産ですし、父親が娘の結婚を祝つて家を新築してくれたとか、娘の結婚  
で持参金を持たしてくれたとかあるはまた夫が沢山妻に指輪を買つてくれたとか、着物を買つてくれたとか  
の勝手にできる、となつたのであります。

ところでこの点が、民法改正の諸が女た水出在時分、男の人達ばかり心配などからしく、今度民法  
が改正されるとどうなるか、それが何よりも問題であります。自分で西洋のものと東洋のものと  
から、自分の体調方々を測して、陽子にすらあつてはよくある病気は、といふ新規を設けました。

夫婦は自分の財産を自分で管理すればいいので、それが妻は別居になつて、どうこう勝手にはできないことは從来と同じで、從来妻は、妻の名義で貯蓄しておいた財産を夫に勝手にされたのが、新法では、そういうことが許されなくなつたので、これは当然すぎる改正であつて男の人人が心配することは全然ない方であります。

### 1. 生活費の分担

そこで、認の順序として、テキストの見出しを讀ばせ最後のところを読みます。日常生活の分担と夫婦生活費は夫が負担し妻は養育するものとなつていて、それが夫婦に対する規定はやはりあります。これが夫婦がそれを能力に応じて分担するに至ります。

今申し上げましたまうれ旧法では、妻の荷物家であつても夫が勝手に貸し、その家賃をふととろにします。

しかし新法では、結婚生活から生ずるいろいろな費用は夫と妻が分担するものだという規定が設けられております。ですから、今までは夫に依存していくればよかったです。それに対応する規定はやはりあります。しかし今度は妻も同じように責任を負う夫から養つてもらうというような卑屈な考え方ではなくは捨て去るべきです。特に「日常生活の家事については夫も妻も連帯の責任を負う」という規定があります。毛皮の外套を買つるのは夫ですが、醤油を買つたりといふ日常生活に対する夫婦連帯の責任を負う奴屋から請求書が来れば、夫が支拂えなければ妻は知りませんよでは済まない、自分の賃金から出さなければならぬ。

しかしながら結婚生活から生ずる一切の費用は夫と妻の分担だとなつてしまつても夫が月に八千円の月給袋を持つて歸るならば、妻をやはり外で預いて八千円の月給袋を家庭に入れなければならぬ」ということはないのでありますから、何も妻が外で稼ぎに行つて月給袋という形はしなくとも、夫が八千円の月給袋を預けて来るのです。

### 2. 離婚原因の平善

のは妻が家庭事務労働にいそしめ被服の扱いをなからぬといふからのことなので他事妻も外に出でられないから共稼ぎをしなければならないということは決してない。

この点は從来からもそうであるが、ただ從来は家庭事務の範囲といふものがほとんど認められ、夫は評議されかで、夫の月給袋の八千円は、まるまる夫だけのクセきのようは考えられ、そこで夫だけが妻子を養つてゐる、夫だけが本筋い、という風に夫のみならず妻自身も考えいやがうえにも妻はいし女は年届になつてゐたから、何も妻が外で稼ぎに行つて月給袋といふ形はしなくとも、夫が八千円の月給袋を預けて来るのです。

### 3. 離婚原因の平等

次に可離婚原因の平等化は務りましょう。可離婚原因も妻の方におもく、妻の暮遊を行が離婚の原因となつてしまつたが、現在は妻の方からも夫が不貞な行為をすれば離婚を請求することがであります。これも妻の地位が確立された重要な改正で今までの法律では、妻が夫以外の者と三度同居になれば夫はそれを理由にして離婚することができたが、夫の不貞行為は天下御免で、二号を替つている夫から別れても夫と妻が思つても、夫がすみあはうんと言つていわゆる協議離婚の届書に判を押さない限りは、つまり夫が何年も花でやつて行こうと思つて、二号とも別れないがお前も可愛いとかうまいことを言つて判を押してくれなければいくら別れても妻は施すすべがなかつた。

裁判所は訴えて夫から別れるといふ手を打つすべきなくて、二号があろうと三号があろうと妻はやはり妻でより有利になります。可離婚の場合、妻は無一文であります。夫を離れて又は極くわずかの手で切金を貰うだけでしたが、現在は相当な財産を分けて貰う权利があります。可離婚の場合はこれまで、別れるとなると妻は無一文でいつも追り出るといつも離れては離れてはかかる。離れては離れては

しかも別れることになればその後の可離婚の分担凸に關する規定で、離婚する妻の立ち場は才とこれまでより有利になります。可離婚の場合は、妻は無一文であります。夫を離れて又は極くわずかの手で切金を貰うだけでしたが、現在は相当な財産を分けて貰う权利があります。可離婚の場合はこれまで、別れるとなると妻は無一文でいつも追り出るといつも離れては離れてはかかる。離れては離れては

10  
というものが、お恵みの貰ひやうりやうどうの方々が、態度は相当な財産を、お恵みではなく叔利として貰ふる。叔利といふのは、法律上当然妻に譲下べきものだから主張することができるのであって、相手のお恵みにするわけではなく決してない。毎年大暮として連れ添つて、そのよしみを貰うというような年齢のものでもない、当然の叔利なのであります。

実は法律の規定に書かれている財産分與といつ字がよくないかで今ち換えるとましますと、好意すくや、永年連れ添つたよじみで與え石といふ観念を持ちがちですかそうではない。

そこで、では別れるに際してどういう財産が妻のものと引き立てるかといいますと、先ず妻が第晩長持在籍のとき持方込んでいをといふ場合ならばそれは皆妻の所有物だから、別れるとき妻はそれを持つて行くことができる。要するに二人が別れるにあたつて、二人のそれをそれに属する財産の清算が行われるのである。丁度会社が解散する場合と同じことだと思ひますと財産開源を清算して妻の財産を妻が持つて行くのは決しておかぬではない。それから妻が、先き程も言いましたように家事労働に精を出して夫に報酬の臺いを負かしして夫から夫が八千円の月給金を持つて来られて、八千円から財金をするのは無理でしようけれども、まあ妻があ勝手元のやりくり算段で月に五百円すらでも貯金し、その財金が二万円になつて、あるといふ場合であらば、夫がすごい家業で年収数百万あるとか、またな芸術家で色々一枚が何十万もあるとか朝日文化賞で山賞金をもらつてそれがそつくり財金をなして、当然妻は持すべきものであります。

夫からお恵みで貰ふものでは決してないが当然妻は持すべきものであります。

湯川博士がナラホ御褒美をお貰いになつたためとほりで、その中五万弗は当然湯川大夫のものであるとは誰も考へないでしよう。

女の人はもピンガラキリまでありますか、男の人はもピンガラキリまでありますからね。大体こういう生活をするにはどの位費用かかるか、そして本當なら女中なしではとてもやれりとこを東ガクルクル一人でやつたためど根ぐれい財金がふえていたからその辺を考慮した上で、妻の働きによつて出来たと思われる单なる凡人にはすぎない妻のものと考え石わけにはいがなれでしよう。

自分の財金は、夫名義の通帳が夫でもあつて妻が持つて行ける。

#### 4. 親叔は共同

次に冒頭は共同口になりまし石。冒頭は親叔は父親のあとまわしぬされ、親族会からの制約をうけたりして、女子は親としても信用されなかつたわけですが、親族会などといふものは廃止されるとになりますから、現在母親は父親と同居であり、親叔も共同で行います。旧法では、父母が離婚すると、子は左いて、父のほうは取り上げられ、実「家」の者となつた母は父の「家」の者である子とは親子の縁を切つたも同然の取扱いを法律上受け、もとより皆家は死した子の親叔者になるなど思ひも及ばないことであります。しかし新法では、離婚する際必ず、離婚後には父と母とのどちらが親叔者となるかを協議で定め、協議がまとまらないければ家庭裁判所でもこれが一番多くありますと、そこでは改めて父子関係があつたと上になります。と同時に旧法ではこの場合を左なり、子は父の

子を結婚届を出していいない両親で子供がうまきますと、その子供は法律でいわゆる输出でない子であつて、法律上は父子関係を認められないでてなし子ですぐ、事實上の父親がこの子は自分の子であると認知をしてしまふと、そとでは改めて父子関係があつたと上ります。

従来子供に対する親としての叔利も、母親は父親のあとまわしぬされ、親族会からの制約をうけたりして、女子は親としても信用されなかつたわけですが、親族会などといふものは廃止されるとなりますから、現在母親は父親と同居であり、親叔も共同で行います。

「家」の者とは云つて居まつたため、父と法律上の親権をしていなかったので、父の「家」の者ではない母と夫の親権が切れたようなかちりになつてしまつて、もちろん被扶養者は父がなつた。それを新法は認め、こういう場合依然として母は子の被扶養者であることができ、だが父の親権で父を被扶養に定めたときだけ父が親権を行ふものとしました。

#### 5 妻の氏

次に「妻の氏」について。妻は夫にあらわれた（というよりも夫の「家」に夫もあらわれた）ので、夫の姓（というよりも、旧法当時の観念では夫の「家」の名）を名づけました。現在は当事者の合意で結婚するのですから、どちらの姓（つまり新法の考え方では「嫁の名」ではなく、「個人名」）を名づてもよいのです。夫が死んだ場合にはもとの姓に戻るのも自由です。

これは実際問題としては簡単ですけれども思想的には重大で今までには田中「家」の八間ということが大半でありました。これがからは花子という一個人の八間、個人だけが大切なことで、それが主体焉です。民主国家というものは国民の一人々々が主体焉であり主権者であるという建前なのですから「花子」が田中である。「太郎」が重太郎ある。「山田」とか「田中」とかはむしろつけたりでこれから「氏」は今までの衆名とはまるで観念の違つたものです。個人個人を区別するだけの呼び名であつて、どの「家」に属する者であるかというよなことを区別するためのものでは決してない。同じ「田中太郎」れども、旧法の家族制時代には、それは田中という「家」に属する者である太郎というとをあらわしますが、むしろ田中という一家に属する者といふことが當時は非常に重大な意味を持つていいたのでしたが、民主革命後の新法時代に入りましたては、「田中太郎」は既に一回の田中太郎という人間を示すすぎないのがあって、華原は一見簡単ですが、思想的には非常に重大な変遷に富まれています。なぜあの方さんが田中であつてあの方さんが山田だとさし寒原の問題としては大したことはないと思ひます。なぜあの方さんが田中であつてあの方さんが山田だと云う場合ならば、その夫婦は法律上正式に結婚をしていないことは明かで、そういうあたり生れ花子がお母さんの名前の田中を名乗つてゐることがあるが、するとそれは私生児だということが旧法では一目瞭然で自身の族の族を名乗つてしまつた。そしてその他の場合相手では先きほど申しましたように父親が認知されれば

認知される子は父親の「家」の者になつて、父の「家」の名である山田という名をその子も名乗るなどなり、そのように子が父と同じ「家」に属する場合だけ、子は父の親権者となつてもらって父から一概に被扶養を出してもらうことになりますが、今度新法は、「家」が同じでなければ親は子供の親権者にはれないという馬鹿馬鹿しいことなくしましてから父親が認知しな様で認知前と同じく母親が親権者になつていてももちろんいけれど、あるいは父親は認知してもらひ親権者にもなつてもらつて、しかも子供の苗字は今まで通り母親の苗字であつてもいいし、父親の苗字に変りなければ變つて下さいのであつて、子の苗字が父親の苗字であるとか母親の苗字であるとかいうことによつて私生児であるとか私生児でないとかがわかるというような滑稽なことはなくなつた。非常に自由になつた。

それからまた夫に死された場合は、元の娘時代の苗字に戻るということは、夫の親兄弟との間に夫の親権關係、これを新法では母は、切り離すこと、一切ないでおくことも、自由にできるようになります。そこで姻族關係を加れば、そういう人達との間に夫の親権關係を取らうとしたけれどもその第二の夫が、「あなたは谷桃子という名を名乗つておられたが、姻族關係は切らない」というのであれば今まで通り夫の苗字を名乗つて、しかもその名が死んだ夫の苗字であつても別れた夫の苗字であつても夫つとも構わない。

左だ第二の夫も一緒に名乗つてくれなくてはいけない。

四、相続の平等

夫婦の問題は、めぐらしくして、夫婦の相続の利益の保護法というところは主として娘子の問題です。

ら相続し、次の「相続の平等」というと云ふを認用する」といふ事です。

可相続者は家督相続という嚴重な制度があつて相続人（渠別として長男）一人だけがその「家」をつぐと同様に家の財産を全部相続することになつてしまつたが、家督相続の廢止とともに相続は財産相続時代になります。

した。そして個人の平等をもととして新らしい相続の規則がつくりされました。そこで可相続人たる相続人は相続人は只一人でしかが現在は次のよろな順序で大ていの場合は何人も一緒に相続人になります。即ち第一順位は可子供と配偶者であります。すなわち死んだ人は子供があり、配偶者も残されたい場合で、夫もしくは妻（）は死なれて妻（もしくは夫）と子供とが残つたとなると、妻が三分の一、相続して、子供が三分の二を相続する。子供が一人のときは十人が男女長幼の別なしに三分の二を平等に分ける。だが子供が十人以上が一人がもうが妻は三分の一。三十万円の遺産ならば必ず妻には十万円というになります。

子供達だけにて配偶者がいなければ、子供達だけで父親（もしくは母親）の遺産三十万全額を平均に相続します。それが子供がない場合は即ち二順位になります。すなわち可親と配偶者だけが相続することになります。この場合は夫（もしくは妻）が三分の一、親が三分の一の割合で相続しますから、夫の兩親がまだ残つて健在であるならば、例えれば四十万円の遺産であると妻が二十万円父親母親が残りの二十万円を平等に十方内分つといふことになります。

この場合には妻もいひいで両親だけがいれば、四十万円を父親二十万円母親二十万円。妻とそれから夫の父か母かどちらか片親とがいれば、妻二十万円片親二十万円。父も母もない、そろして兄弟姉妹がいるといふ場合が即ち三順位で、この場合は妻が三分の二、残り三分の一を兄弟姉妹が平均に相続します。

だから夫の遺産が三十万円なら二十万円は妻が相続して、あと十万円を兄弟二人なら十万円ずつ分ける。この場合も、妻がいなければ兄弟姉妹が片親に相続する。やはり夫とは、男のきようだいと女のきようだいとを差別しまして、男のきようだいが女のきようだいに優先しますが、今度は兄弟姉妹としても男女は平等になつたわけです。最後に夫の兄弟姉妹もいない場合は夫の遺産の全部を妻が相続できます。

ただし以上申上げたことは別れ遺産がなかつた場合でありますて、例えば「自分には三十万円財産があるがそれは全部医師会に寄附した」とか、自分の有の婦人少年局にすべて寄附したとかいう遺言書が現れた場合は

お石としま付と。法律で夫（順位と定められてゐる場合の相続人）すなはち子供と配偶者、または兄弟姉妹はいなくて子供だけ）は三十万円の中の半分までは法定の相続人た自分達は遺留分として残してほしいと主張して、医師会なり婦人少年局なりから返してもらえば权利を持つていい。

まわる第二順位の相続人（すなはち親と配偶者、または親だけ）は、三分の一を主張できます。しかし即ち順位である兄弟姉妹にはこの权利はありません。

それで専ら嫡出でない子（すなはち父母が正式の結婚届を出していない場合の子）は嫡出子（すなはち父母が夫やんと結婚届を出している場合の子）の半分の割合でしか相続できません。

ですから結婚届はない離婚の時子供の問題になるばかりでなく、子供のことは非常に影響してくると結婚届が出てない間柄の子供で、例えば本妻の子供でなくてあ妻の子供で、夫が認知して自分の子供であると認めると子供は、しかしながらかつ本妻の子供の半分しか相続できぬのでありますて、遺留分も半分しかない。

それからもう一つ、父親か母親かが違うときようだい、すなはち異父きようだいまたは異母きようだいも、父母を同じくするときようだいの半分しか相続分を遺留分もありません。例えば妻が死ぬなり離婚なりして後妻が夫の妻になります。そして夫と先妻との間に子供A・Bがいて後妻との間に子供C・Dができるとします。そうして先妻の子供Aが死んだとしますと、Aの遺産はAの子供と妻が、子供かいなければ親と妻が、親がいなければきようだいと妻が相続することになります。

いま話を簡単にするために妻もいなかつたと假定して、Aの遺産四十万円をAのきようだい三人すなはち夫C・Dが相繼するとします。この場合AはとつてBは父も母も同じくするきようだいですが、CとDとは、夫だけが同じで母は異なるきようだいすなはち異母きようだいです。そこでC・DはBの半分が付しかAの遺産を相繼できませぬつまりBは二十万円、CとDとは十二万円の相繼するわけです。

問 財産相続のことまでございますが、例えば娘に財産があつて、男の子が三人あつて、その中の一人の男の子が家内があつて子供があるけれどもそれが死して未だ人が死んでいた場合にははどうなりますか。

答 いわゆる嫁舅の間には相続权はありません。相続权というものは血縁の間でなければありません。妻は問題ないが、子供は代襲相続といつて、十萬円を均分に相続しますからこれが五万円、これが五万円ということで相続する。

問 内縁の妻という名前につきまして、内縁の妻というのは結婚しておりながら正式の妻をしていないのでお妻さんでない。この間麻薬事件で「大人の内妻を使つて……」と書いてありました。大人の人とを部屋で結婚しているというのでしようか。

答 結局内縁とかお妻さんとかいうのは通常の妻の環わし方で、法律上で言之ば妻か妻ではないかの一つしかないから、内縁の妻という中間的な存在はない。妻か妻でないかの二つしかない。しかしながら実際内縁としましては、そういうふうに妻が本妻となるのはいわゆる二号三号という場合と、單に答宿居がしないけれどもたつた一人の女の命があるという場合があります。あなたのおつしやるようになつた場合が何でも二号三号と大体同じ人を持つていてる分でなくて、一人の女の人に配偶關係を持つていてるけれども結婚届の出でない分で、自分が内縁の妻であつて、妻が別に居るのに又他の女の人を居る場合にはお妻という風に媒離で使つてありますから、その時の新聞の記事を、そのままの方で行きまことに、内縁の妻が何人もいるのはおかしくないので、自ら内縁の中にも本妻的な内縁と、お妻さん等いはもの、あるいは全部かお妻さんみちがひ意味で妻のようなる人の人がなかつたか知りませんが、法律では妻であるか妻でないかという二つの分け方しかないので、実際問題としては、実際にはやはり一夫一婦を立て直していくので、それは夫であり妻であり世間を離れているもので、なぜ私が出でていないういいう妻七世の出にはあつたわけです。そういう中にも不健全意味で本妻が実はあつて結婚しているから、三度の結婚ができないから本妻は北海道に置いて東京の女と夫婦同居をなしていいたという場合もあるであります。それがまた一夫一婦の前に苦はり代理相続の権利がござりますが

答 もろん子供は相続することができます。

問 財産の代りは真儀を残した場合はは?

答 相続人はプラスの財産の限度でこのマイナスを支拂へばいいという形で相続することができて、どちらも相続することを承知いたしますというの外限定承認という、單純承認というのは、プラスもマイナスも引つくるめて引き受けの宣言。これは非常に親不孝ひ相続で、相続者親は一子あるものは親の借金を認めると認められるのが当然だという意見があるが、これは旧法時代から認められていた。親の借金を一生資産つて行くといふのは全く違背でありますよしあかねうかの親の借金を資産うどいのは、いい意味で資産いわれれば資産つてよろしいが重荷は左えがなければ勘弁して貰つてもよろしくといふのが法律でありますと親の立派なヤイナスといふのは債権者で、借金しなくとも必ず債務者ほいるものであります。いふ人と取引するという所は、親がどれほど借金があるかないか相手でかかるなければならないが、親の借金までは勘弁してもらつてもいい。その時は自分の妻や子供を干ぼしにして、親の借金まで資産わざなくていいといふのが法律の趣旨でありますよしあかねうかの親の借金を資産うどいのは、いい意味で資産いわれれば資産つてよろしいが重荷は左えがなければ勘弁して貰つてもよろしくといふのが法律であります。

夫婦が普通で、夫婦の間にはどうかと思う。今は学者の研究の一つで、なかなか問題ではない。裁判とする解釈の仕方が司法以本取られて、山ありますから、今後改正される。どうやく改正になると思います。

問 着子を迎えて妻がなくなり、その後娘を育つて、その後娘は子供が生まれました場合は、どうなりますか。つまり、娘出子と全然同じ地位を争なせらるのか着子ですか。

答 から同じだけ相続できることになります。

終り

# 新教育制度について

—お茶の水女子大学教授 国郷 博謹述—

中央婦人指導者講習会

講議録の五

本稿は一九五〇年十一月三十日より三日間にわたり日本医師会館で開催された中央婦人指導委員会に有ける講義師の講義記録です。

講習会は婦人に關係ある法律と制度について研究し、受講者によつて前席团体の方々にも広く傳えていた。よくよう計画されたものでその内容は次の五つの法律

並に別表でした。

これを講義題毎別に分類して出版いたしました。前面の都合で講義の内容を簡潔いたしました。教術りいたします。

記

- 一 國際連合の諸問題 日本国際連合委員会理事長 山形誠
- 二 社会保険制度の方向 昭和大学大學生教授 高木信芳
- 三 労働者の権利について レン橋大学教授 喜光
- 四 法律の結婚・相続を中心として 田中芳根
- 五 新教育問題について 井手水木大学教授 郡原博

一 教育の政策  
二 教育改革の論理  
三 教育政策の実現  
四 日米の教育を比較する  
五 アメリカの教育とアメリカの社会

六 日本の教育と日本の社会

一 資料

17

二 プラウ

# 新教育制度について

講師 お茶の水大学教授 周卿

博

「戦後の教育」

人二つの使命 国報告書

新しい教育の制度と言いますと、その新しい教育制度の中で、一番重要なことは、中央集权の教育制度が敗戦破壊されてなく立つたということです。戦争が終つた翌年の三月に、アメリカから二十七人の講義師團が日本に参りました。その二十七人の人達が、戦後の日本の教育がどうあるべきであるかということについてマックアーサー元帥に報告書を提出したのです。このが一回の教育使命團の報告書といふものは、日本の終戦以後の教育の制度及び内容の一切を含めて、基本的な改革の件を明確に示して貰われたわけです。この報告書の中で言つてあることは、戦争前のような天皇の絶対権を中心とした中央集权の教育制度といふものを止めなければならぬといふことを書つた。教育を、人民の意志によつて行はれるものに變えて行がなければいけない。その場合には今まであつたような文部省の督学官というよきものを止めてしまひなければならぬ。それから固定の教科書というよきもの、中央集权の手段として設立していたしのを止めるだけならぬ。その場合には今まであつたような文部省の督学官といふよきものを止めていたしのを止めたのは第一回の教育使命團報告書であります。その時から今まで四年半ばかり経りました。今年の夏、教育使命團が又参りました。これは大人の学者によつて構成されたけれども、こういう法律のものは余つたのは第一回の教育使命團報告書であります。その時から今まで四年半ばかり経りました。今、ライード、ギガエンスという人ですけれども、その人はアメリカの青少年の不良化が非常なほどくなつた、今年の夏、教育使命團が又参りました。これは大人の学者によつて構成されたけれども、こういう法律のものは余つたのは第一回の教育使命團報告書であります。その時から今まで四年半ばかり経りました。今改めて教育使命團の報告書を讀んで、同じいのですけれども、五年は

かり前に日本の郵便局の試験を通過して自此日本へ移住する。この間の間は、日本の郵便局の郵便局員の報告書が日本へ運ばれてゐる。その二回目の報告書は、日本の郵政省の会員の問題を含む場合に最も立つたものと私は考ふます。

## 2. 教育改革年の講演

最初の報告書の序で皆こんなに特に私は知つて驚いた、と思うことは、こんなことだとあります。オーナーの報告書の序には日本はみんな、過るしのせれひくらひ併合生活をしておりました。けれども食うものは食ひなくて、さつまいもがなんが食ひていただけですけども、そして少し、そういうものが食ひてあるだけですがその頃は公は慈悲心のために門前で可、戰争に負けておいて、勝るものも食ひうるもなく、困つていた頃の日本人に対して、オーナーの英國はこの餘る日本人を運営づけて、日本と云ふに付する間に立上げて貰いたいという効果で報告書を提出しているのです。その中で、日本人の人々を用意付ける日本が二つあると想ひます。一つは、アメリカは決して日本を植民地にしようと考ぢないのじやない。だから日本の人々はアメリカの教育を実施するとしているまい。日本人は日本人としておじり文化に貢献するものを持つてゐる筈なんだから、アメリカを模倣するということであるく、せうの新しい文化の角に日本人が貢献し得るという新しい文化を採り付けて行ひなければならぬ。戦争は負けたからといって、日本のことはすぐ忘れてしまおうというような卑屈な心を持つてはいけない。日本がどれかは政治的の真似方をしても、日本人は過去の文化が失敗から切られてしまふということはあり得ない。しかし、日本人が負けた瞬間から日本のはすべて悪い。アメリカのものはすべていい——決めづらといつようなる者が居つて、決していいでない。日本の過去の文化の中で價值のあるものに向ひあつて、價值のないものは向ひあらかといふこと五ハッズリと日本人は區別出来なければいけない。どうして價值のある日本文化を絶えさせようと考えて何か心地ればなり。こういうことが歴史の日本人を教えして、

る東西文化ポイントの一つを想起します。

もう一つは「日本の教育」と申しますけれども、教師達は日本へ日本は母親を送り対してもうつたえて、このは教師のいい言葉など私は思つても味いのある言葉と申しますが、日本の人は教育によつて新陳なる精神から解放されるのだ。つまり日本人は新しい自由を獲得しにつけられども、然し自由といふのは、自由を実行することによつての私権を此ることじつうこと、自由といふ言葉は它何となく自由であるといふふうなことではないのだ。あるいは自由といふ言葉をもたらすといふことは非常に別しいといふことで、自由を実行することによつてのみ自由は獲得されるのだ、ということを日本人の人々に教えて、いるだけです。

この二つのことを私はもう一度語り直してみたいと思います。始めに申上げたことは、教育といふものは、その社会の文化といふものを考えるとハサキリ認めない。教育は單なるテクニツクではないのだと、うことを重視のほうに教えて、いると思います。これ以降は、二段目、ヨン・デニードの英語をしばしばアメリカの入連にうつたえて、いることに云ひ、教育といふものは日本学校の田つの壁の中で行はれるものだといふのが、する人が多いわけですが、それと同じように日本の人達は、学校の中だけで行われるものではない。その社会の人々がどんな文化を考つて、いるのか、その社会の人々が何を學ぶか、それが、どんなんの入連にうつたえて、いることは、結構にもう一度考む。こりいふこと、ヨン・デニードのアメリカで蓋されたりのだと、いふことです。そしてそれも、ヨン・デニードの日本は、日本は、日本は、日本といふものが一つのポイントを人手すれば、もう一つのポイントは日本といつるのは、自由を実行しなければ成らぬからだ、ということです。そしてそれも、ヨン・デニードの日本は、日本といふものが一つの力で可いわけですが、それと同じように日本の人達は、学校の中だけで行われるものと、社会の田つの壁の中で行われるものではないのです。日本は、日本を守つて、いるといふです。日本は、日本といふものは、やういう個人的なものでなくて、社会的な自由でなければ、いけないので、日本は、日本といふものは、やういう個人的なものでなくて、社会的な自由でなければ、いけないので、日本は、日本といふものは、

思ひます

ので、歐州の元老は日本が朝鮮を占めることの出来ぬ大國であるけれども、その点では、日本が何よりも強くなつてゐる。それで、日本は、その力で、ヨーロッパの開拓元といふ方法で出来てゐる。ヨーロッパの開拓元は、日本の教師陣は、新しい教育は、うまいに仕事して單元によつて出来て、日本は、

いと考へる。日本は、單元で、いろいろな教科單元の名前をかつて单べて、單元によつて出来て、日本は、

の学校に行つて見れば、直ぐに分かります。單物をつくることは、國は、必ずござつて、くだらないものから多く

少趣味があり、そつたと想むれる單元が教職りあく並べられて、二とを齒職は御存知に立と想ひます。

さういうよろ卒ことをやりざえすれば、新教育は、私つて、いふふうには考る。この考は、方本質に自由をもつての

新教育達がやるべきことでは無い體です。

三つの点をもう一度確認します。教育というものは、学校の教育の中だけあるのではなく、工場にもあります。それ、街にもある。あるいは、農場にもある。そういう社会全体の人が树に活動し、树に対しても不利にならぬ持つているが、ということによつて、教育は行われてゐる。学校はその中の極く一部分をんで、そういう社会全体に行かれている教育を、アエーイの芭バガトカリと学びると、学校といふのは、そういう社会全体の生々生きていたり、それを組織化したのが学校なのです。教育は、學校の體の中に押し込めてしまうといふ方

では、新しい社会を育むことはできないのです。それから、すぐこの日本の教育運営は、すへて、日本の日本の人々と、矢張直由というものを自力で獲得するといふ即ち、自己が育むられるのだ。アーリカ

の日本は、日本は、日本の産業を詰ひつけなければいけない。アーリカオーバー、それから、すぐこの日本の

メーリカでは、ある學校がこれらと、いう教育をやろうといふふうに計画する時には、その地域の商工公會

の日本人達と、必ず相談する所を設けます。若しそこが非常に過剰公會で材木の枕り出しがかりやつて、この地

の地を育てゝあると、内れわらが日本の教育も、多少し負担をもつておかることがでるのではないか。

それ、アーリカ、元節が承認して、いることを認めます。こういうふうに考むければならないのです。そ

こで私は、教育というものは、社会の改造ということと直結していく問題である。うると申上げて、有り得

です。それでのことにつけて、アメリカのお話を少ししておきたいと思います。

## 二 日 米 の 教 育 を 比 較 す る | 教育と社会

### 1 アメリカの教育とアメリカの社会

アメリカと二国は、今でも國では、ないかも知りません。日本のよろ不思議な國では、ないといえましとう。今でもエナイティッド・ステートで附が運営して、いるめげです。アーリカレバ、二国は、いろいろな民族が集つて出来上つた國です。このことと先づ皆様は、かくてよく思はれるところです。アーリカ人は、改

ん不思議を證すといふふうに思はて、いる人がおりますが、これは大陸国流です。夙任で、アーリカは、改

で今度一億五千万人は、があるといふことに取つてあります。この一億五千人のアメリカ人の中で、一千万以上の人人が英語と習熟を達せは、達してはいらないのです。日本人ならば、東洋國の人などは、西洋が少し難

いまま受け取らし大体日本語を話して、いると思ひます。アーリカでは、アーリカといふ國は、二十世紀

まで、十五年間です。だから、これが、何れわれ考えなければならぬことは、アーリカといふ國は、二十世紀

の初めより根本だと考へてもよい。ツヨシタ、ワシントンが、もつて跡をアーリカには、ある

本の現在の東洋の人に、よりもつと少しとかいなかつた。こうのうようふうかい、うな民族の聚りは、よつ

し外にない。半分以上の学校が、生徒が一年から六年まで、合せても、十万人くらいし内地で、

大きい處に、やつたりと人間が住んでおりますから、むろろん英語を話す。アーリカの洋服は、一生懸命努力してあります。さうのう

刀してありますけれども、農業の実務を握るから、別に、農業を務める人間見付一割以上あります。なん。再版

全体は一千二百万人以上である。丁度その時全員半数は満州出稼をしており、一集落あたりの子弟は十人以上である。ナチスが政敵を廻つてゐた。そういうよう空時代にアメリカの名媛達一千七百五十五人で居ておられたが、元二十年代の十年間と、うの日本、アメリカにどつては非常に空氣で、平穏で、何でも巧く行くというようである。年間と、いうものはアメリカにどつては非常に困難な時代で、反対。

一般失業者はついで見ても、百八十人の状態でなければ、公私教育に復帰する大半が國難になつてゐる。この頃のアメリカの學生や一般の青年生徒は勿論、失業者が親を育つてゐる人達は學校を止めなければならなかつた。こういう學生や一般の青年に向つて、アメリカ連邦政府は丁度アルベイトシートの上の方々のものであるが、あへしらものを依りまして學生に仕事を与えて、アメリカの中央政府がその仕事を介して賃銀を持続。この仕事を一般の失業者を大變させるような仕事をさせては困るわけですから、つまり政府が前もしていろと仕事を教えるとか、補助金などといふこととやらせて育少年の失業者を救済し、彼等は學費と政府が与えてやらといふ事を主としていたのである。しかし私がから青少年の失業者は益々多くなり、こういう人達が不景気化してカリモーティーの、さつと寄つた所で二回の教育便断開の結果はウイリアム、ゼベンズという人が西東の一人として加わつて、全米の青年委員会というものが出来た。一九三五年、ルース・ケーリーが大統領になつた翌々年にアメリカ青年委員会というものが出来ました。この委員会がアメリカの青少年の問題を調査いたしまして、幾つかの報告書を出して、やりけです。この報告の一つによると、その時のアメリカの青少年年齢には犯罪が非常に多くなつて来た。これはアメリカの青少年率が特異的といつてなく、アメリカが組織されられてから、アメリカは之ラーラーとは云ふ外つた。そこでアメリカの人民は、この青少年の結果——青少年と

は小学校だけある。しかししかるが三〇年代の才覚においては、アメリカの教育問題は青年の問題を抱んで止めてアラアラと社会を攻撃している。あるいは中学校を途中で止めてアラアラとしている。この青少年は間違っているわけなので、したがつてアーリカの大学とハイスchoolとほい外といふことと同時に、アメリカの社会全体はどう改善して行けばよいのかという問題を抱かざるを得ないわけです。もちろんルーベン・エルトのニード・デイールという新政治政策は、外より進歩的な社会政策を考える者をさうした方向へ引くに成功して行つたから、これが社会改造の基礎を直結してささげるを得ないということとハフモリ講話を除けては、さういう點で歐米の開拓として日本は未だ人選せり。今度はようやくアメリカの三十年代から才次世界大戦にかけてのアメリカ社会を背景にして考えられた考え方で日本の教育を考むついであります。ところが日本ではどうでもなくて、アメリカの二十年代の教育の傾向を以て、而けが入ることでいるといふように考えられました。さういう傾向をもとに改めるために私は教育使節団が乗じて二つの報告書をよく見る必要があると断りました。どの見る場合の感想美として私は三つの問題を先づから挙上げておつくりけです。どこで私達はアメリカの教育から何を学ぶことを教さざるかということとその次に中止せなければいけない事です。私達は先程申し上げた通りに、アメリカと之の国際的いろいろな文化交流を始めました。しかし世界の海を押し渡つて新大陸にやつて来た人々です。つまり彼らは赤旗は希望を持つてアメリカに渡つたのです。したがつてアメリカ人の最も勝れた点といつのは、日本人が日本人はそうではないので、今の人はいかがが未来に希望を持つてゐる。赤旗はよくあるといつの施設を持つてゐることがアメリカへのいい氣分を出します。ところが人が「物と力」という意味は日本の子供のうち方を述べてあります。子供は学習上よりう寧ぶかります。かの軍を育むと成る人間はこれと反対です。日本が子供はどうであつて成るかといふと日本

の子供達は小さい時に非常口甘やかされて育つ。幼い時代を非常に豊かに過ごしていける。眞つてのその古事によつて、じつは地獄さじようとしている。と三ろが段々成長するにつれて日本の中の子供達はだまつては娘はほとんど自由といふもので時々友人同になる。日本では世間といふのは辛いのです。それで日本の人達はとつては、自分の切かつた時代が唯一の懐めもんで、すべての日本の人々は自分からまだ内が走る神様であつた時代、いうものを心の中に持つてゐる。と彼女は言つてあります。つまり日本の人々は一人一人別にとつて私ども、樂しくてよかつた時代というものは自分分の時代にある。つまり過去に考へても実行でないといふ人間は考へなくほつて来る。そういうふうに、娘等が考へてゐる、選するに考へても実行でないといふ人間は考へなくほつて来る。そういうふうに、娘等が考へてゐるには未來といふものは我々よくかつて考へなければなりません。つまりアメリカの三百年の歴史を重いで、親の時代上りも子供の時代のようだ。あるいはその子供の時代よりも娘の時代がさらにいい社会が出来たのです。娘さんはよく知つていても冠りますけれども、アメリカの人達はプロンティヤという言葉で表わされています。アメリカの人達は子供の好きな民族といふものは世界中にはないと考へられてあります。日本人も子供が好きですが、フランスなどは子供は飼はず持つておらず、そういうふうなアメリカ人の婦に見る子供好きというような性格も、アメリカの人々が三百年の歴史をしてきて日本に希望をかけて生きて来た人達などということと関連があるのです。子供は自分達よりもむづといふ未来の社会を築くのをという趣向をアメリカの人は持つておられます。こうして娘は他のいろいろなアメリカの映画にも抱かれたりやられたりはアメリカから学ぶべき重要な問題だと思います。

## 2. 日本の教育と日本の社会

そこで日本の国體を少し考へます。日本の人達は自分がいかの國體云の時代は、つまり人間が本物の國体、即ち神様であつた時代だ。そのものを中心の中に持つてゐる。それと何と云ふかと云ふと、一番樂しいわけです。日本の入屋はお酒を飲むと太田山長の孫に至ります。ベネチアトロはやはりどうぞと云つてゐる。西洋人はお酒を飲んでも子供のようではありません。しかし日本人はお酒を飲むと自分の心のままを相談できると感じられます。そうしてそこが彼の懇意の心である。そういうふうを、アメリカとは違ひ、丁度昔の頃が日本に多いだけです。ある人が、日本とアメリカは、地域のどちら側と向う側だから何でも反対るのは当然だ、云ふことを考へた。その人は日本に来たら恥恥すところにはのぼらして恥恥として云ふのがと考へたそうです。けれども考へたアメリカの方は手紙の宛名を墨く時は、一番最初に名前を書く。それがわざと書く。それから地名の名前を書いて、東京都とかなどと書く。日本の方は違う。日本の方はうれ正しく、その文部省、河町の向島地で、それから宛名を書くのです。けれども考へたアメリカと日本は、必ずしも正しい。それがあつた時、東京の文部省が考へたことがひどい。それが考へた結果は、その次に各地で出で来てもし上りといふことです。日本人は、日本のことを考へて来て、アメリカのことばすへて、ひどい。それが考へた結果といふものと全く同じように考へた。

のがん知れど

使節団の取扱ひの不適切の所で、日本は、日本の社会の改  
革と、日本の教育の改革と、その二つのを直結して、直接もつて、仕事不勤しく怠慢して行かなければ、何事  
かと思うのですけれども、その場合に、まさに問題が渋山ある。」  
「第一、これもアメリカと同じようですが、行  
けでなく非常に増加しすぎて、それで困つて、三妙園怪つと旅人効が渋山ある。」  
「第二、これもアメリカと同じようですが、行  
人やつの旅人効が生じているというわけです。その中でも日本よりアロングショーンの方がなかなか高い。  
日本では一年に二百七十万人ぐらゐの旅人効が生れて、いる。この問題は日本はどうして長いへん大きな問題  
だと考えむけれども、そこは、その問題につけて、簡単に言ふことを一寸申上げ  
ます。明治の初め頃には日本は三十万人口の人口しかなかつたが、福井銀郎の頃には一千七百万ぐらゐの入  
口しかなかつた。奈良朝の頃には、ある人が調査したのでは七百万ぐらゐの人口しかなかつたそうですが  
、柳武天皇の頃から明治の初めまで、日本の人口は非常にゆるぎて増えていたのですけれども、  
明治の初め頃から今までの間に日本人には八千万を越える。そしてこの無数の戰争によつて此の力  
は今までの殖民地を失つて、さらにこの度、四つの島に押しこめられてしまつた。これは日本の社会の内  
閣で下けり公し、日本の教育の問題として馬鹿小僧ればならぬ事がなことです。教育改造と社会改造  
は一つの事務の表裏です。一つの事務の表裏に、教育の改造と社会の改造があると言ふことは、新しい教  
育の見方です。

そこで人口の問題については、明治の初め頃の三千万ぐらゐの頃、日本の人口は、福井銀郎を始めとして  
あり、廣の人口は、健全な常識をもつてものと考えられたのです。ところがこれは丸山良男氏が書  
つてゐるが、明治三十年代には、人口が倍々倍々と多くなつて、日本の人々の生活の空間といふのが、ある  
いは自由に行動し得る生活の範囲といつものか狹められてしまつました。そういうふうなことで上つ  
て、人間は公々うつらうつら渡つたりといふと、人間は物を居るといふ。シタ放棄するようになつて、参りました。  
したが、文字の遊戲をするくらは出来ますけれども、眞剣な事実を考えて、から何が生まれ出でるかよ

うな態度を取るかうようになりました。私はそれからもう少しやりたいとも思つたけれども、渋山は  
男性的利用していることと、明治三十一年が九年頃の、藤村秋といふ人の著述の範に詠び込んで、宣傳して  
さうしてその頃に日本の知識階級といつもの日本人が壁透して来た。日本田舎が芝の匂は、自由といふ  
ものは山林の守護しかないと、詩を書いて、いる。自由といふものはこの社会の中には守護としてあるので  
なく、また、豪華山林の中には守護しかなくなつてしまつたのか、と書いて、いる。どういふのは、人間がある空間を持つ  
て居つて、その空間の中で自分が自由にあることを考えて、その店をほことと実行して、その結果が現れ  
たところに押しこめられました。堅国内に敵は日本をよくてお互同感が手済し合は、あるいは政府が強硬をも  
つて、國民を縛り上げて、そういうふうな点でアメリカの人は、日本をいふようにあつて、いつもひんた電  
車の中のように押し込められて、いはん連が、乗つて乗車に基いて物を正確に考むと、新しいものを見出して  
行くというよろな思考力が生じて来るかどうか。つまり今の日本人達は、いろいろな新しく文字は使い  
ます。流行の言葉は使います。哲学のよろ公言葉を使つて、いはん連はやたらに多いけれども、娘等は娘先  
介はここで勤しむ教養を上げようと言ふにち、それを実行し、これによつて成績が現れてみると、どうよつて  
場合に、それを実行した人の思考力は生き生きとしてくる筈です。そういう人はいい加減ることは意の不い  
ます。そりうことか、その人間を成長させるものです。この日本では、何でもこれまでどうと考み、  
これまでどうと考えるよりは、考える餘地がないくらいの事は、始められは生活の中で重視しかけています。  
そこで日本における教育教師田代桂作、三四七年日本の人達に対してこれ以前も大まか問題は、つづいて  
とつて、とにかく日本の行うべき事です。國語の改進といつて言葉を子供で不

いが加減で言葉を守らざりて、彼等はよくとつてお辭儀をして、田舎の百姓屋の中的の西山に水を張っている。入の田じさんと結し合つてからもござり、日本の國会にいるインテリの使つてゐるやしげな言葉は一矢も使つてない。生々生々した言葉で話してくれば、話しかがり候等はほんとうに考えてゐる。ところが日本にはあやしくなインテリばかりが増えてきておつて、そういう人達は物を考えていない。

この他にも沢山問題はあると想ります。日本が民主化された場合には、學校の中は民主化が行われるのであるんで、家庭の中には民主化が行われなければいけない。あるには工場の中にしそういうことが出来ないよう。子供と親がほんとうに反対として反対として使うことが出来らがどうかということにその問題はのがつてゐる。日本の親達は子供に頼みやれといつて、その結果を見ない。結果がどうであつても、いふことはあります見えてなり。つまりやれといつたその命令を素直に実行しながどうかということはおもこりますが、子供があることをやつて結果、それがその家庭なり社会なりの人々にとつてどれだけの社会性を増したかといふことを見てやつて、感謝の気持ちを述べるといふことをしません。家庭を掃除をさいしと言つても、やはり庭を掃除されといふことで、感謝の気持ちを述べるといふことをしません。家庭を掃除をさいしと言つても、どうもアメリカの先生なり、教員なりがいつて掃除したならば、そのあと行って娘こへんに掃除したからこんなに気持ちよくおの上にとまり空ければ、子供達は何の張り合いがあつて仕事をするでしようか。どうもアメリカの先生なり、教員なりが書かれると階層の中に入りてしまふ人がいるさうです。そういうことは学校においても、家庭で子供と生活している家庭においても改めて行かなければならぬ。五部隊をさせてもし、それに対して心から感謝すると、子供達はそれをやることは張り合いを感ずる筈だが、そういうことは考えないで學校の社会科をやつてゐる。日本が民主化されていい社会になるには、家庭の民主化がまず行われなければならぬ。まだ問題は残っておりますが時間がなくなりましむがわちこのへんで質疑応答の時間でしに」と思ひます。どうぞ御自由申立て下さい。

## 質疑應答

問

新教育制度になりまして、今までの教育より程度が落ちたということによくききますが

答 本当に落ちたわると思ひますが、しかし落ちたわると言つても今までのものよりは少しの子供達は持つてい石ということも思えなければいけないと聞ります。學力が落ちた、ということを考える場合は、大抵国語や算数を考えますから、その能力が落ちた、といふうに考えますけれども、學力とは何かということを、今までをすべて網羅算にして考える必要があると思う。學力とは、一人の子供が、せの中に生きて行く時に必要な一切の能力だらうと思う。努力ばかり持つていても今までの社会で生きられないものは基礎的知識なので、つまり守を持たない人は物を造れませんけれども、つまり努力ければ、それがよく出来なければ、それ以後に発展するような生活と直接関係のある能力が進まないのです。日本の歴史の小学校の人達は、算数や国語を重んじておけませんけれども、算数や国語を授業のよう全部でなく、一人一人の小供がほんとうに生きて行くのに必要な算数や国語にしてやるということを考えてやるだければ、それがよく出来なければいけない。アメリカの小学校の一般的の状態を調査したものがあるけれども、アメリカでいう内證的なことがよくわかるようになると反対ならば、自分で創造がつて是なり、それを机に現わして見るより、自分がいろいろなことを自由に表現するということによつて、今まで書つたものは自分のものになれる。そのものは学級の内容に問題がある、ところが算数や国語が出来なければ社会科も理科もわからぬ。それは、小学校では算数と国語のために全体の時間の三分の一以上は使つてあります。それで音楽や理科といふものはは争点の内容に問題がある、ところが算数や国語が出来なければ社会科も理科もわからぬ。そういう内證的なことがよくわかるようになると反対ならば、自分で創造がつて是なり、それを机に現わして見るより、自分がいろいろなことを自由に表現するということによつて、今まで書つたものは自分のものになれる。そこから三段階によつて出来上つたりるので、算数国語を勉強している日本の高校はよくないと思うと、理題的を取引、論議をするなどはうことは難しくて普通にはとても出来ないといふ気がするんで

立ち、危険な状況に立たざる事なく向かうと想ります。

答 次第が絶つてから日本の人生は無事どといふことを放ることをやめよと考へられたが、

元三〇年以後、オニヤ世界大戦に向ひて、アメリカの人種が一番遅れて立派ことは子供の歴史です。しかしそれは戦という結果でなく、婚姻の民族とか行動的研究といふものが中心になつて本通りです。皆のようには児童の心理などという意味の語を用ひかねました。子供の成長の能力と行動の態度といふうに児童の心理などという意味の語を用ひかねました。子供の成長の能力と行動の態度といふふうに問題をつける考え方よりは、婚姻の民族とか行動の研究といふものが中心になつて本通りです。皆のようですが、日本の入管も少し戻りの問題を専門的ければいけない。戻りの問題は古い問題であります新しい問題です。それはいろいろなことがあると思いますが、一つだけアメリカの本と並んでこのまま申上げて申訳ないさすけれども——子供は戻りと書いますけれども、ひしひし戻つたりしても止めなれます。そういう面でなくもう一つのことを書えば、子供は誰かに寄り靠りをいふと西日本では子供はいい成長をしません。それ即一つです。東からも戻されといひと思つてゐる子供は戻さずとも戻るだけです。もう一つの問題は、子供は大半が入管だと誰かは戻れりざるということが大切だと思います。これは階級の面だけではございません。階級一気筒の面で、つまり誰かが戻つてみると戻うこと、それから自分は大事な役割を持つてゐる人間であると想りせること。そのオニヤの点について、例えば仕事をしてゐる、アメリカの子供は小さい時分から仕事をさせられていり。一丁した日本的小生の父は元は人間が元は人間としていることを感じてあります。こういう二つのことがいい駆け出でつて行く所向は大らばそのお陰でみんな人がこんなに仕合で口をつた、こんなによがつねよと想つてやると、子供は自分は大事な人間が元は人間としていることを感じてあります。しかし仕事とてせだらけではありません。一様からも自分は費さざといひ、自分は何をやつても誰か見てくればいいと、子供は自分が小原台と想えるとよくわかると想うが、自分で愛してくる人はどこにもいなし、誰かに見ても自分はやつても誰かが見つけてくれない、みんなが誰かが戻るという反対の場合は、やつても誰かが見つけてくれない、今度は戻らせてもらひます。駆け出でつてやると、今度は戻らせてもらひます。

ううしそういふ方法で駆け出でることです。

前 先づの、アメリカで大三制を而かれたというお話をすが、アメリカではどういう心理学があつて大三制を而かれたのでしょうか。そして大三制の三年は、大学に進む子供と、又三年で止めて中社会に行く子供とありますけれども、どういふ事か! ―― だから、日本の小学校の中学校に行つていふ子供が高等学校に入りますには、試験に落ちてしまつて、ほんとうの教育が徹底しないように思ひますし、又三年でやめ公くちやからかい子供達が、ほの子なら與習以外に地理家庭のことも頼みわざでいるといふ状態ですが、そういう点、どういふ上うに私共母親は考へなければなりません。

答 大三制が出来たのは、一九二〇年代だということを二つご申上げました。それを考へる前に、アメリカ人というのはいろいろな移民によつて出来上がつてゐる。日本なんか伝と天皇に忠誠を盡せうと困つた人が全部ですか、アメリカなんかいろいろな移民が集つてりますから、学校を卒業してからまく生活が出来て鏈から抜けば抜けなければなりません。ところが二十年代に、アメリカの中学校、ハイスクールといふのは、まだ小学校が八年で、それが中学校が四年だ。それ以上で中学校で中学校で途中で止める人が多いため、いい転換につけていけない。自分で学校を卒業してからまく生活が出来てしまつた方が越外のいう狀態になつて、一方は經濟状態が非常に悪化して、ハーフ住で入る人もいろいろある。片学校も日本の大三制をつけていたが、日本が八年で止める人が多いといふことが何つかわらかで、それと八年のはうの二年と一年と二年にして、年の三月のあとは三月の方を別途開いてしまつた。

に入る人は止めるに止まざるゝ。これはアーリーの問題が現つた所で、當時の問題は、中大の問題と下のほうに下りて、つまり三歳と三歳にかけてしまつた所が、いじめや暴力的なものであります。下のほうだけを職業教育にしておけます。だから二十歳つかのコースのアメリカのジニア、ハイスクールにはある。上のほうのジニア、ハイスクールにこそそういうものがある。しかしそういふところには、若い人もアメリカに住んで、今のアメリカの學校の小、中學校、高等學校の一間社は私に學校で、金儲の学校が入つているから、そういう學校では職業教育をやることは反対です。やっぱり家族的小規模なやることを望んでいます。普通の公立の學校が職業教育化して行くことについても反対論を持つておられます。こつま申上げましたけれども、一九三〇年代の十年間に、青少年の不良、犯罪というような問題が大きくなりつて、教育を社会全体の問題として取り上げなければならぬといった時に、一つの問題としては、中大の學校をどう改進するかということの問題が起つて来た。ところが中等學校を改進するには大學の改進をしてやらなければいけないということと、これを一箱に考究したのが八年研究会という研究です。ところがその時代からアメリカは第二次世界戰争で、アメリカはアメリカといふ国だけを孤立していろいろな国に對抗する立場になりました。ヨーロッパとも交渉を持つて行かなければならぬ。そうなると問題が、ソ連がヨーロッパで蘇聯として参りました。ヨーロッパとも交渉を持つて行かなければならぬ。そこで、問題は、日本の問題がよりと解決できるいい改進か、アメリカから与えられるところと、二つはあります。問題は、どう簡単かことではなしです。

(終り)